

はじめに

男女共同参画に関する市民意識調査報告書の発行にあたりごあいさつ申し上げます。

平素、皆様方には都留市政各般にわたり、格別のご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。また、この度、男女共同参画に関する市民意識調査を実施しましたところ、多数のご回答をいただき深く感謝申し上げます。

さて、本市では、平成8年～平成17年の期間で、男女共同参画社会実現のための指針として「都留市女性プラン」を策定し、諸施策の推進を図って参りました。この中で、平成12年3月には「都留市男女共同参画基本条例」を制定し、平成13年3月には「男女共同参画都市」を宣言いたしました。

しかしながら、「都留市女性プラン」策定から10年が経過し、女性を取り巻く社会情勢等にも大きな変化が生じております。

そこで、「都留市女性プラン」に基づいたこれまでの取り組みに対する評価とともに、男女共同参画に関する現状と課題を把握・分析し、施策に反映していくため、この男女共同参画に関する市民意識調査を実施しました。ご回答いただいた貴重なご意見ご提案は十分に検討し、新たなプラン作りの大切な基礎資料として活用させていただきたいと考えております。

皆様方には、これからも本市の男女共同参画社会づくりに一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年8月

都留市長 小林 義 光

目次

第1章 調査の概要

1. 調査の目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査設計	1
4. 回収結果	1
5. 報告書の見方	3
6. 回答者の属性	4
7. 集計結果	8

第2章 調査結果の分析

. 男女の役割や、家事や育児への取り組みについて	33
- 1. 「男は仕事、女は家庭」という考えについて	33
- 2. 男性が家事をすることについて	34
- 3. 共働き家庭での家事・育児分担	35
- 4. 家事・育児等の分担状況	36
. 子育てや教育などについて	39
- 1. 「男の子らしく、女の子らしく」について	39
- 2. 子どもの教育について	40
- 3. 子どもとの対話について	42
. 女性が職業を持つことについて	43
- 1. 女性の生き方について	43
- 2. 男性が配偶者に望む生き方について	44
- 1 (1) - 2 (1) 女性が管理職になることについて	45
- 3. 女性が働き続けるための条件について	46
- 4. 職場での悩みや不満	47
- 5. 職場の男女不平等	48
- 6. 「男女雇用機会均等法」について	49
- 7. 日常生活での男女不平等	50
. 地域社会での活動について	51
- 1. 社会的活動への参加状況	51
- 2. 社会活動の成果	53
- 3. 社会活動の課題	53
. 高齢化社会や健康問題について	54
- 1. 老後の生活への不安について	54
- 2. 老後の生活形態について	54
- 3. 介護について	56

- 4 . 健康管理について	57
. 生活時間や家庭生活について	58
- 1 . 帰宅時間について	58
- 2 . 休日について	59
- 3 . 平日の過ごし方について	59
- 4 . 夫婦の会話時間について	60
- 5 . 夫婦の会話の内容について	61
- 6 . 夫婦間の「思いやり」について	62
- 7 . 女性の財産について	64
- 8 . 結婚後の生活について	65
- 9 . 結婚した場合の生活について	66
- 10 . 子どもを生むことについて	67
- 11 . 夫婦間等の乱暴な振る舞いについて	67
- 12 . ドメスティック・バイオレンスの実態について	68
- 13 . ドメスティック・バイオレンスへの対処について	70
. 生活や仕事全般について	71
- 1 . 生活上の課題や不安について	71
- 2 . 職場を辞めた（辞めたい）理由について	72
- 3 . セクシャル・ハラスメントについて	73
各設問に対する「その他意見」の取りまとめ	74
男女共同参画に関する自由意見取りまとめ	79
今回の市民意識調査に関するご意見と回答	82

第3章 資料

1 . 調査票	84
---------	----

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、平成18年度からスタートする新たな都留市男女共同参画推進プランの基礎資料として、都留市民の男女共同参画に関する意識と実態を把握することを目的に行った。

2. 調査項目

- (1) 男女の役割や、家事や育児への取り組みについて
- (2) 子育てや教育について
- (3) 女性が職業を持つことについて
- (4) 地域社会での活動について
- (5) 高齢化社会や健康問題について
- (6) 生活時間や家庭生活などについて
- (7) 生活や仕事全般について

3. 調査設計

- (1) 調査地域 都留市全域
- (2) 調査対象 平成16年12月20日現在、住民基本台帳搭載者及び外国人登録者で満16歳以上の人
- (3) 標本数 2,000 サンプル
- (4) 抽出方法 無作為抽出
- (5) 調査方法 郵便配送、郵送回収及び訪問回収
- (6) 調査期間 平成17年1月7日(金)から1月25日(火)

4. 回収結果

- (1) 発送数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2,000
- (2) 実質発送数(発送数 - 返戻数)・・・・・・・・・・・・・・・・ 1,984
- (3) 有効回収数
(回収した調査票から、記入のない調査票を除いた数)・・・・・・・・ 1,302
- (4) 有効回収率(有効回収数 ÷ 実質発送数 × 100)・・・・・・・・ 65.6%

【表1 居住地区別回収状況（人口は16歳以上）】

	人 口	発送数	返戻数	実質発送数	有効回収数	有効回収率(%)
合計	26,183	2,000	16	1,984	1,302	65.6
谷村	7,419	588	11	577	358	62.0
上谷			(8)		(177)	
中谷			(1)		(60)	
下谷			(2)		(121)	
三吉	1,931	147	0	147	94	63.9
開地	1,795	144	1	143	90	62.9
東桂	5,859	435	1	434	291	67.0
宝	2,145	162	1	161	115	71.4
禾生	5,880	444	2	442	254	57.4
盛里	1,154	80	0	80	57	71.2
地区不明					43	

【表2 年齢別回収状況（人口は16歳以上）】

	人 口	発送数	返戻数	実質発送数	有効回収数	有効回収率(%)
合計	26,183	2,000	16	1,984	1,302	65.6
10歳代	1,702	85		85	36	42.3
20歳代	4,439	269	4	265	132	49.8
30歳代	4,592	325	7	318	186	58.4
40歳代	4,194	330	2	328	219	66.7
50歳代	4,674	399	1	398	280	70.3
60歳代	3,790	352	2	350	267	76.2
70歳以上	2,792	240		240	170	70.8
年齢不明					12	

注) 10歳代は16歳以上20歳未満

【表3 男女別回収状況（人口は16歳以上）】

	人 口	発送数	返戻数	実質発送数	有効回収数	有効回収率(%)
合計	26,183	2,000	16	1,984	1,302	65.6
男性	12,884	1,000	10	990	559	56.4
女性	13,299	1,000	6	994	725	72.9
性別不明					18	

5 . 報告書の見方

- (1) 回答率はすべて百分率 (%) で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入し算出しているため、合計が 100% を上下する。
- (2) 2 つ以上の回答をする設問 (複数回答) では、比率の合計が 100% を上回る。
- (3) 総数は比率算出の基礎であり、100% が何人の回答に相当するのを示す。

6. 回答者の属性

地区	人 (%)
総数	1,302 人
上谷	177 (13.6)
中谷	60 (4.6)
下谷	121 (9.3)
三吉	94 (7.2)
開地	90 (6.9)
東桂	291 (22.4)
宝	115 (8.8)
禾生	254 (19.5)
盛里	57 (4.4)
無回答	43 (3.3)

性別	人 (%)
総数	1,302 人
男性	559 (42.9)
女性	725 (55.7)
無回答	18 (1.4)

年齢	人 (%)
総数	1,302 人
10 歳代	36 (2.8)
20 歳代	132 (10.1)
30 歳代	186 (14.3)
40 歳代	219 (16.8)
50 歳代	280 (21.5)
60 歳代	267 (20.5)
70 歳以上	170 (13.1)
無回答	12 (0.9)

年齢別回答者の特徴：

10 歳代から 40 歳代の構成比は 44.0%に対し、50 歳代以上は 56.0%と、中・高齢者の回答率が高くなっているため、実際の人口構成より、高齢者にシフトしている。

職業	人 (%)
総数	1,302 人
自営業 (農林業)	38 (2.9)
自営業 (商工・サービス)	97 (7.5)
自由業 (開業医, 宗教家, 芸術家他)	13 (1.0)
家族従業員	32 (2.4)
会社・団体の課長以上 (公務員含)	84 (6.5)
専門・技術的な仕事 (勤務医, 教師, 技師)	45 (3.4)
事務的な仕事 (一般事務, 公務員含)	77 (5.9)
販売関係の仕事	33 (2.5)
サービス関係の仕事	51 (3.9)
技術・生産・労務関係の仕事	93 (7.1)
人材派遣企業の職員	6 (0.5)
パートタイム, アルバイト, 嘱託, 臨時	178 (13.7)
内職	26 (2.0)
家事・育児・介護等家の仕事	105 (8.1)
学生	66 (5.1)
特に仕事はしていない	222 (17.1)
その他	136 (10.4)

居住年数	人 (%)
総数	1,302 人
生まれた時から	457 (35.1)
30 年以上	331 (25.4)
20 ~ 30 年未満	151 (11.6)
10 ~ 20 年未満	142 (10.9)
10 年未満	153 (11.8)
無回答	68 (5.2)

婚姻状況		婚姻中人 (%)	死別 人 (%)	離別 人 (%)	未婚 人 (%)	無回答 人 (%)
男 性		385 (68.9)	17 (3.0)	17 (3.0)	119 (21.3)	21 (3.8)
男性 年齢別	10歳代	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	19 (90.5)	2 (9.5)
	20歳代	14 (22.6)	0 (0.0)	1 (1.6)	46 (74.2)	1 (1.6)
	30歳代	45 (66.2)	0 (0.0)	1 (1.5)	21 (30.9)	1 (1.5)
	40歳代	66 (74.2)	1 (1.1)	3 (3.4)	16 (18.0)	3 (3.4)
	50歳代	96 (76.8)	3 (2.4)	9 (7.2)	13 (10.4)	4 (3.2)
	60歳代	107 (89.2)	8 (6.7)	1 (0.8)	1 (0.8)	3 (2.5)
	70歳代	55 (77.5)	5 (7.0)	2 (2.8)	2 (2.8)	7 (9.9)
女 性		490 (67.6)	75 (10.3)	39 (5.4)	87 (12.0)	34 (4.7)
女性 年齢別	10歳代	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	14 (93.3)	1 (6.7)
	20歳代	21 (30.0)	0 (0.0)	1 (1.4)	47 (67.1)	1 (1.4)
	30歳代	96 (82.1)	1 (0.9)	7 (6.0)	12 (10.3)	1 (0.9)
	40歳代	110 (85.3)	2 (1.6)	9 (7.0)	7 (5.4)	1 (0.8)
	50歳代	128 (82.6)	8 (5.2)	9 (5.8)	2 (1.3)	8 (5.2)
	60歳代	92 (63.9)	29 (20.1)	10 (6.9)	4 (2.8)	9 (6.3)
	70歳代	43 (46.2)	35 (37.6)	3 (3.2)	1 (1.1)	11 (11.8)

同居家族人数	人 (%)
総数	1,302 人
1人(自分1人)	113 (8.7)
2人	251 (19.3)
3人	291 (22.3)
4人	260 (20.0)
5人	158 (12.1)
6人	122 (9.4)
7人	34 (2.6)
8人	10 (0.8)
9人以上	2 (0.2)
無回答	61 (4.6)

同居家族構成	人 (%)
総数	1,302 人
1人暮らし	102 (7.8)
夫婦のみ	223 (17.1)
夫婦と未婚の子供	444 (34.1)
夫婦、未婚の子供、夫方の親	152 (11.7)
夫婦、未婚の子供、妻方の親	48 (3.7)
その他	206 (15.8)
無回答	127 (9.8)

主な家計維持者	男性 人(%)	女性 人(%)
総数	559	725
自分	369 (66.0)	327 (45.1)
配偶者	169 (30.2)	324 (44.7)
父親	78 (14.0)	80 (11.0)
母親	39 (7.0)	41 (5.7)
子ども	21 (3.8)	47 (6.5)
その他	7 (1.3)	14 (1.9)

末子年齢	子ども無	0～2歳	3～5歳	小学校1～3年生	小学校4～6年生
20歳代	64 (48.5)	26 (19.7)	2 (1.5)	0 (0.0)	1 (0.8)
30歳代	37 (19.9)	39 (21.0)	46 (24.7)	31 (16.7)	8 (4.3)
40歳代	28 (12.8)	1 (0.5)	12 (5.5)	24 (11.0)	44 (20.1)
50歳代	20 (7.1)	0 (0.0)	2 (0.7)	0 (0.0)	5 (1.8)
60歳代	11 (4.1)	5 (1.9)	7 (2.6)	2 (0.7)	0 (0.0)
70歳以上	6 (3.5)	0 (0.0)	2 (1.2)	0 (0.0)	4 (2.3)

	中学生	高校生	専門学校・短大・大学等	社会人	無回答
20歳代	2 (1.5)	9 (6.8)	4 (3.0)	12 (9.1)	12 (9.1)
30歳代	5 (2.7)	1 (0.5)	1 (0.5)	5 (2.7)	13 (7.0)
40歳代	39 (17.8)	33 (15.1)	13 (5.9)	11 (5.0)	14 (6.4)
50歳代	10 (3.6)	28 (10.0)	41 (14.6)	140 (50.0)	34 (12.1)
60歳代	1 (0.4)	3 (1.1)	3 (1.1)	189 (70.8)	46 (17.2)
70歳以上	1 (0.6)	2 (1.2)	3 (1.8)	113 (66.5)	39 (22.9)

就労状況	男性 人(%)	女性 人(%)
総数	559	725
常勤で働いている	327 (58.5)	181 (25.0)
パート、アルバイト	65 (11.6)	189 (26.1)
現在無職(以前は働く)	90 (16.1)	196 (27.0)
現在無職(今後働きたい)	20 (3.6)	46 (6.3)
働いたことがない	25 (4.5)	49 (6.8)
無回答	32 (5.7)	64 (8.8)

7. 集計結果

. 男女の役割や、家事や育児への取り組み方についておたずねします。

問 - 1. 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはそれに賛成ですか、それとも、反対ですか。【1つに○】

(単位：%)

	平成 16 年度 総数 = 1,302	平成 5 年度 総数 = 769
1. 賛成	7.4	12.7
2. どちらかといえば賛成	17.7	22.2
3. どちらともいえない	39.5	34.7
4. どちらかといえば反対	17.3	20.3
5. 反対	16.7	9.0
無回答	1.4	1.1

問 - 2. 男性が家事をすることについて、あなたはどのように思いますか。【1つに○】

(単位：%)

	平成 16 年度 総数 = 1,302	平成 5 年度 総数 = 769
1. 積極的にするべきだ	17.8	14.8
2. できるだけする方がよい	68.7	66.3
3. あまりしなくてよい	10.8	15.3
4. するべきではない	1.0	2.7
無回答	1.7	0.9

問 - 3. 共働き家庭では、家事や育児の負担をどのようにするのがよいと思いますか。【1つに○】

(単位：%)

	平成 16 年度 総数 = 1,302	平成 5 年度 総数 = 769
1. 夫と妻が平等に分担するのがよい	18.5	14.4
2. 手のあいている方がするのがよい	53.9	43.0
3. 主として妻が行い、夫は手伝う程度でよい	23.3	38.1
4. 夫はしなくてよい	0.3	1.3
5. その他	1.6	0.8
無回答	2.4	2.4

問 - 4 . お宅では、家事や育児は主にどなたがおこないますか。育児に関しては、過去の経験でも結構です。【ア～スそれぞれについて1～7までの内、1つに○】

総数 = 1,302 (単位 : %)

	1. 全部 妻がする	2. 主に 妻がする	3. 夫か妻 の手のあ いている 方がする	4. 平等 にする	5. 主に 夫がする	6. その 他の家 族がする	7. 該当 なし	無回答
ア. 身の回りのこと(衣類の用意等)	23.1	34.5	9.1	8.3	0.6	0.8	17.9	5.7
イ. 食事を作る	34.7	33.3	5.5	2.6	0.4	1.5	17.4	4.6
ウ. 食後の片付け	30.0	27.7	7.9	8.0	0.9	2.9	17.4	5.2
エ. 食料品等日常の買い物をする	27.5	30.7	9.1	7.7	1.2	1.5	17.4	4.9
オ. 部屋の掃除をする	29.2	28.9	10.1	6.1	1.6	1.5	17.4	5.2
カ. 洗濯・物干しをする	35.9	28.8	6.9	3.8	0.6	1.8	17.5	4.7
キ. ゴミ出しをする	21.8	17.7	15.6	4.8	15.3	3.1	17.3	4.4
ク. ふとんの上げ下ろし	22.5	22.5	12.4	10.3	5.1	1.2	21.2	4.8
ケ. 風呂の準備や掃除	18.5	22.0	16.1	5.8	7.5	6.1	18.3	5.7
コ. 高齢者の介護をする	7.5	14.0	7.9	7.6	0.7	0.8	50.6	10.9
サ. 育児・子供の世話(おむつ替え、入浴、保育園送迎)	13.9	24.7	13.7	7.0	0.3	1.8	29.6	9.0
シ. 子供のしつけや教育	9.6	21.4	7.7	25.6	1.5	1.2	25.0	8.0
ス. 家計の管理をする	28.6	31.2	1.9	9.4	4.8	1.0	17.7	5.4

.子育てや教育などについておたずねします。

問 - 1 . あなたは、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしくしつけたほうがよい」という考え方に賛成しますか、それとも反対ですか。【1つに○】

(単位：%)

	平成 16 年度 総数 = 1,302	平成 5 年度 総数 = 769
1 . 賛成する	36.4	51.4
2 . どちらかといえば賛成する	45.5	35.9
3 . どちらかといえば反対する	8.9	8.2
4 . 反対である	4.5	2.6
無回答	4.7	1.9

問 - 2 . 子育てを終えた方も、またお子さんのいない方も、現在、あなたに未成年のお子さんがあると仮定してお答えください。男の子と女の子それぞれの場合についてお聞きします。

(1) あなたは、お子さんにどの程度の教育を受けさせたいと思いますか。まず、男の子の場合についてお答えください。【1つに○】

(2) 女の子の場合はどうですか。【1つに○】

(単位：%)

	男の子の場合		女の子の場合	
	平成 16 年度 総数 = 1,302	平成 5 年度 総数 = 769	平成 16 年度 総数 = 1,302	平成 5 年度 総数 = 769
1 . 中学まで	0.4	0.1	0.2	0.3
2 . 高校まで	6.2	10.0	8.6	18.9
3 . 専門学校まで	7.9	4.8	9.6	7.2
4 . 短大・高専まで	2.3	3.4	13.5	29.4
5 . 大学まで	42.8	66.7	26.5	32.2
6 . 大学院まで	2.8	3.6	0.8	1.2
7 . 子供に応じて	31.2	8.1	34.4	7.9
8 . その他	1.9	0.9	2.5	1.0
無回答	4.5	2.4	3.6	1.9

(3) あなたは、お子さんにどのような人になって欲しいと思いますか。まず男の子の場合についてお答えください。【3つまで○】

(4) 女の子の場合はどうでしょうか。【3つまで○】 (単位：%)

	男の子の場合 平成 16 年度 総数 = 1,302	女の子の場合 平成 16 年度 総数 = 1,302
1. 知性豊かな人	14.2	17.4
2. 素直な人	20.6	43.1
3. 思ったことをやり遂げる人	19.4	7.2
4. 情緒豊かな人	7.8	16.6
5. 責任感のある人	47.2	17.4
6. 身の回りのことを自分でできる人	11.4	18.1
7. 経済力のある人	16.7	1.6
8. 自立した人	20.6	12.3
9. 思いやりのある人	41.5	65.5
10. 社会的地位のある人	1.5	0.2
11. 国際的視野のある人	4.4	1.8
12. 家庭を大事にする人	24.8	31.3
13. 社会に貢献する人	10.1	3.8
14. 判断力のある人	18.7	7.7
15. 言葉づかいや礼儀正しい人	1.5	29.0
16. その他	1.2	0.7

問 - 3 . 現在、あなたは普段の日、お子さん（未成年）との対話はどの程度ありますか。【1つに○】

（単位：％）

	平成 16 年度 総数 = 1,302	男性 総数 = 559	女性 総数 = 725
1 . 1 時間以上	20.4	12.3	26.8
2 . 30 分～1 時間未満	12.5	11.8	12.8
3 . 30 分未満	11.6	14.5	9.4
4 . ほとんど対話しない	2.1	3.9	0.7
5 . あてはまらない（子どもはいない）	47.1	51.3	44.4
無回答	6.3	6.1	5.9

問 - 3（1）1～3に回答された方にうかがいます。対話の内容はどのようなことですか。

【主なもの2つに○】

（単位：％）

	平成 16 年度 総数 = 500	男性 総数 = 187	女性 総数 = 306
1 . 学校や友だち	58.0	52.9	61.1
2 . 余暇や遊び	36.6	38.0	35.6
3 . 勉強や受験	15.0	17.6	12.7
4 . 将来の進路	10.0	10.7	9.5
5 . 家族	16.6	16.0	17.0
6 . 親の仕事	0.4	1.1	0.0
7 . 政治や社会	5.2	8.0	3.6
8 . 世間話	30.0	28.3	31.0
9 . その他	5.8	3.7	5.2

・女性が職業を持つことについておたずねします。

問 - 1 . 女性の方のみお答えください。ご自分はどのように生きていきたいとお考えですか。(お考えでしたか。)**【1つに○】**

(単位：%)

	平成 16 年度 総数 = 725	平成 5 年度 総数 = 442
1 . 結婚後もまたは子どもができて、職業を持ち続けたい	33.4	26.3
2 . 子どもが生まれたらやめ、成長後再び職業を持ちたい	41.4	57.0
3 . 子どもが生まれるまでは、職業を持ちたい	5.7	7.9
4 . 結婚するまでは、職業を持ちたい	6.1	6.4
5 . 特に職業は持ちたくない	2.6	0.8
6 . その他	2.1	0.0
無回答	8.8	1.7

問 - 1 (1) 1 ~ 4 に回答された方にうかがいます。もし、あなたが管理職になるように求められたら引き受けますか。**【1つに○】**

(単位：%)

	平成 16 年度 総数 = 627
1 . 引き受ける	26.0
2 . 引き受けない	32.2
無回答	41.8

問 - 2 . 男性の方のみお答えください。ご自身の配偶者(妻)にはどのようなことを望みますか。(望んでいましたか。)**【1つに○】**

(単位：%)

	平成 16 年度 総数 = 559	平成 5 年度 総数 = 325
1 . 結婚後もまたは子どもができて、職業を持ち続けてほしい	28.1	22.8
2 . 子どもが生まれたらやめ、成長後再び職業を持ってほしい	32.2	56.3
3 . 子どもが生まれるまでは、職業を持ってほしい	7.7	9.8
4 . 結婚するまでは、職業を持ってほしい	6.4	7.7
5 . 妻が職業を持つことを望まない	10.7	0.8
6 . その他	6.3	0.0
無回答	8.6	1.5

問 - 2 (1) 1 ~ 4 に回答された方にうかがいます。もしあなたの妻が管理職になるよう求められたら引き受けることを薦めますか。【1つに○】 (単位 : %)

	平成 16 年度 総数 = 416
1 . 薦める	40.9
2 . 薦めない	22.8
無回答	36.3

問 - 3 . あなたは、女性が長く働き続けるために何が必要だとお考えですか。【3つまで○】 (単位 : %)

	平成 16 年度 総数 = 1,302	平成 5 年度 総数 = 769
1 . 家族全員の理解と協力	82.4	83.2
2 . やるがいのある仕事	32.1	32.2
3 . 職場の結婚退職、出産退職の慣行の廃止	12.4	13.5
4 . 出産、育児休暇、介護休暇の制度の完備	53.2	48.8
5 . 勤続年数に応じた処遇	8.6	17.2
6 . 働く女性の子供のための保育施設の完備	50.8	42.7
7 . 積極的に管理職に登用	2.8	4.2
8 . 能力開発のための教育	5.1	8.5
9 . 特にない	2.5	1.7
10 . その他	1.3	3.1
無回答	7.1	2.3

問 - 4 . あなたは、現在の職場あるいは以前働いていた職場（自営業を含む）で、何か悩みや不満に思っている（いた）ことがありますか。【3つまで○】

（単位：％）

	平成 16 年度 総数 = 1,302	平成 5 年度 総数 = 769
1 . 残業が多い	10.4	9.2
2 . 休みがとれない	21.5	17.2
3 . 給料が安い	32.7	33.0
4 . 人間関係	27.6	24.2
5 . 男女差別	6.3	2.6
6 . 上司の理解がない	12.4	15.1
7 . 仕事が向かない	3.7	3.9
8 . 疲労が多い	19.4	21.2
9 . 通勤が不便	8.4	6.2
10 . 職場の雰囲気が悪い	8.1	9.0
11 . やりがいがない	6.5	8.5
12 . 悩みや不満は特にない	17.8	21.8
13 . 働いたことはない	8.1	6.0
14 . その他	3.1	3.8
無回答	6.1	8.4

問 - 5 . あなたの職場（以前働いていた職場）では、男女間に不平等がある（あった）と思いますか。

【1つに○】

（単位：％）

	平成 16 年度 総数 = 1,302	平成 5 年度 総数 = 769
1 . かなりある（あった）	12.8	13.9
2 . ややある（あった）	30.0	18.2
3 . ない（なかった）	38.6	33.0
4 . 働いたことはない	8.8	6.9
5 . 一概に言えない	-	20.2
無回答	9.8	7.8

問 - 5 (1) 1・2 に回答された方にうかがいます。それはどのようなことですか。【1つに○】

(単位 : %)

	平成 16 年度 総数 = 557	平成 5 年度 総数 = 769
1 . 賃金	25.0	25.5
2 . 仕事内容	29.8	25.2
3 . 昇進・昇格	10.2	17.8
4 . 能力の適正な評価	13.2	13.9
5 . 教育・研修の機会・内容	0.5	7.3
6 . 定年年齢	1.2	2.1
7 . その他	1.6	2.1
無回答	18.3	6.1

問 - 6 . 1986年(昭和61年)4月から「男女雇用機会均等法」が施行されていますが、あなたはこの法律の内容をご存知ですか。【1つに○】

(単位 : %)

	平成 16 年度 総数 = 1,302	平成 5 年度 総数 = 769
1 . 内容について知っている	19.4	11.7
2 . 法律があることは知っている	61.8	58.8
3 . 全く知らない	12.1	24.2
無回答	6.6	5.3

問 - 7 . あなたは、日常生活の次のような場面で、男女平等は実現されていると思いますか。

【ア～エのそれぞれについて、1～4までの内、1つに○】

(単位：%)

	ア．家庭生活		イ．学校生活		ウ．職 場		エ．地域社会	
	平成 16 年度 総数 = 1,302	平成 5 年度 総数 = 769	平成 16 年度 総数 = 1,302	平成 5 年度 総数 = 769	平成 16 年度 総数 = 1,302	平成 5 年度 総数 = 769	平成 16 年度 総数 = 1,302	平成 5 年度 総数 = 769
1．平等になっている	10.8	7.0	18.7	15.5	7.1	4.4	5.1	3.6
2．ある程度平等になっている	38.9	27.4	48.1	31.9	34.9	21.1	33.1	18.7
3．あまり平等になっていない	29.5	21.6	10.3	6.2	34.1	23.1	37.9	25.9
4．ほとんど平等になっていない	9.4	9.0	2.3	1.7	7.8	5.1	9.7	6.4
5．一概に言えない	-	23.8	-	22.1	-	29.1	-	30.6
無回答	11.4	11.2	20.1	22.6	16.1	17.2	14.2	14.8

。地域社会での活動などについておたずねします。

問 - 1 . あなたは、現在、次に上げるような社会的活動に、どの程度さんかしたり活動したりしていますか。【ア～キのそれぞれについて、1～3までに内、1つに○】

(単位：%)

	1 . 積極的に参加・活動している		2 . たまに参加する程度		3 . ほとんど参加したことがない		無回答		かつては参加していた
	平成16年度 総数 = 1,302	平成5年度 総数 = 769	平成16年度 総数 = 1,302	平成5年度 総数 = 769	平成16年度 総数 = 1,302	平成5年度 総数 = 769	平成16年度 総数 = 1,302	平成5年度 総数 = 769	平成5年度 総数 = 769
ア . 町内会・自治会・商店会などの地域活動	26.3	50.2	40.8	14.4	25.2	21.4	7.7	9.3	4.7
イ . スポーツ・文化・趣味などのサークル活動	13.0	31.5	28.3	15.0	48.6	37.2	10.1	10.3	6.0
ウ . 父母会やPTA等活動	15.3	27.7	26.3	9.1	42.1	36.2	16.3	17.2	9.8
エ . 市民講座や学習会の活動	3.5	9.5	19.1	10.0	66.9	62.5	10.4	13.6	4.4
オ . 社会福祉やボランティア活動	6.8	12.1	19.8	7.8	63.7	63.3	9.6	12.9	3.9
カ . サイクル・河川の浄化など地域の環境保全の活動	15.0	30.6	30.3	12.5	45.5	41.1	9.1	12.2	3.6
キ . 生協運動や消費者運動	1.9	8.1	12.0	6.2	75.5	69.6	10.6	14.3	1.8

問 - 2 . あなたは、上にあげたような社会的活動に参加して、得られた最も大きな成果はなんでしたか。【1つに○】
(単位：%)

	平成 16 年度 総数 = 1,302	平成 5 年度 総数 = 769
1 . 個性を伸ばしたり、生きがいを見つけることができた	3.5	4.2
2 . 地域社会の人々のために少しでも役に立つことができた	16.5	16.5
3 . 仲間と知り合えたり、語り合うことができた	29.9	31.7
4 . 今の社会が抱えている問題を少しでも考えたり、解決することができた	2.7	4.7
5 . あまり参加・活動したことがないのでどれともいえない	37.9	34.7
無回答	9.6	8.2

問 - 3 . あなたは、このような社会的活動をする上で、最も課題だと思うことは何ですか。

【1つに○】

(単位：%)

	平成 16 年度 総数 = 1,302	平成 5 年度 総数 = 769
1 . 施設・活動の場・公的支援が少ないこと	10.7	11.1
2 . 仕事が忙しく時間がとりにくいこと	25.5	31.7
3 . 家事や育児が忙しく時間がとれないこと	6.7	9.1
4 . 参加したいような活動や団体が身近にないこと	23.1	14.2
5 . 特に問題は感じていない	21.7	23.1
6 . その他	2.6	2.1
無回答	9.7	8.7

・高齢化社会や健康の問題についておたずねします。

問 - 1 . あなたは、老後の生活について不安に思っていることがありますか。【2つまで○】

(単位：%)

	平成 16 年度 総数 = 1,302	平成 5 年度 総数 = 769
1 . 配偶者 (夫または妻) に先立たれること	32.9	35.0
2 . 生活費のこと	47.8	26.0
3 . 健康のこと	56.7	57.2
4 . 面倒を見てくれる身寄りがないこと	3.1	2.1
5 . 話し相手がないこと	2.5	1.8
6 . 安心して住める住宅がないこと	3.6	2.5
7 . 趣味や仕事がないこと	6.1	7.8
8 . 特に不安はない	12.6	22.6
9 . その他	1.4	1.6
無回答	4.4	3.5

問 - 2 .

ア . あなたは、条件が許せば、老後はどのように暮らすのが理想的だと思いますか。

イ . 現実には、あなたはどのように暮らすことになると思いますか。(あるいはすでに暮らしていますか。)

【ア・イのそれぞれについて、1～6までの内、1つに○】

(単位：%)

	ア.理想の生活		イ.現実の生活	
	平成 16 年度 総数 = 1,302	平成 5 年度 総数 = 769	平成 16 年度 総数 = 1,302	平成 5 年度 総数 = 769
1 . 夫婦 (自分) だけで暮らす	16.1	12.7	30.3	21.3
2 . 家族や身内の近くで夫婦 (自分) だけで暮らす	25.7	25.1	14.1	13.3
3 . 子どもの家族と一緒に暮らす	28.2	41.0	20.5	33.4
4 . 気のあった友人と一緒に暮らす	3.9	5.1	0.5	0.9
5 . 老人ホームなどの施設で暮らす	2.8	2.2	2.9	2.7
6 . その他	2.2	0.4	2.2	2.2
無回答	21.1	13.5	29.6	26.2

問 - 3

ア．あなたが万一寝たきりになったことを仮定して、介護が必要になった場合、だれに身の回りの世話をしてもらいたいと希望しますか。

イ．また、現実にはだれに世話をしてもらうことになると思いますか。(あるいはすでに行ってもらっていますか。)**【ア・イのそれぞれについて、1～10の内2つまで○】**

(単位：%)

	ア.理想の介護者		イ.現実の介護者	
	平成 16 年度 総数 = 1,302	平成 5 年度 総数 = 769	平成 16 年度 総数 = 1,302	平成 5 年度 総数 = 769
1．配偶者（夫または妻）	48.3	44.1	36.6	37.1
2．息子	10.6	8.8	9.7	9.8
3．娘	25.3	18.5	14.4	12.6
4．息子の配偶者	7.4	8.8	8.4	16.1
5．娘の配偶者	1.4	0.0	0.7	0.0
6．兄弟姉妹	2.7	1.2	1.7	0.8
7．地域のボランティア	3.9	0.7	2.1	0.3
8．介護ヘルパーや家事支援 (民間に有料で依頼)	15.8	5.0	14.8	3.0
9．病院や特別養護老人ホーム	18.5	8.1	15.0	9.9
10．その他	1.1	0.4	1.8	2.9
無回答	11.4	4.6	29.0	7.7

問 - 4．健康管理について教えてください。あなたは、最近の1年間でどこで健康診断を受けましたか。**【あてはまるもの1つに○】**

(単位：%)

	平成 16 年度 総数 = 1,302	平成 5 年度 総数 = 769
1．市の健康診断	23.8	20.0
2．職場や学校の健康診断	27.9	28.6
3．病院や診療所で個人的に受診	22.4	24.8
4．受診していない	21.5	28.6
5．その他	0.2	0.7
無回答	4.2	3.8

．生活時間や家庭生活などについておたずねします。

問 - 1．あなたは、通常、仕事を終えて何時頃帰宅なさいますか。【1つに○】

(単位：%)

	平成 16 年度 総数 = 1,302	平成 5 年度 総数 = 769
1．18時以前	21.4	26.5
2．18時～19時頃	17.3	18.1
3．19時～20時頃	9.4	10.4
4．20時～21時頃	3.7	4.4
5．21時～22時頃	3.0	1.6
6．22時以降	2.8	2.6
7．帰宅時間は不定期	8.1	0.0
8．特に仕事はしていない	28.8	25.5
無回答	5.6	10.9

問 - 2．仕事の休みは、通常、週何日ですか。【1つに○】

(単位：%)

	平成 16 年度 総数 = 1,302	平成 5 年度 総数 = 769
1．週休1日	16.3	20.2
2．週休1日半	4.3	3.4
3．月1回週休2日	1.6	2.9
4．隔週週休2日	4.6	6.2
5．月2回週休2日	3.3	4.8
6．週休2日	29.6	18.1
7．特に仕事はしていない	27.8	24.7
8．その他	6.2	11.4
無回答	6.3	8.3

問 - 3 .あなたは、普段の平日をどのように過ごしますか。アンケート記載日に近い日を思い出して、
 ~ の項目について費やした時間を、ご記入ください。

	男 性	女 性
睡眠時間	7時間11分	6時間57分
生理的必要時間(食事、入浴等)	2時間00分	2時間20分
仕事、学業(通勤・通学含む)時間	9時間16分	7時間15分
家事・育児等の時間	1時間21分	4時間19分
介護等の時間	0時間35分	1時間20分
余暇、自由時間	5時間00分	4時間25分

問 - 4 .結婚しているひとにお聞きします。お宅では普段の日に、夫婦の会話の時間は1日にどの位
 ありますか。【1つに○】 (単位：%)

	平成 16 年度 総数 = 875	平成 5 年度 総数 = 442
1 . 1 時間以上	43.6	33.3
2 . 30分～1時間未満	31.9	22.4
3 . 30分未満	16.4	11.6
4 . ほとんど会話は無い	4.2	6.0
無回答	4.0	26.8

問 - 5 .引き続き結婚している人にお聞きします。では、会話の主な話題はどのようなことですか。
 【2つまで○】 (単位：%)

	平成 16 年度 総数 = 875	平成 5 年度 総数 = 442
1 . 子どものこと	35.0	38.4
2 . 仕事のこと	21.5	25.2
3 . 余暇や趣味のこと	10.4	6.4
4 . 家族の将来のこと	9.4	9.6
5 . 夫婦のこと	3.9	4.4
6 . 家計や財産のこと	6.5	7.9
7 . 政治や社会のこと	4.8	5.9
8 . 世間話	28.6	38.6
9 . その他	2.2	1.3
無回答	1.9	26.8

問 - 6 .引き続き、結婚している人にお聞きします。あなたは、日常生活で配偶者（夫または妻）から「思いやり」を感じていますか。【1つに○】

(単位：%)

	平成 16 年度 総数 = 875	平成 5 年度 総数 = 442
1 . 大変感じている	32.2	22.2
2 . ある程度感じている	50.7	35.5
3 . あまり感じない	11.9	13.4
4 . 全く感じない	2.4	1.8
無回答	2.9	27.1

問 - 6 (1) 3・4 に回答された方にうかがいます。どんなところに思いやりがないと感じますか。

【あてはまるものすべてに○】

(単位：%)

	平成 16 年度 総数 = 131	男性 総数 = 22	女性 総数 = 106
1 . 日常会話	50.0	42.9	51.0
2 . 家事手伝い	43.0	14.3	49.0
3 . 育児	14.8	0.0	17.3
4 . 介護	7.8	4.8	7.7
5 . あなたの趣味	10.2	14.3	9.6
6 . 親子関係	19.5	14.3	21.2
7 . 家族の体調不良時	18.0	0.0	22.1
8 . 性生活	7.8	9.5	7.7
9 . あなたの外出	18.0	4.8	20.2
10. あなたの仕事	14.1	19.0	13.5
11. あなたの学習	18.8	23.8	18.3
12. 交友関係	5.5	9.5	4.8
13. その他	21.1	28.6	20.2

問 - 7 . 結婚している人にお聞きします。あなたの家庭では、妻または母名義の「預金通帳」や「不動産」などの財産はありますか。【1つに○】

(単位：%)

	平成 16 年度 総数 = 875	男性 総数 = 385	女性 総数 = 490
1.ほとんど夫または父親名義の財産	31.2	29.6	32.2
2.少し妻または母名義の財産もあるが自立できる程ではない	34.1	33.2	35.5
3.夫婦にそれぞれ別々の財産がほぼ均等にある	16.3	18.4	14.9
4.どちらかといえば妻または母名義の財産である	2.7	3.4	2.2
5.ほとんど妻または、母名義の財産である	1.2	0.8	1.6
6.どのようになっているかわからない	5.6	7.5	4.3
7.その他	2.0	2.1	2.0
無回答	6.9	4.9	7.1

問 - 7 (1) 1・2 に回答された方にうかがいます。女性が財産を持たない理由は何ですか。

【1つに○】

(単位：%)

	平成 16 年度 総数 = 609	男性 総数 = 248	女性 総数 = 354
1.財産分割の必要がない	22.5	21.9	23.2
2.妻や母が財産を持つ習慣がない	13.1	12.8	13.3
3.夫や父が働いて築いた財産だから	10.0	14.9	6.3
4.妻や母が財産を要求しないから	5.3	2.9	7.2
5.財産は男性名義が当然だから	8.3	14.0	3.9
6.妻や母には収入がないから	10.8	9.9	11.4
7.子どもへの贈与や相続が面倒になるから	1.5	2.1	1.2
8.その他	5.3	7.4	3.9
無回答	23.1	14.0	29.5

問 - 8 . 結婚している人、または、結婚していた人にお聞きします。結婚して自分の生活がどう変わったと思いますか。【3つまで○】

(単位：%)

	平成 16 年度 総数 = 1,023	男性 総数 = 419	女性 総数 = 604
1 . 経済的にゆとりができた	18.0	17.2	18.8
2 . 暮らしに張り合いができた	42.2	52.7	34.8
3 . 知り合いが増え世界が広がった	26.5	25.3	27.8
4 . 仕事がしやすくなった	12.1	24.6	2.7
5 . 将来への安心感ができた	31.9	37.9	27.8
6 . 行動が制約されるようになった	22.8	17.7	26.9
7 . 自由になるお金が減った	28.7	30.5	27.6
8 . 自由時間が減った	26.6	16.9	34.3
9 . 付き合いが増えわずらわしい	7.9	4.1	10.8
10 . 仕事がしにくくなった	3.6	1.4	4.9
11 . 配偶者に気をつかい疲れる	10.9	5.3	15.0
12 . 変わらない	4.7	5.0	4.3
13 . その他	2.5	0.7	3.8

問 - 9 .結婚していない人にお聞きします。結婚した場合、自分の生活がどう変わると予想しますか。

【3つまで○】

(単位：%)

	平成 16 年度 総数 = 206	男性 総数 = 119	女性 総数 = 87
1 . 経済的にゆとりができる	10.7	5.9	17.2
2 . 暮らしに張り合いができる	47.1	56.3	34.5
3 . 知り合いが増え世界が広がる	21.4	16.8	27.6
4 . 仕事がしやすくなる	5.8	8.4	2.3
5 . 将来への安心感ができる	38.8	32.8	47.1
6 . 行動が制約されるようになる	30.1	31.1	28.7
7 . 自由になるお金が減る	29.1	28.6	29.9
8 . 自由時間が減る	37.4	33.6	42.5
9 . 付き合いが増えわずらわしくなる	11.2	13.4	8.0
10 . 仕事がしにくくなる	7.3	0.8	16.1
11 . 配偶者に気をつかい疲れる	5.3	3.4	8.0
12 . 変わらない	7.3	8.4	5.7
13 . その他	7.3	11.8	1.1

問 - 10 . 全員にお聞きします。子どもを生むか、何人生むかなどは、どのようにして決めるのがよい

と思いますか。【1つに○】

(単位：%)

	平成 16 年度 総数 = 1,302	男性 総数 = 559	女性 総数 = 725
1 . 夫婦で相談する	78.8	81.2	77.8
2 . 夫の意見を尊重する	1.2	1.1	1.2
3 . 妻の意見を尊重する	2.2	2.9	1.8
4 . 親の意見を尊重する	0.1	0.0	0.1
5 . わからない	5.8	5.9	5.7
6 . その他	1.4	1.3	1.5
無回答	10.6	7.7	11.9

問 - 11. あなたは、夫婦間（内縁、事実婚含む）や恋人の間で、乱暴な振る舞いについて見聞きしたことがありますか。【あてはまるものすべてに○】

（単位：％）

	平成 16 年度 総数 = 1,302	男性 総数 = 559	女性 総数 = 725
1. テレビや新聞などで知っている	73.8	76.6	72.1
2. 身近に当事者はいないがうわさを耳にした	13.2	15.4	11.7
3. 身近な人に当事者がいる	10.4	8.2	12.3
4. 身近で被害のあった人から相談を受けた	4.5	4.7	4.6
5. 自分が直接、被害の経験をした	4.9	1.1	8.0
6. 見聞きしたことがある	6.8	9.7	4.6
7. その他	0.6	1.3	0.1
無回答	8.8	6.4	9.9

問 12. あなたは身近な異性から次のようなことをされたことがありますか。

【ア～ケのそれぞれに、1～3までの内、1つに○】

（単位：％）

	平成 16 年度 総数 = 1,302			
	1. 何度もあ る	2. 1～2回 ある	3. 全くない	無回答
ア. 医師治療を必要とする程度の暴力を受けた	0.3	1.8	81.2	16.7
イ. 医師の治療を必要としない程度の暴行を受けた	1.8	6.0	75.7	16.4
ウ. 何を言っても無視をされた	3.9	11.1	68.3	16.7
エ. 交友関係や電話、郵便、メールなどをチェックされた	2.8	5.4	74.4	17.4
オ. 「誰のおかげで生活できる」とか「甲斐性なし」などとなじられた	4.0	6.3	73.1	16.6
カ. 恐怖感を抱くほど大声でどなられた	5.6	9.5	68.7	16.1
キ. 見たくないポルノビデオや雑誌を見せられた	0.6	1.3	80.9	17.2
ク. 嫌がっているのに性的行為を強要された	1.8	4.4	76.7	17.1
ケ. 避妊に協力しなかった	1.9	5.3	75.4	17.4

問 - 13 . 問 - 12 で、1・2 に回答された方にお聞きします。その時、どなたかに相談をしましたか。【1つに○】

(単位：%)

	平成 16 年度 総数 = 963	男性 総数 = 239	女性 総数 = 707
1 . 相談した	21.2	7.8	27.5
2 . 相談したかったが相談できる人がいなかった	15.6	11.8	17.1
3 . 相談しようと思わなかった	59.2	78.4	50.5
4 . その他	4.0	2.0	5.0

(人数 = 延べ人数)

．生活や仕事全般についておたずねします。

問 - 1．あなたは、生活したり働いていく上で、どのような課題や不安がありますか。

【特に重要なもの3つに○】

(単位：%)

	平成 16 年度 総数 = 1,302	男性 総数 = 559	女性 総数 = 725
1．自分の健康問題	55.8	60.6	52.3
2．家族の健康問題	50.2	46.7	52.8
3．自分名義の財産がない	5.9	4.8	6.9
4．労働時間が長い	7.0	10.0	4.8
5．職場の人間関係	11.6	12.9	10.9
6．職場の経営状況	9.5	14.8	5.7
7．仕事のノルマが重い	3.1	3.9	2.5
8．家族の介護・看病	13.8	11.8	15.4
9．自分の就職問題	8.7	8.9	8.4
10．家族の進路・就職問題	12.3	10.0	14.2
11．家族内の人間関係	6.9	4.8	8.7
12．近所や地域との付き合い	14.2	11.6	16.6
13．地域で担っている役職	2.5	2.7	2.3
14．給与等労働条件の低さ	14.7	18.2	12.1
15．自分の時間が持てない	9.2	7.5	10.8
16．家族との時間が持てない	4.7	5.0	4.6
17．その他	3.3	3.0	3.6
無回答	27.5	29.7	25.5

問 - 2 . 職場を辞めた経験のある方、または、現在辞めたいと考えている方にお聞きします。その理由は何ですか。【あてはまるものすべてに○】

(単位：%)

	平成 16 年度 総数 = 1,302	男性 総数 = 559	女性 総数 = 725
1 . 結婚のため	16.2	2.4	23.6
2 . 育児に専念するため	11.2	0.8	16.6
3 . 介護に専念するため	2.3	1.1	3.0
4 . 健康がすぐれないため	8.1	10.5	6.9
5 . 勤め先からの依頼により	4.1	5.4	3.5
6 . 夫婦で同じ職場だったため	1.1	0.8	1.3
7 . 会社が倒産したため(するため)	4.7	7.0	3.5
8 . 定年を迎えたため	9.5	18.9	4.3
9 . 経済的にゆとりが出てきたため	0.7	0.8	0.7
10 . 家族の反対があるため	1.2	0.5	1.6
11 . 職場の人間関係のため	12.9	16.4	11.0
12 . ノルマの要求が厳しいため	2.6	4.9	1.4
13 . 転勤を求められたため	1.6	2.2	1.2
14 . 賃金が少ないため	9.6	15.9	6.3
15 . セクシャル・ハラスメントを受けたため	0.7	0.0	1.0
16 . 職場に結婚退職や出産退職の慣行があるため	0.7	0.0	1.0
17 . 臨時雇用の契約が更新されなかったため	0.8	0.5	1.0
18 . 家業を継ぐため	2.0	2.7	1.6
19 . 子どもの教育のため	2.4	0.3	3.6
20 . その他	7.6	8.9	6.9
無回答	6.2	6.4	6.2

問 - 3 . 全員にお聞きします。あなたは、これまで身近なところ（学校、職場、地域、家族）で次のような言葉や行為で不愉快な思いをしたことがありますか。【あてはまるものすべてに○】

(単位：%)

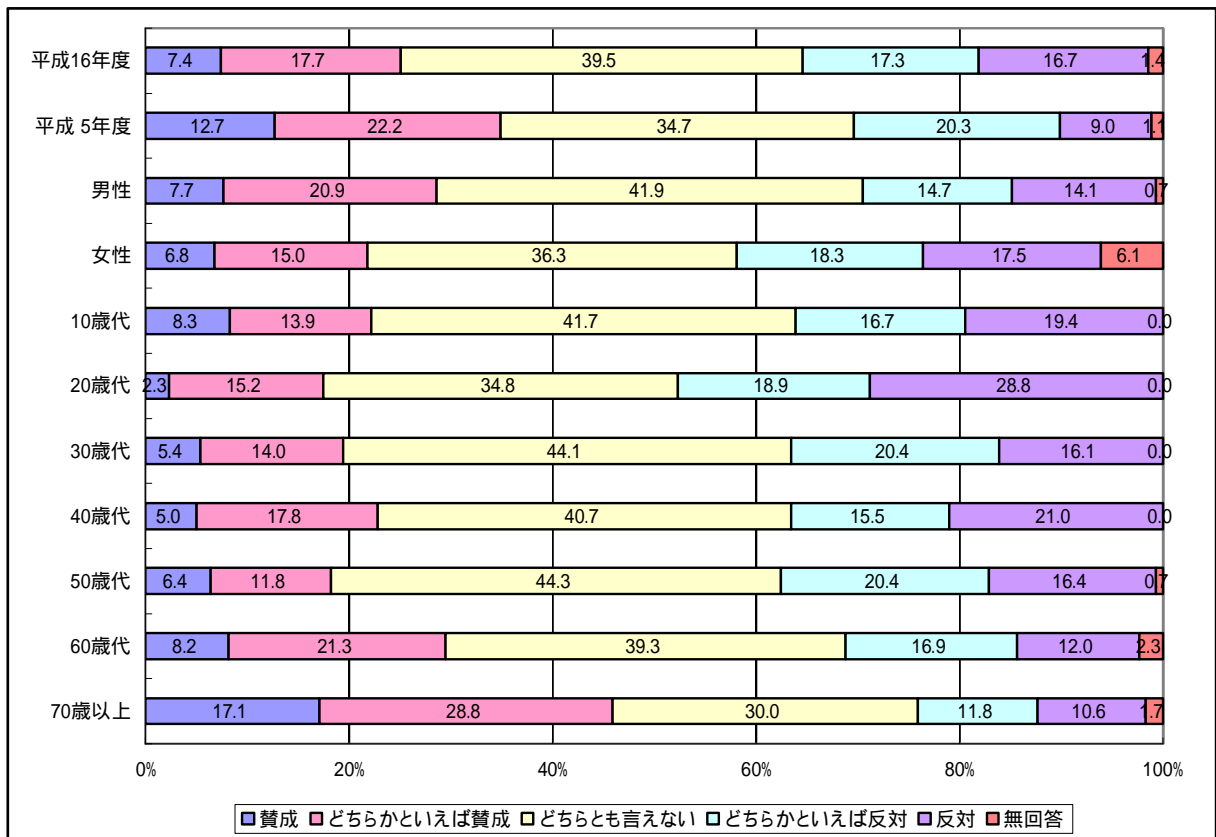
	平成 16 年度 総数 = 1,302	男性 総数 = 559	女性 総数 = 725
1 . 立場や地位を利用しての性的関係の強要	0.8	0.4	1.2
2 . 必要がないのに身体に触れる	3.4	0.9	5.4
3 . 立場や地位を利用しての交際の強要	1.2	0.7	1.4
4 . 性的に聞き苦しい言葉、話	3.5	1.8	5.0
5 . 身体的特徴（容姿、体型等）を話題にする	7.5	4.7	9.8
6 . ポルノ写真等を見せる	0.3	0.4	0.3
7 . 不愉快なうわさを流される	9.1	8.1	9.9
8 . 「女にはまかせられない」「男のくせに根性がない」などと言われる	4.7	4.7	4.8
9 . 男性、または女性であることを理由としたお茶くみや掃除、私用での使い等の強要	3.6	1.3	5.5
10 . その他	1.3	1.3	1.4
11 . なし	48.3	50.3	47.3
無回答	3.8	4.3	3.4

第2章 調査結果の分析

男女の役割や、家事や育児への取り組み方について

「男は仕事、女は家庭」反対派が賛成派を逆転

問 - 1 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはそれに賛成ですか、それとも反対ですか。【1つに】



「男は仕事、女は家庭」という性別役割分業の考え方に、賛成か反対か尋ねた結果です。全体では「賛成派」(「賛成」7.4%、「どちらかといえば賛成」17.7%)が25.1%に対し、「反対派」(「反対」16.7%、「どちらかといえば反対」17.3%)34%となっており、「反対派」が「賛成派」を8.9ポイント上回っています。

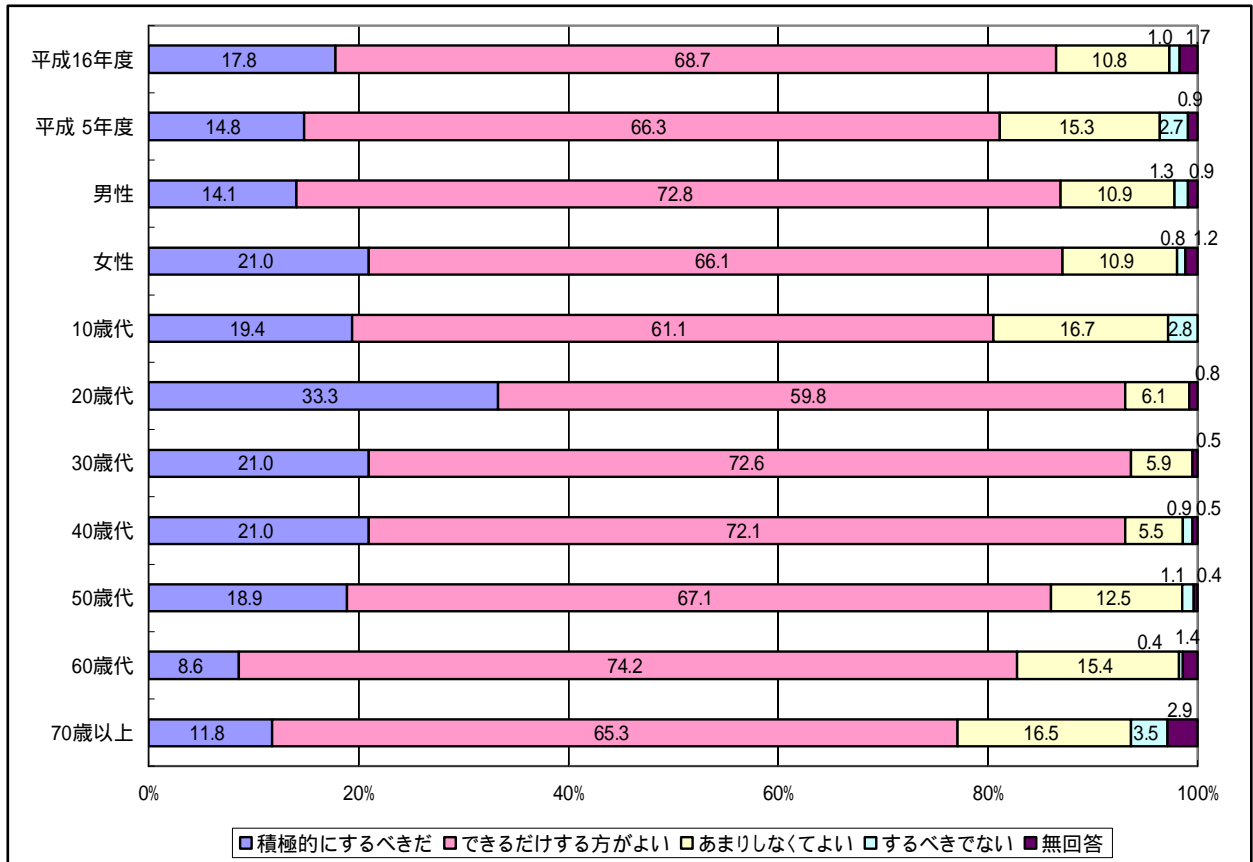
平成5年度においては、「賛成派」が「反対派」を5.6ポイント上回っており、意識の逆転がみられます。

男女別にみると、どちらも「反対」という意見が「賛成」を上回っているものの、男性の方が「賛成」とする比率が高く28.6%(女性21.8%)、逆に女性は「反対」とする比率が35.8%と男性の28.8%に比べ高くなっています。

年齢別を見ると60歳以上の高齢層に「賛成派」が多くなっています。(60歳代29.5%、70歳以上45.9%)

男性も積極的に家事をすべきという意見は増加するも2割以下

問 - 2 男性が家事をすることについて、あなたはどのように思いますか。【1つに○】



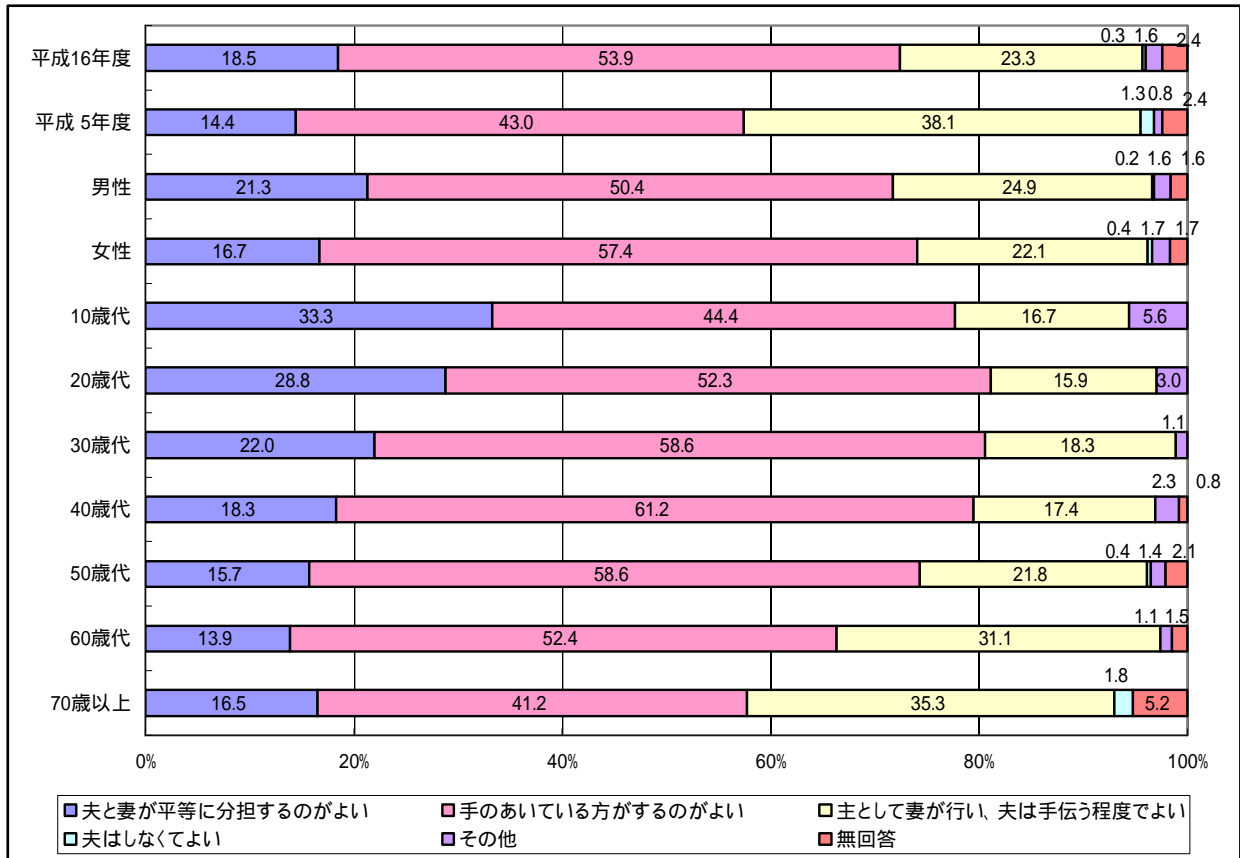
男性が家事をすることについてどのように考えるかという設問に対して、「男性も積極的にする方がよい」とする積極的賛成は、全体では17.8%に過ぎず、「男性もできるだけすべき」という消極的賛成が68.7%と圧倒的多数を占めています。ただ、平成5年度と比較すると「積極的に」が14.8%から17.8%、「(あまり)しなくてよい」が18%から11.8%と、僅かではありますが「男性も家事をすべきである」という考えへのシフトが見られます。

男女別に見ると、女性の21%が「積極的にすべき」と回答しているのに対して、男性は14.1%と意識の違いが見られます。

年齢別に見ると、「積極的にすべき」が20歳で33.3%と最も高くなっており、年齢が上がるにつれて「積極的に」と回答する比率が下がって行き、逆に「(あまり)しなくてよい」の回答の比率が高くなっていきます。(70歳以上で20%)

共働き家庭でも家事や育児を平等にしようという意識は少数派

問 - 3 共働き家庭では、家事や育児の分担をどのようにするのがよいと思いますか。【1つに】



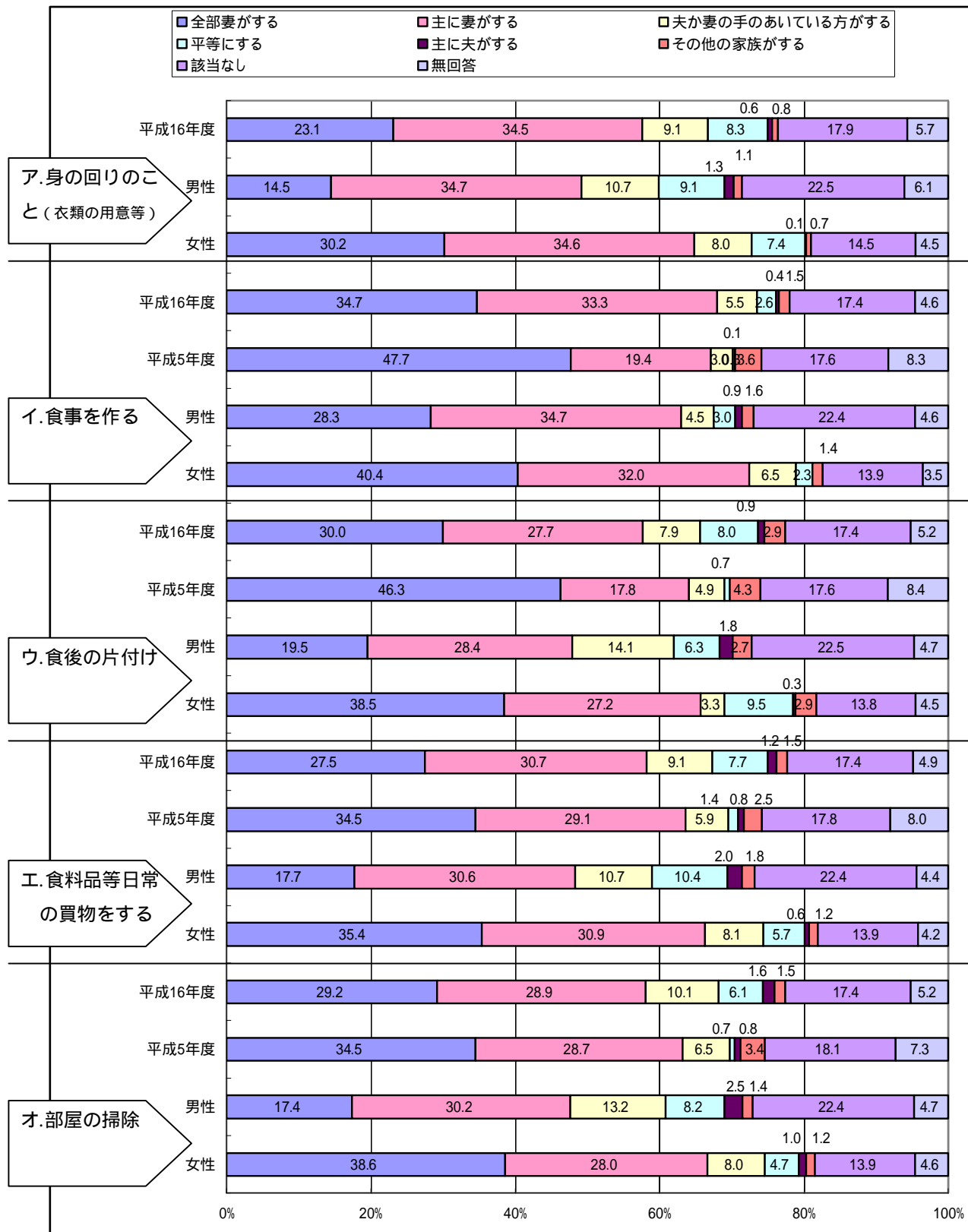
共働き家庭の場合の家事・育児の分担はどのようにするのがよいか尋ねた結果、全体では、「手の空いている方」が53.9%、で最も多く、次いで「夫は手伝う程度でよい」23.3%、「平等に分担」18.5%の順に続きます。平成5年度では、「夫は手伝う程度でよい」が38.1%を占めていたので、当時に比べ、家事・育児に参加しようとする男性が増えてきたようです。

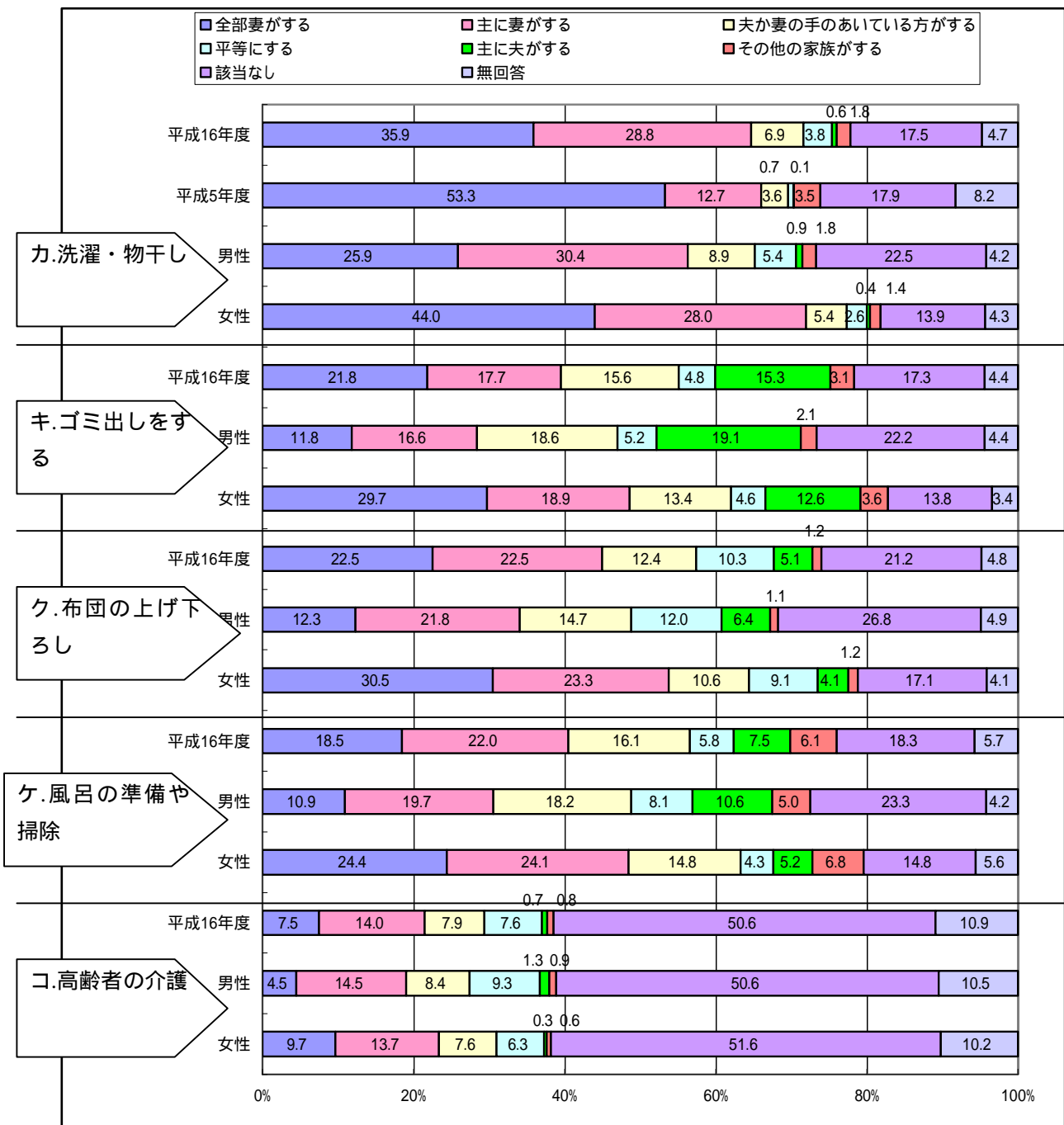
男女別にみると男性の方が「平等に分担する」が女性の16.7%と比べ21.3%と多くなっているのが注目されます。

年齢別にみると、「平等に分担」が10歳代で最も多く33.3%となっており、年代が上がるにつれてその比率が下がり、逆に「夫は手伝う程度でよい」とする考えが増えていきます。

夫が思うほど家事に貢献していると妻は思っていない

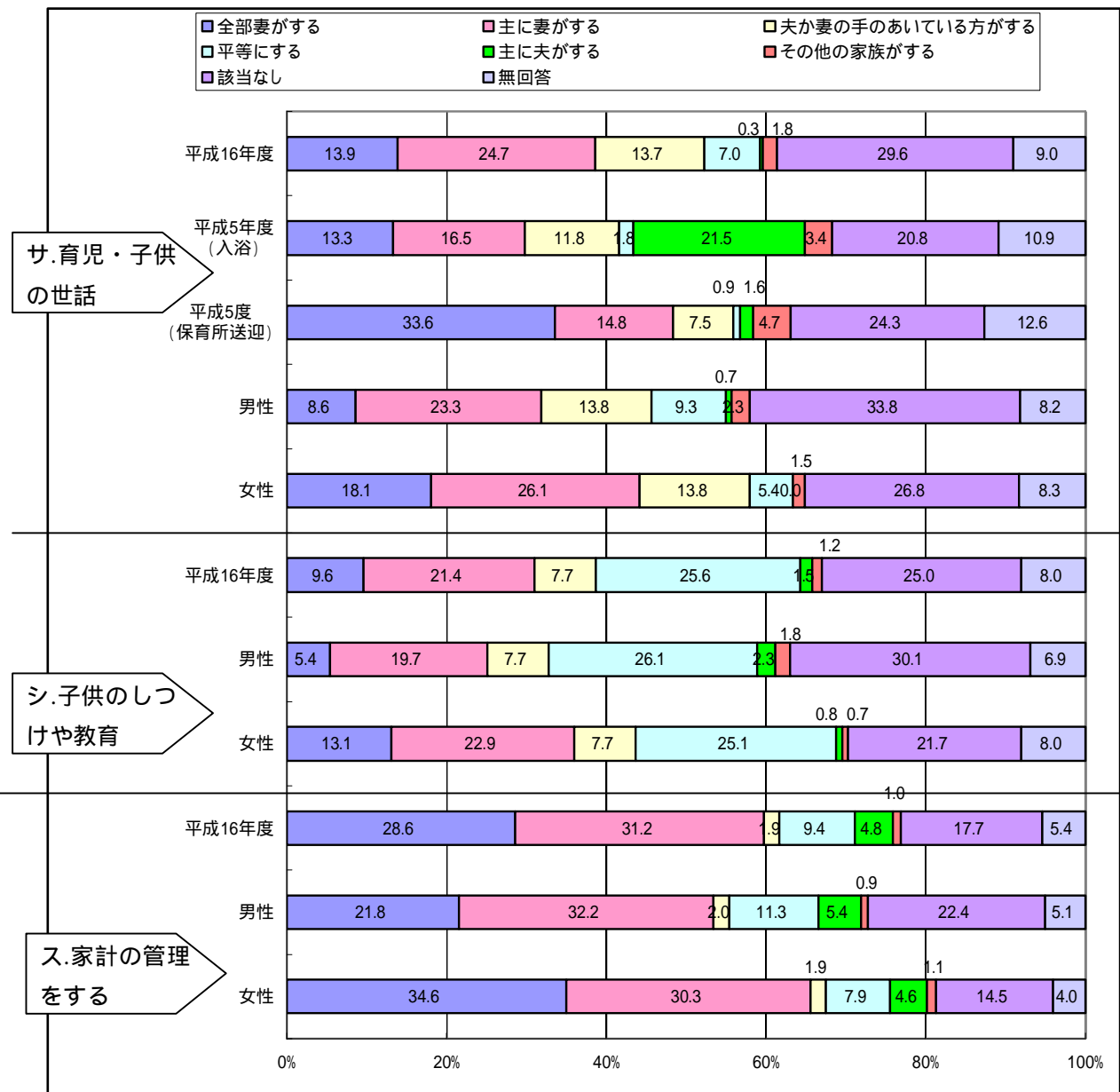
問 - 4 お宅では、家事や育児は主にどなたが行いますか。育児等に関しては、過去の経験でもけっこうです。【1つに○】





家事をだれが行っているかを集計した結果です。殆どの家事について「全部妻」と「主に妻、夫は手伝う程度」の回答の合計が半数以上を占めています。特に「料理」「食後の片付け」「洗濯」「買物」「掃除」「家計の管理」については、6割～7割に上ります。(料理 67.1%、片付け 64.1%、洗濯 66%、買物 58.2%、掃除 58.1%)。このなかでも「洗濯」「料理」「食後の片付け」については、「全部妻」が行っているという回答が多くなっています。男性の分担が多いものは、「ゴミ出し」「布団の上げ下ろし」「風呂の準備や掃除」となっており、比較的短時間で終るもののようです。

また、いずれの家事においても「その他家族等」という回答は3～4%程度で、家事が「その他家族」に頼れないことがわかります。したがって、夫の役割分担が重要となるわけですが、「平等」「主に夫」と回答した人は僅か数%です。



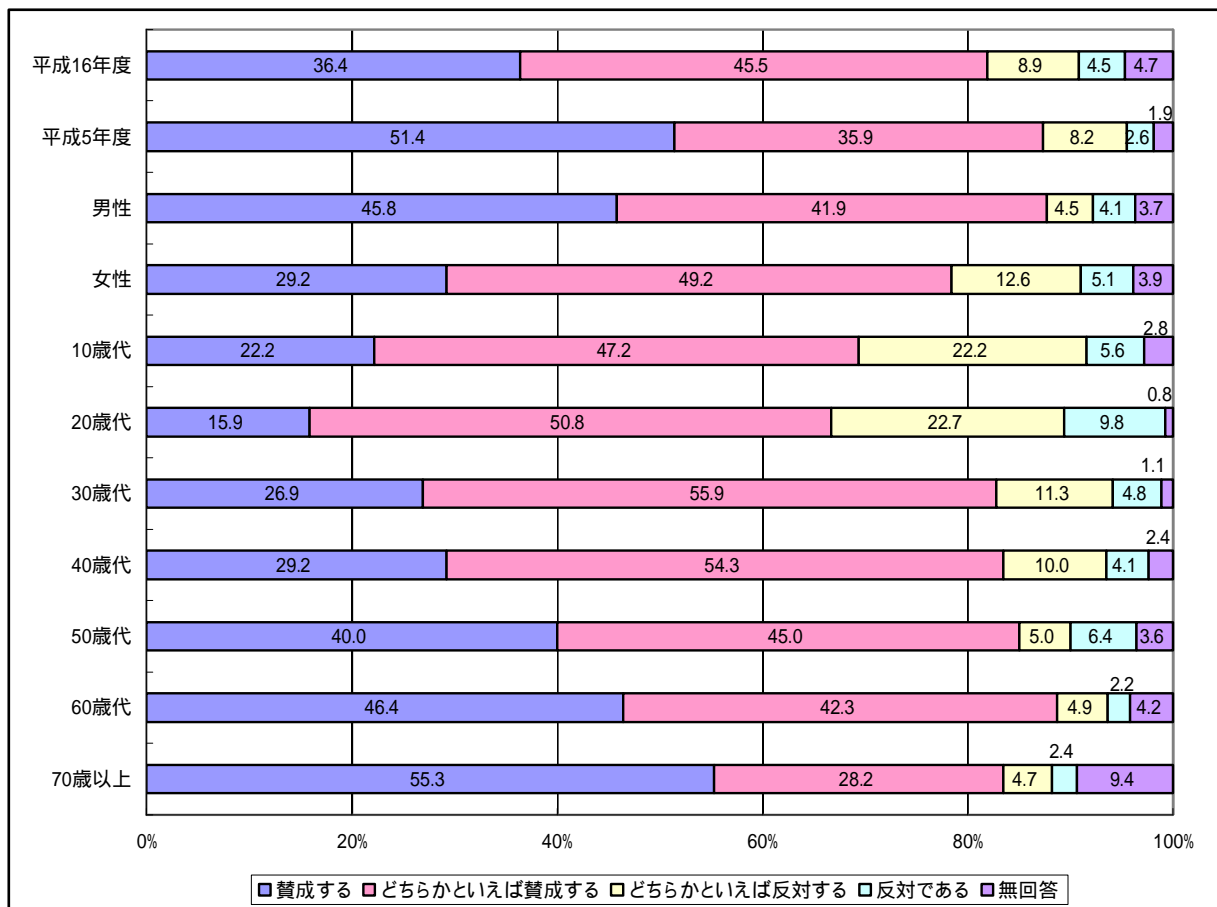
「育児・子供の世話」「高齢者の介護」「子供のしつけや教育」については、独身や子供がいない、核家族などの事由で非該当者率が高くなっていますが、該当者の半数以上で「全部妻」「主に妻、夫は手伝う程度」の回答で、妻に依存する割合が高くなっています。

これらを男女別に見ると、「全部妻」とする割合が男性で小さく、女性で大きくなっており、男女間で認識の違いが見られます。家事・育児等を全て把握している妻から見ると、夫の手伝いは取るに足らない程度であると感じられているのに対し、夫の方は、家事・育児等に多少かかわることによって、過大評価する傾向があるのではないかと想像されます。また、問 - 3で理想としては、「平等」18.5%、「手の空いている方がする」53.9%と回答しているのを考えると、男性が、家事・育児等にかかわりたいと思いつつも、現実には、妻に依存しているという現状も見えてきます。

子育てや教育などについて

性別で異なる「期待する子どもの人間像」

問 - 1 あなたは、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしくしつけたほうがよい」という考え方に賛成しますか、それとも反対ですか。【1つに】



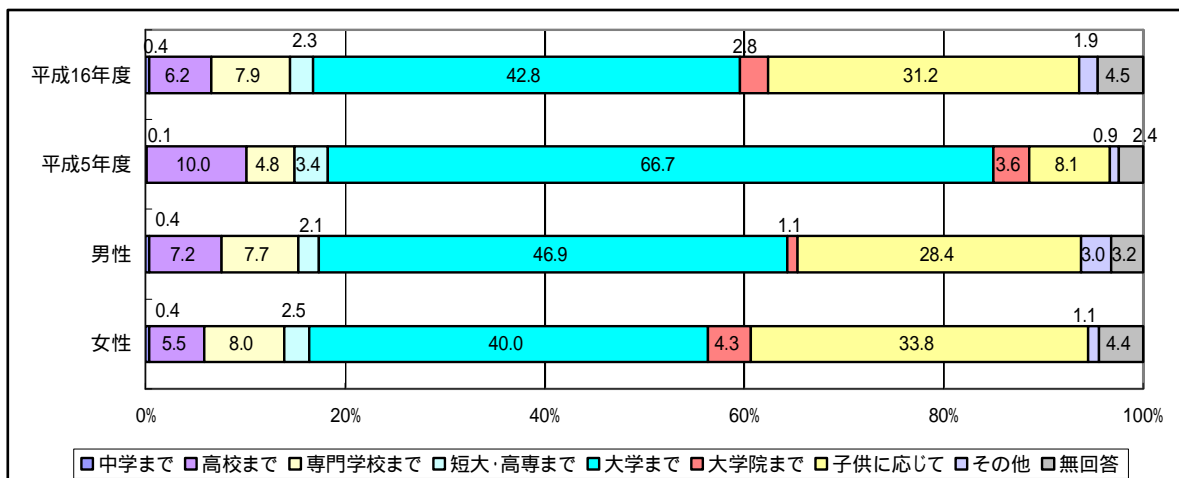
「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしくしつけたほうがよい」という考え方に、全体では「賛成する」は、36.4%「どちらかといえば賛成する」が45.5%となっており、この2つを合わせた81.9%が肯定的に考えていることとなります。平成5年度は肯定派が87.3%とその差はわずか数%ですが、内容は、「賛成する」が51.4%から36.4%、「どちらかといえば賛成する」が35.9%から45.5%となっており、積極的に賛成するという人はかなり減少しています。

男女別に見ると、男性では半数近い45.8%が「賛成する」と答えているのに対し、女性は29.2%と男女間で意識の違いがあるようです。

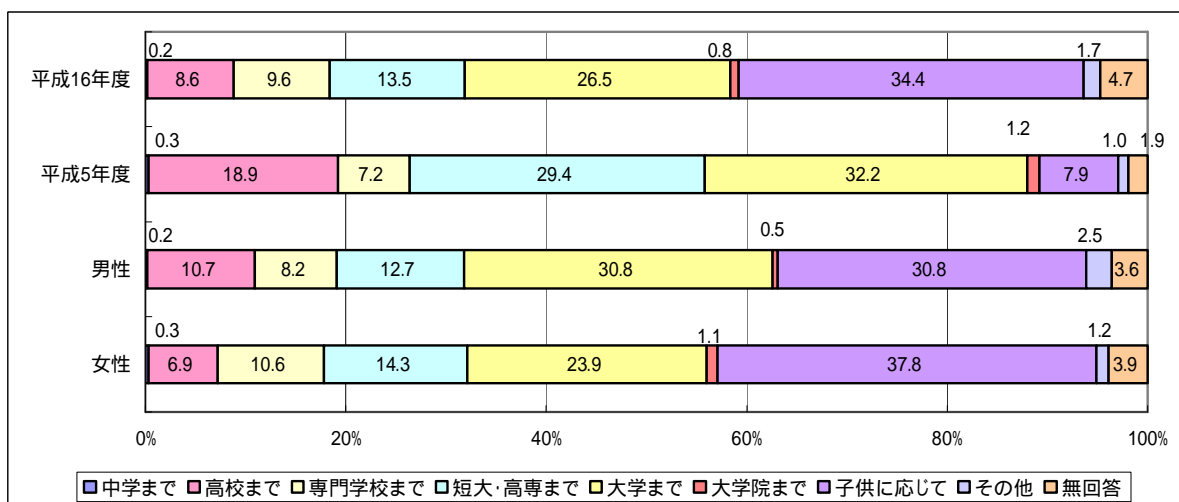
年齢別に見ると、「賛成する」という回答の比率が年代が上がるにつれ高くなっており、70歳代では、半数以上の55.3%に達しています。逆に「反対する」「どちらかといえば反対する」という回答は年代が上がるにつれて低くなっていきます。

問 - 2 子育てを終えた方も、また、お子さんのいない方も、現在、あなたに未成年のお子さんがあると仮定してお答えください。男の子と女の子それぞれの場合についてお答えください。

(1) あなたはお子さんにどの程度の教育を受けさせたいと思いますか。まず、男の子の場合についてお聞きします。【1つに○】



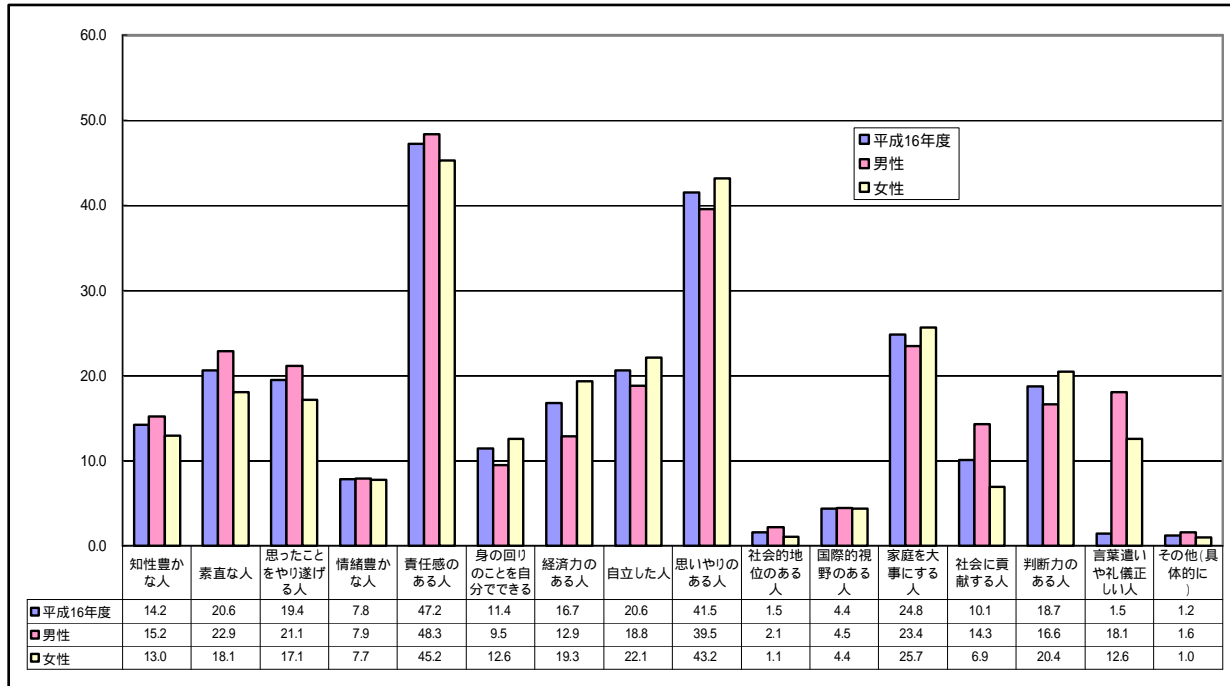
(2) 女の子の場合はどうですか。【1つに○】



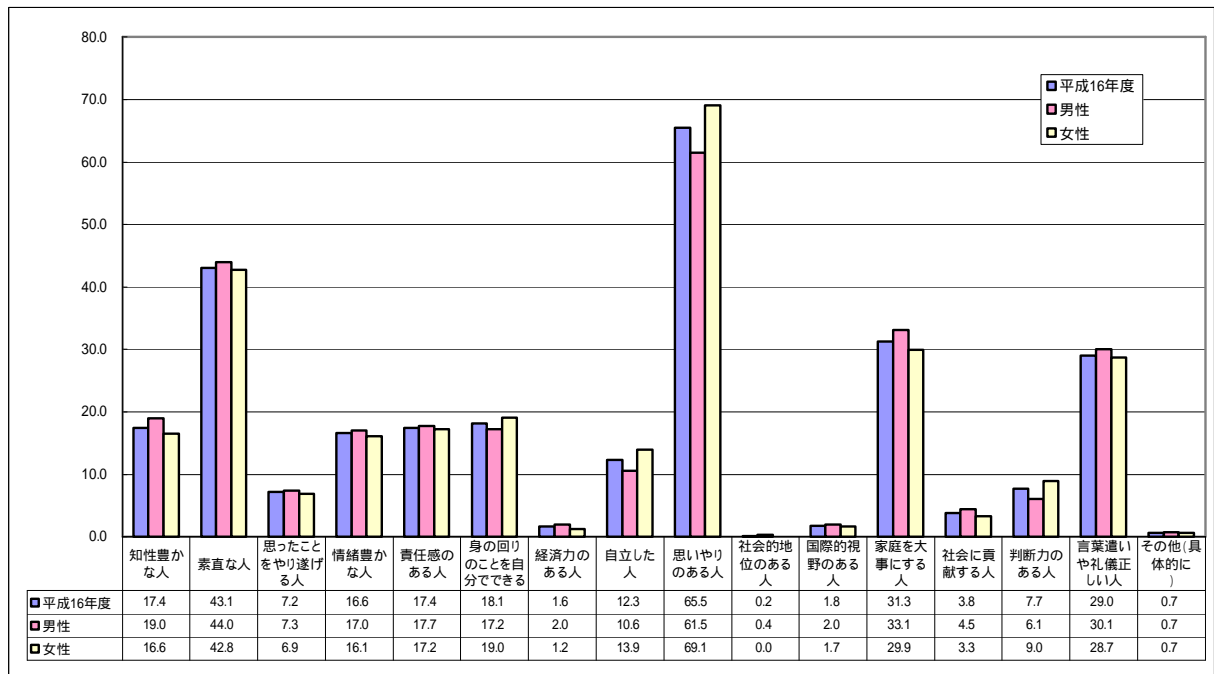
男の子の場合「大学まで」42.8%、「子供に応じて」31.2%、「短大・専門学校まで」7.7%と続いています。それに対して女の子の場合は、「子供に応じて」34.4%、「大学まで」26.5%、「短大・専門学校まで」13.5%となっています。女の子の場合で「大学まで」と回答したのは26.5%で、男の子の場合の半数程度であり、「短大・専門学校まで」という回答が多くなっています。男の子の方により高い学歴を求める傾向があり、「男の子に期待する教育の程度」と「女の子に期待する教育の程度」には、大きな違いがあります。

平成5年度に比べると「子供に応じて」という回答が男の子の場合で8.1%から31.2%、女の子の場合で7.9%から34.4%と大幅に増えており、意識の変化が見られます。

(3) あなたは、お子さんにどのような人になってほしいと思いますか。まず男の子の場合についてお答えください。【3つまで】



(4) 女の子の場合はどうでしょうか。【3つまで】

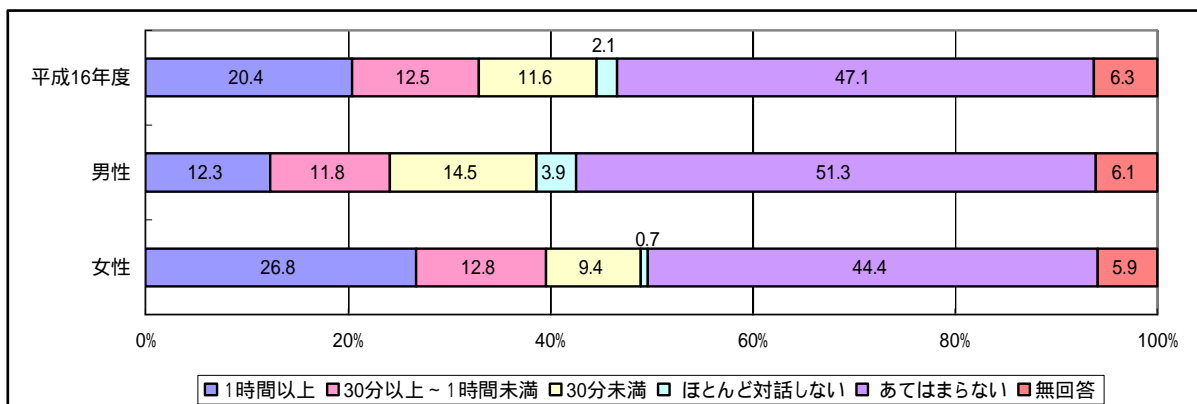


「お子さんにどのような人になって欲しいと思いますか」という設問に対する、「男の子」「女の子」それぞれについての回答結果です。全体では「男の子」の場合は「責任感のある人」47.2%、「思いやりのある人」41.5%「家庭を大事にする人」24.8%と続いています。「女の子」の場合は、「思いやりのある人」65.5%、「素直な人」43.1%、「家庭を大事にする人」31.3%の順になっています。「男の子」、「女

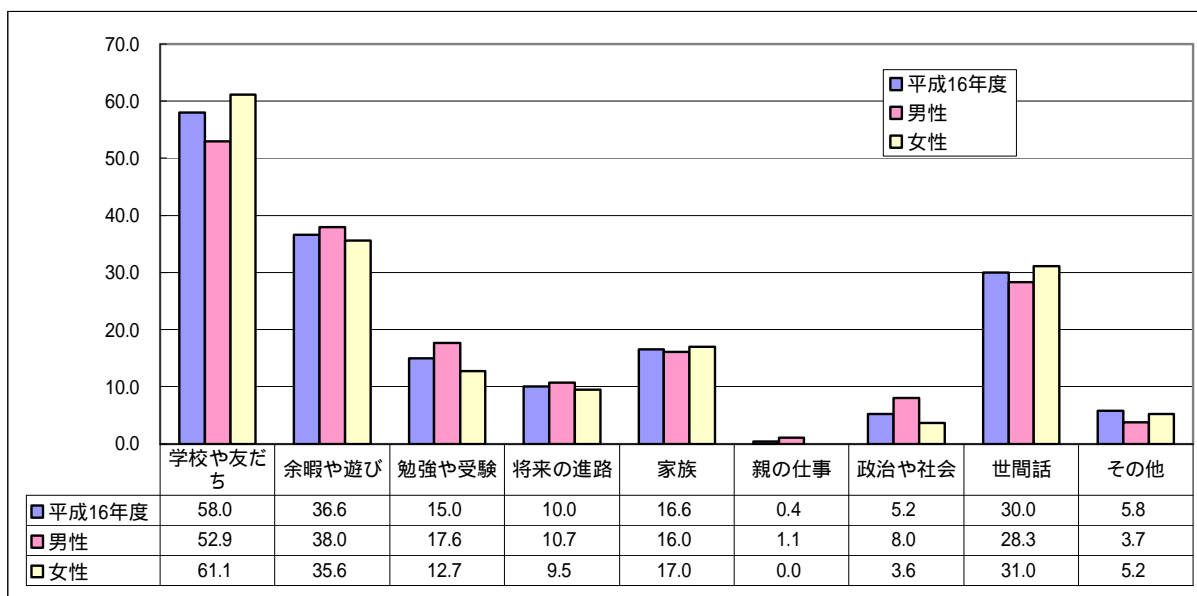
の子」に共通して多くの方が求めている項目は「思いやりのある人」(男の子 41.5%、女の子 65.5%)
 「素直な人」(男の子 20.6%、女の子 43.1%)「家庭を大事にする人」(男の子 24.8%、女の子 31.3%)
 等があり、「男の子」に多く求められている「責任感のある人」「経済力のある人」「社会に貢献する
 人」「自立した人」「思ったことをやり遂げる人」等を「女の子」に期待する人は少なくなっています。

問 - 3 現在、あなたは普段の日、お子さん(未成年)との対話は一日どの程度ありますか。

【1つに】



問 - 3 (1) 対話の内容はどのようなことですか。【主なものを2つに○】



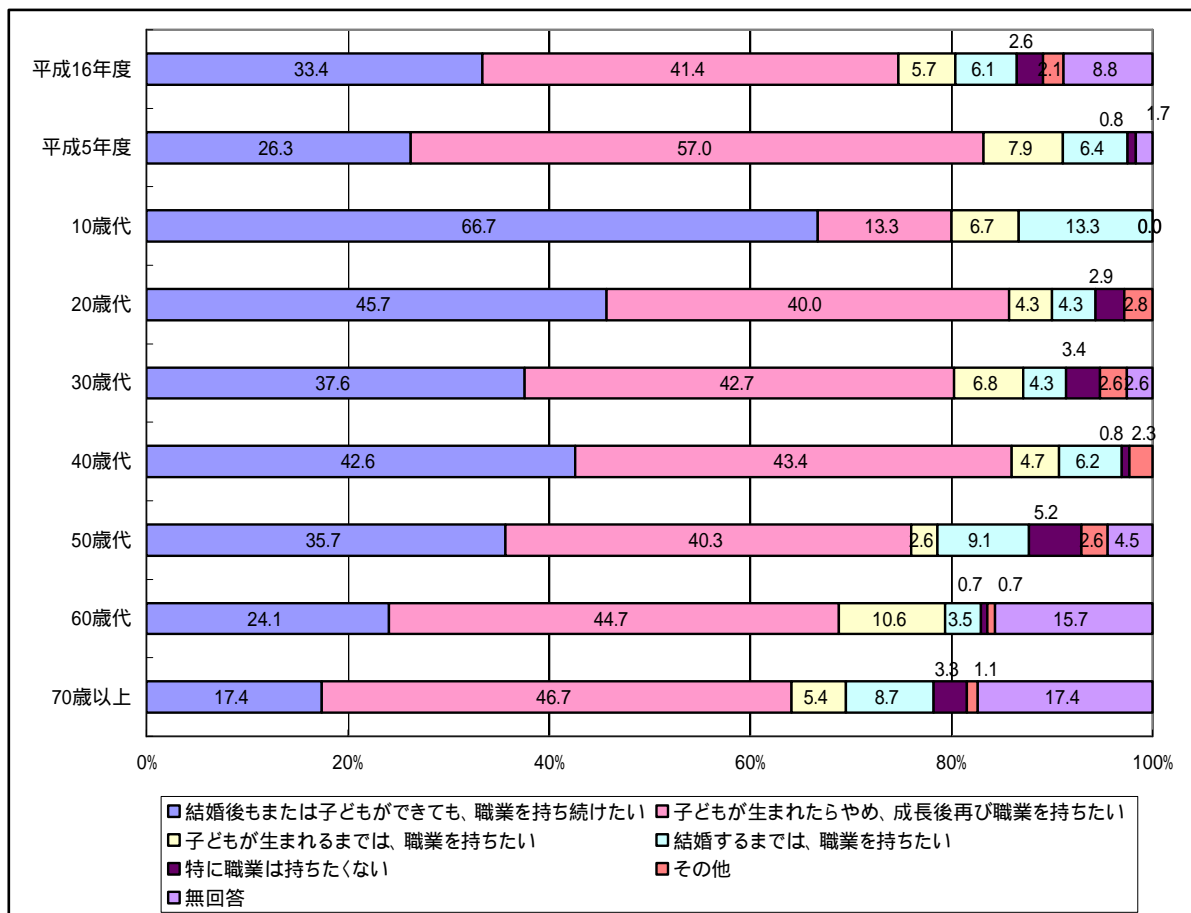
子供(未成年)との対話時間を男女別にみていくと、女性の場合、「1時間以上」が最も多く26.8%、次いで「30分～1時間未満」12.8%、「30分未満」9.4%となっており、男性の場合は「30分未満」が14.5%と最も多く「1時間以上」12.3%、「30分～1時間未満」11.8%の順です。「ほとんど対話しない」が女性は僅か0.7%なのに対して男性は3.9%と、女性の方が「子供との対話」を多く持っていることがわかります。

「子供との対話の内容」をみると、父親とは「学校や友達」52.9%、「余暇や遊び」38.0%という回答が多く、母親とは、「学校や友だち」61.1%、「余暇や遊び」35.6%、「世間話」31.01%、「家族のこと」17.0%等のことを話していることが見て取れます。

女性が職業を持つことについて

強まる「職業継続型」指向

問 - 1 女性の方のみお答えください。ご自分はどのように生きていきたいとお考えですか。(お考えでしたか。)【1つに○】

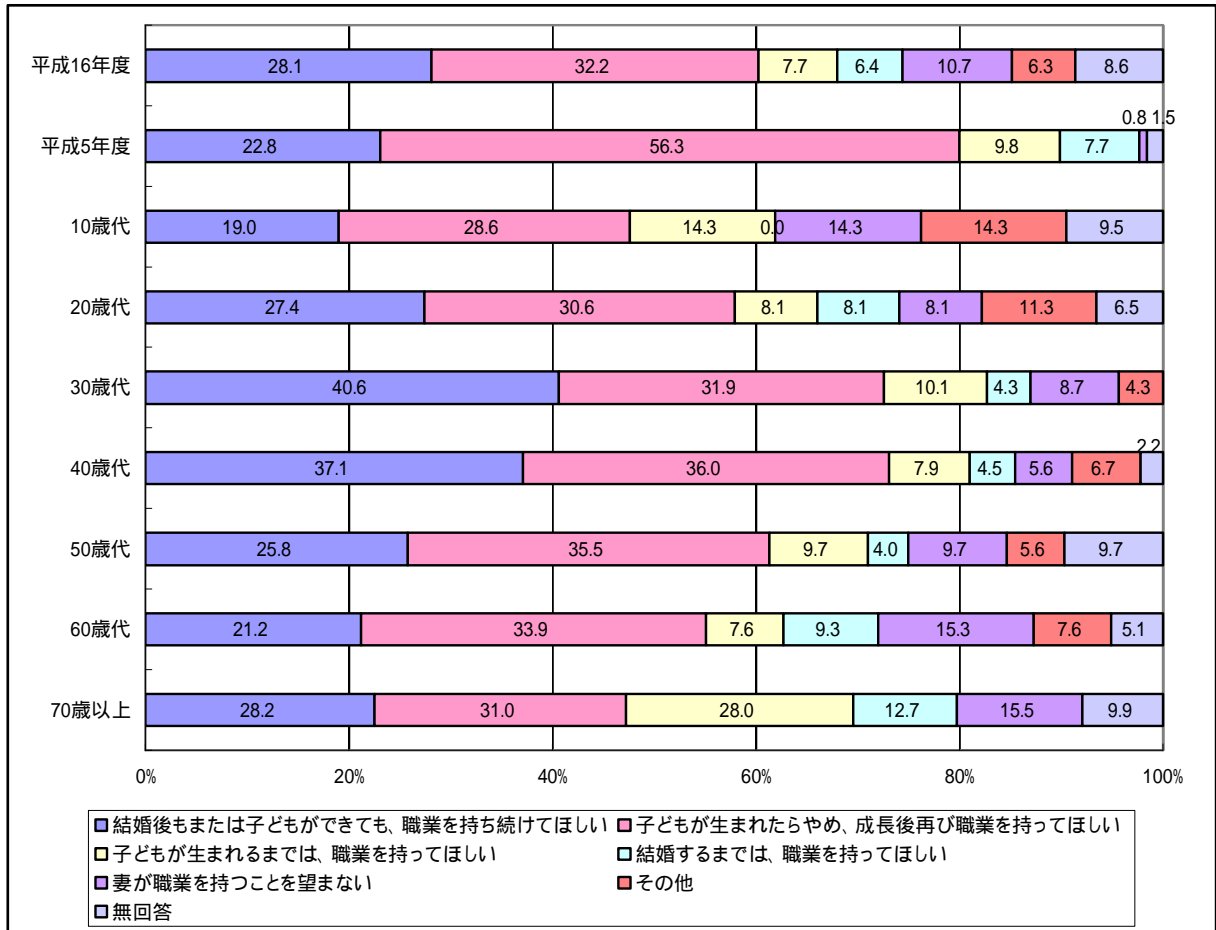


女性の望ましい就業形態について、女性自身に尋ねた結果です。全体では、女性が働く場合、子供が産まれたら退職し、子供の成長後再び職業を持つ「再就職型」を望む回答が最も多く41.4%、次いで、子供が産まれても働き続ける「職業継続型」が33.4%となっており、子供が生まれるまでは働くという「出産退職型」や結婚するまで働くという「結婚退職型」は5~6%と少数派になっています。

年齢別に見ていくと、若い年代ほど「職業継続型」を望む傾向が強く、10歳代で66.7%、20歳代で45.7%となっています。30歳代になると、「職業継続型」(37.6%)を望む回答より、「再就職型」(42.7%)が多くなっていますが、これは、実際に子育て期にあり、両立の困難さを感じている世代であるためと考えられます。40歳代になり、子育てが一段楽すると、「職業継続型」が再び最も多くなり42.6%となり、それ以降年齢が上がるにつれ、「再就職型」を望む回答が多くなっていきます。

平成5年度においては、「再就職型」が57%と半数以上を占めていたのに対し、今回調査においては、41.4%と減少しています。

問 - 2 男性の方のみお答えください。ご自身の配偶者(妻)には、どのようなことを望みますか。(望んでいましたか。【1つに○】)

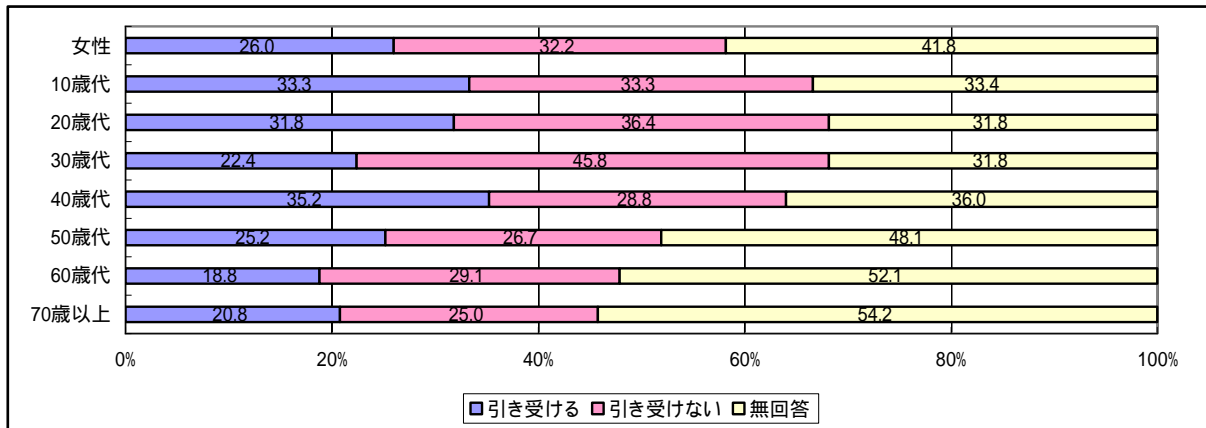


男性に自分の配偶者にどのような就業形態を望むかを聞いた結果です。全体的には、「再就職型」が32.2%と最も多く、次に「職業継続型」が28.1%「妻が職業を持つことを望まない」10.7%と続いています。平成5年度と比べると女性に聞いた場合と同様に「再就職型」を望む回答が56.3%から32.2%と非常に少なくなり、「職業継続型」が22.8%から28.1%と増えています。

年齢別にみると、女性の回答と大きな違いが有り、「職業継続型」を望む回答が、30歳代40.6%と最高になっている点が注目されます。これは、実際に子育てを主に担っている女性と男性の認識の違いが現れたものといえます。また、年齢が上がるのに従い、「出産退職型」「結婚退職型」「妻が職業を持つことをのぞまない」という、女性に子育てと仕事の両立を望まない「専業主婦」を求める回答が増えていきます。

男性の回答では、全ての年代において、「妻が職業を持つことを望まない」というのが6~15%といいのに対して、女性でそれを望むのは僅かであり、ここでも、女性と男性で女性が仕事をするということに対して認識の違いが見られます。

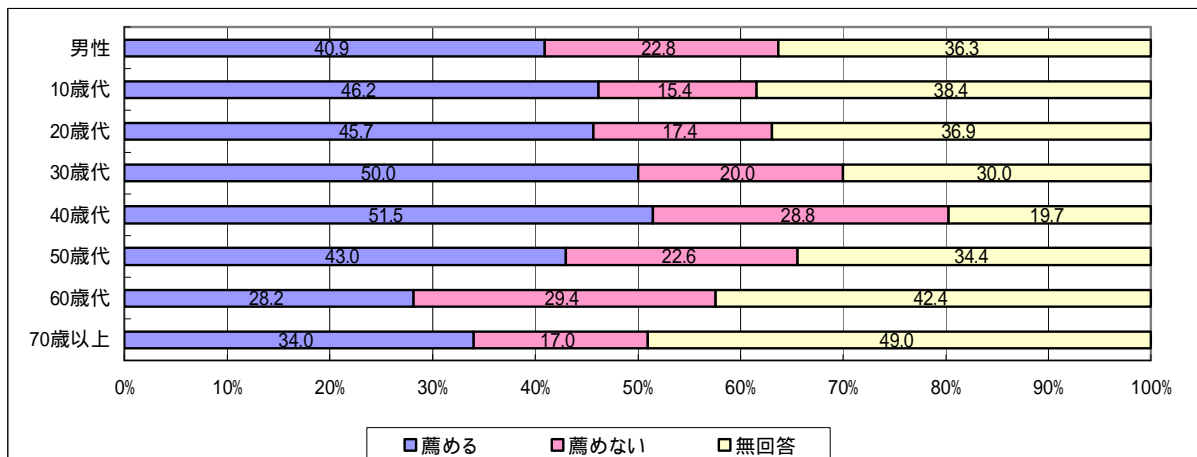
問 - 1 (1) 女性の方のみお答えください。もしあなたが管理職になるよう求められたら引き受けませんか。【1つに○】



女性に自分自身が管理職になることを求められたらどうするか聞いたところ、全体では、「引き受ける」と「引き受けない」が33.3%と同数になりました。

年齢別にみると、子育て期にあると思われる30歳代で「引き受ける」という回答が22.4%と低く、40歳代で「引き受ける」35.2%「引き受けない」28.8%と逆転しますが、その他の年代では、僅かながら「引き受けない」が「引き受ける」を上回っています。問 - 1では、多くの女性が生涯を通じて一時的に仕事を離れることがあっても、仕事をしたいと回答していることを考えると「仕事はしたいけれども責任ある立場にはなりたくない」という女性の姿が見えてきます。そこには、女性の多くが、家事や育児・介護といった家庭責任を一人で担っているという現実が背景にあるということがいえます。

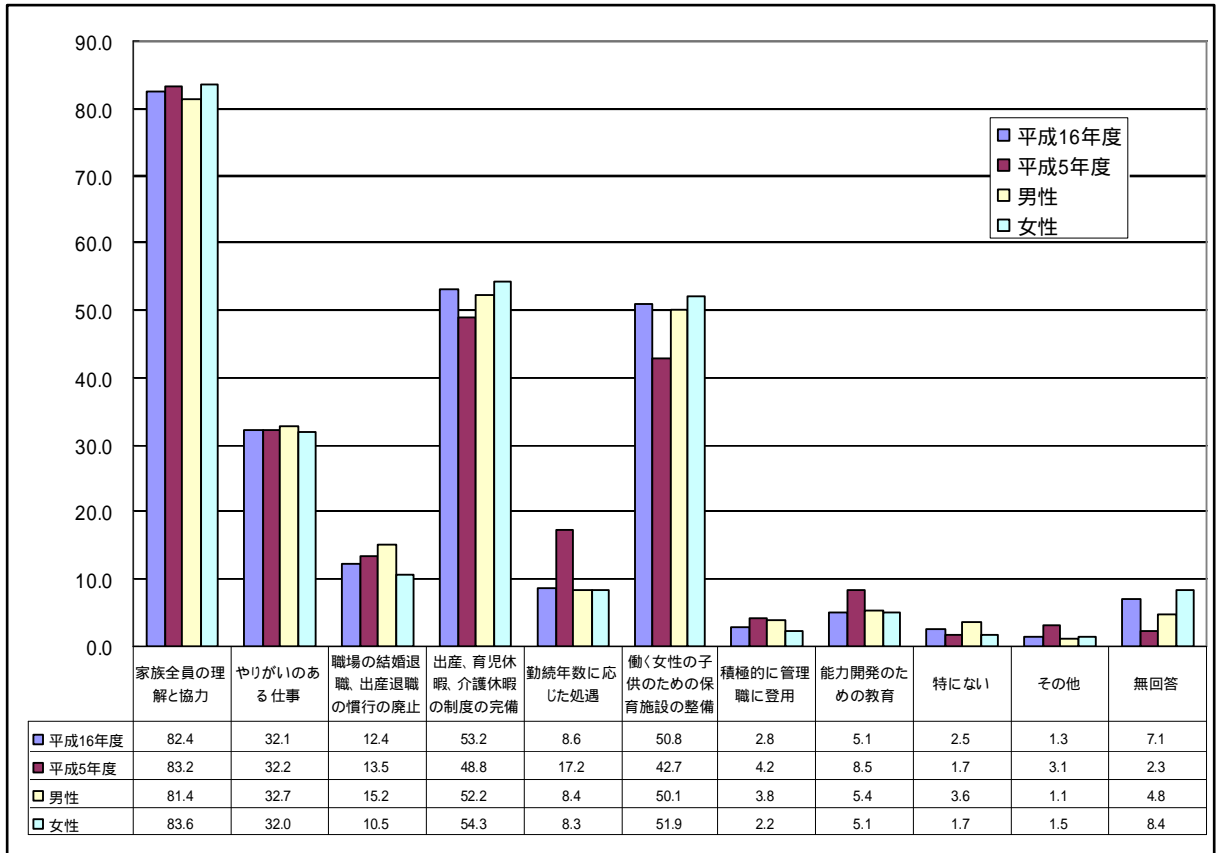
問 - 2 (1) 男性の方のみお答えください。もしあなたの妻が管理職になるように求められたら引き受けることを薦めますか。【1つに○】



男性に、自分の配偶者(妻)に管理職になることを薦めるかどうか聞いた結果、全体では、「薦める」が40.9%と最も多く「薦めない」という回答はその半数程度です。

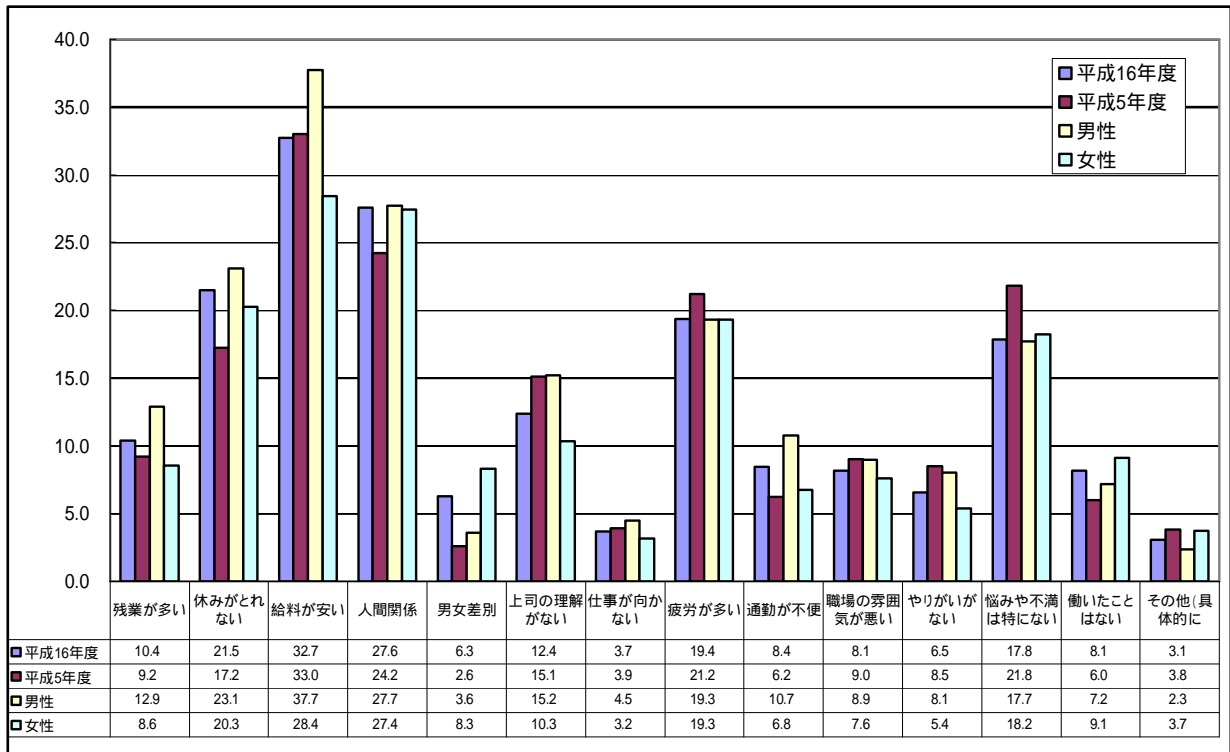
年齢別に見ても、60歳代を除く全ての年代で「薦める」という回答が多くなっています。女性に比べ、会社組織等に所属することの多い男性にとっては、「管理職になることを求められたら引き受ける」ということが、当たり前のこととして受け止められているのかも知れません。

問 3 あなたは、女性が長く働き続けるために何が必要だとお考えですか。【3つまで】



女性が長く働き続けるために必要なことについて聞いた結果、「家族の理解と協力」という回答が最も多く82.4%、次に「出産・育児・介護休暇制度の完備」53.2%、「保育施設の整備」50.8%となっています。これらの項目は、女性が、家庭生活と労働生活を両立するために必要な条件と言えます。続いて、女性労働生活事態を充実させる条件である「やりがいのある仕事」32.1%、「結婚・出産退職の慣例の廃止」12.4%、「勤務年数に応じた処遇」8.6%が上がっています。平成5年度においても同様の項目が上位に上がっています。

問 - 4 あなたは、現在の職場あるいは以前働いていた職場（自営業を含む）で何か悩みや不満に思っている（いた）ことがありますか。【3つまで〇】



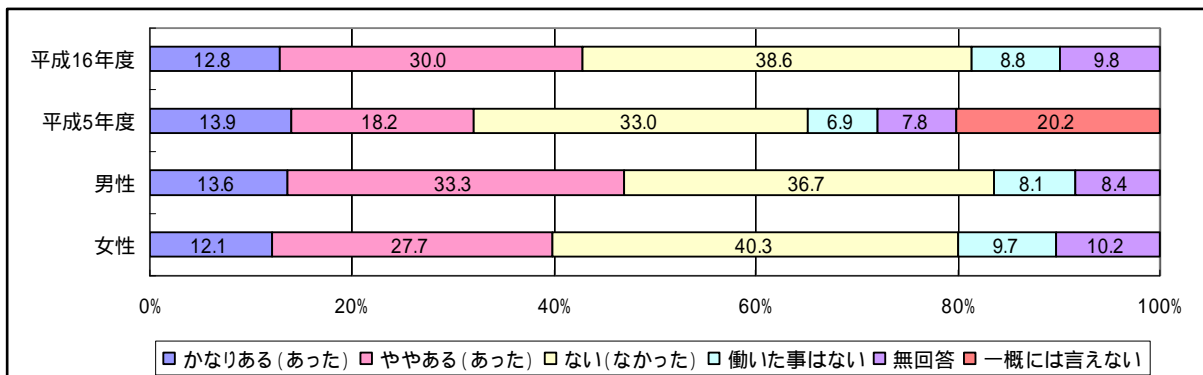
職場での悩みや不満に思っている（いた）ことを尋ねた結果、全体では「給料が安い」32.7%、「人間関係」27.6%、「休みが取れない」21.5%、「疲労が多い」19.4%の順になっています。これらの悩みや不満は、男女に共通しています。

男女別に見ていくと、「給料」「休日」「残業」「上司の理解」等の項目に対して、男性の方が女性に比べ不満に思っていると回答した比率が高くなっています。女性で「男女差別」に悩みや不満を感じている（いた）とした人は、男性の3.6%と比べ8.3%と多くなっているものの全体から見ると低い水準になっています。

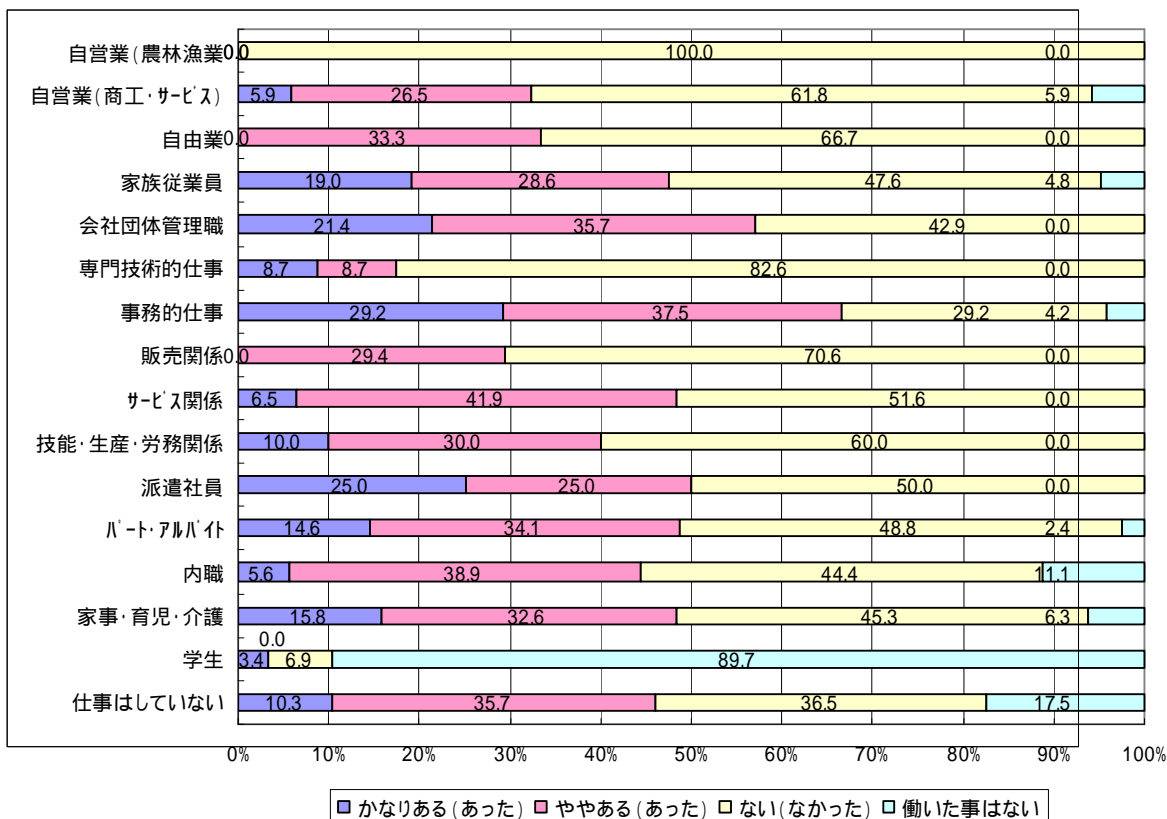
男性の方が意識する職場での「不平等」

問 - 5 あなたは、現在の職場（以前働いていた職場）では、男女間に不平等がある（あった）と思いますか。【1つに○】

職場の男女不平等感（男女別）



職場の男女不平等感（職業別）



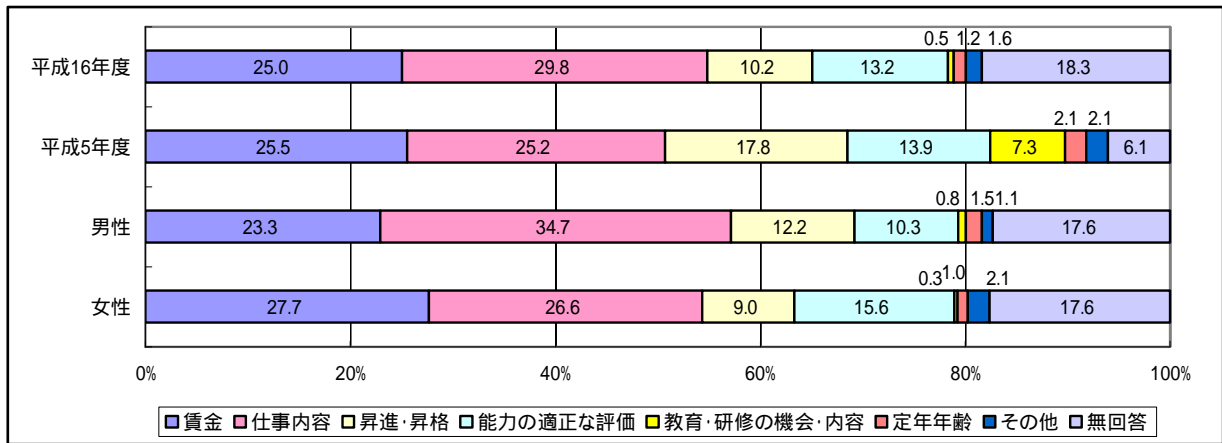
職場に男女不平等がある（あった）かという設問に対し、男女別、職業別に集計した結果です。まず、全体的に見ると、「かなりある」12.8%、「ややある」30%の合計は42.8%で、「ない」とする人の38.6%を超えており、働いている人のうち半数以上の人々が職場に男女不平等があると回答しています。

男女別に見ると、男性の方が女性よりも「かなりある」（男性13.6%、女性12.1%）「ややある」（男性33.3%、女性27.7%）と男性の方が「ある」としている人が多いことが注目されます。

職業別に見てみると、「かなりある」「ややある」と回答した人の合計で、「事務的な仕事に従事する人」

が66.7%と最も多く、「会社団体の管理職」57.1%、「派遣社員」50%、「パート・アルバイト」48.7%「サービス業」48.4%と、かなりの業種で半数近くの人が男女差別があると回答しています。特に、「事務的仕事」の29.2%、「派遣社員」の25%、「会社団体管理職」の21.4%が「かなりある」と回答している点が注目されます。反対に「専門技術的な仕事」(教師、医師、技師)に従事する人は、82.6%が「ない」と回答しています。

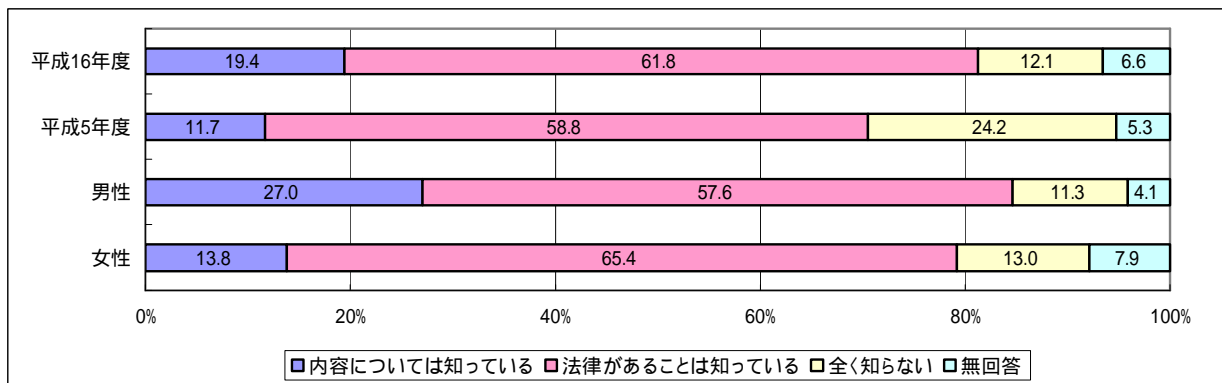
問 5 (1) 職場における男女不平等とは、具体的にどのようなことですか。【1つに○】



職場における男女不平等の内容としては、「仕事の内容」29.8%、「賃金」25%、「能力の適正な評価」13.2%「昇任・昇格」10.2%と続いています。

男女別では「賃金」「能力の適正な評価」という面で、女性が男性より不満に思っていると回答している人が多くなっています。

問 - 6 1986年(昭和61年)4月から「男女雇用機会均等法」が施行されましたが、あなたはこの法律の内容をご存知ですか。【1つに○】

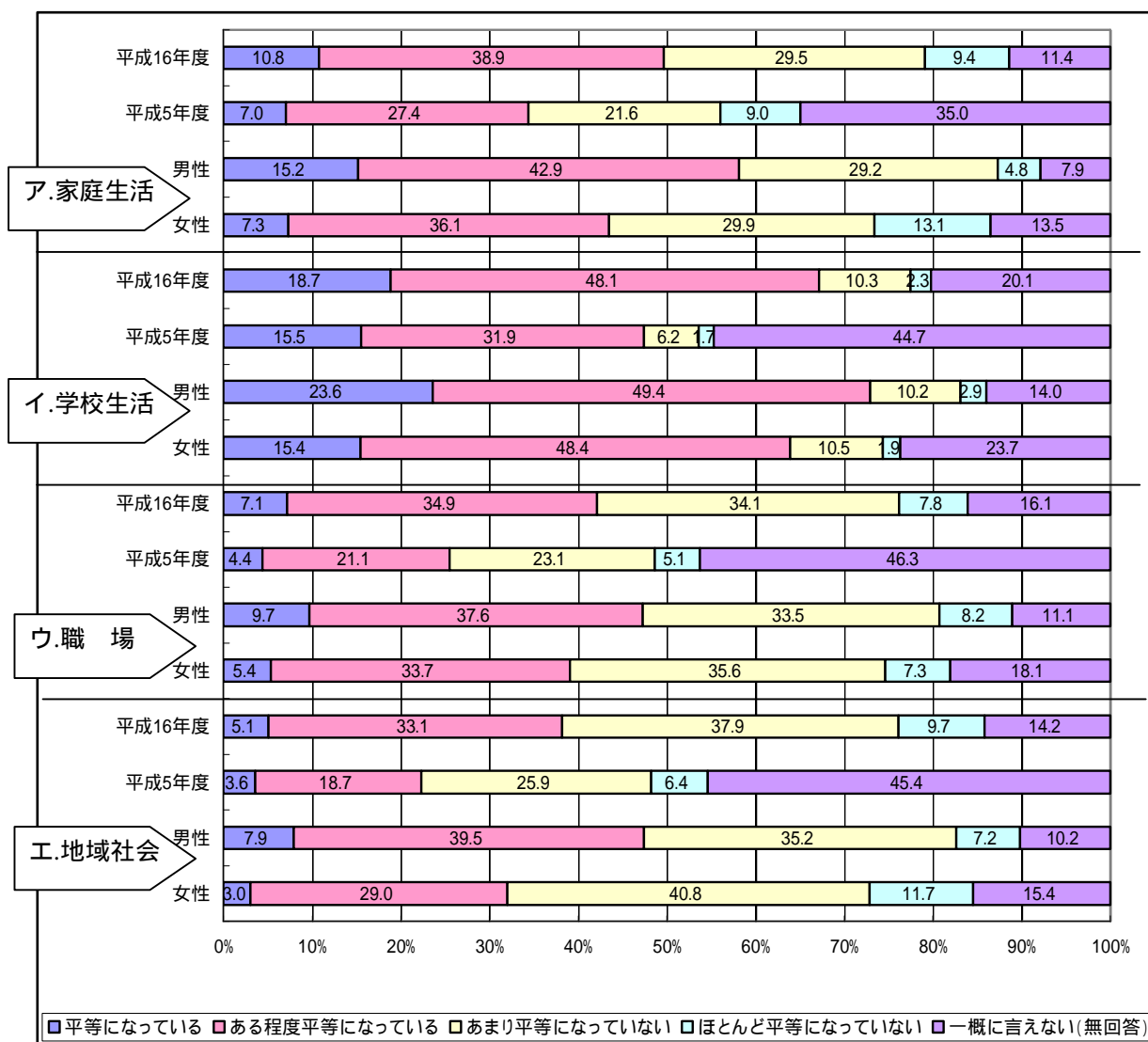


「男女雇用機会均等法」の周知度をみると、全体では、「あることは知っている」が61.8%となっていますが、「内容について知っている」は19.4%過ぎません。また女性で「内容について知っている」と回答したのは僅か13.8%で、平成5年度に比べると周知は進んでいますが、まだ低い状況です。

学校は平等、家庭・職場・地域は不平等

問 - 7 あなたは、日常生活の次のような場面で、男女平等は実現されていると思いますか。

【1つに○】



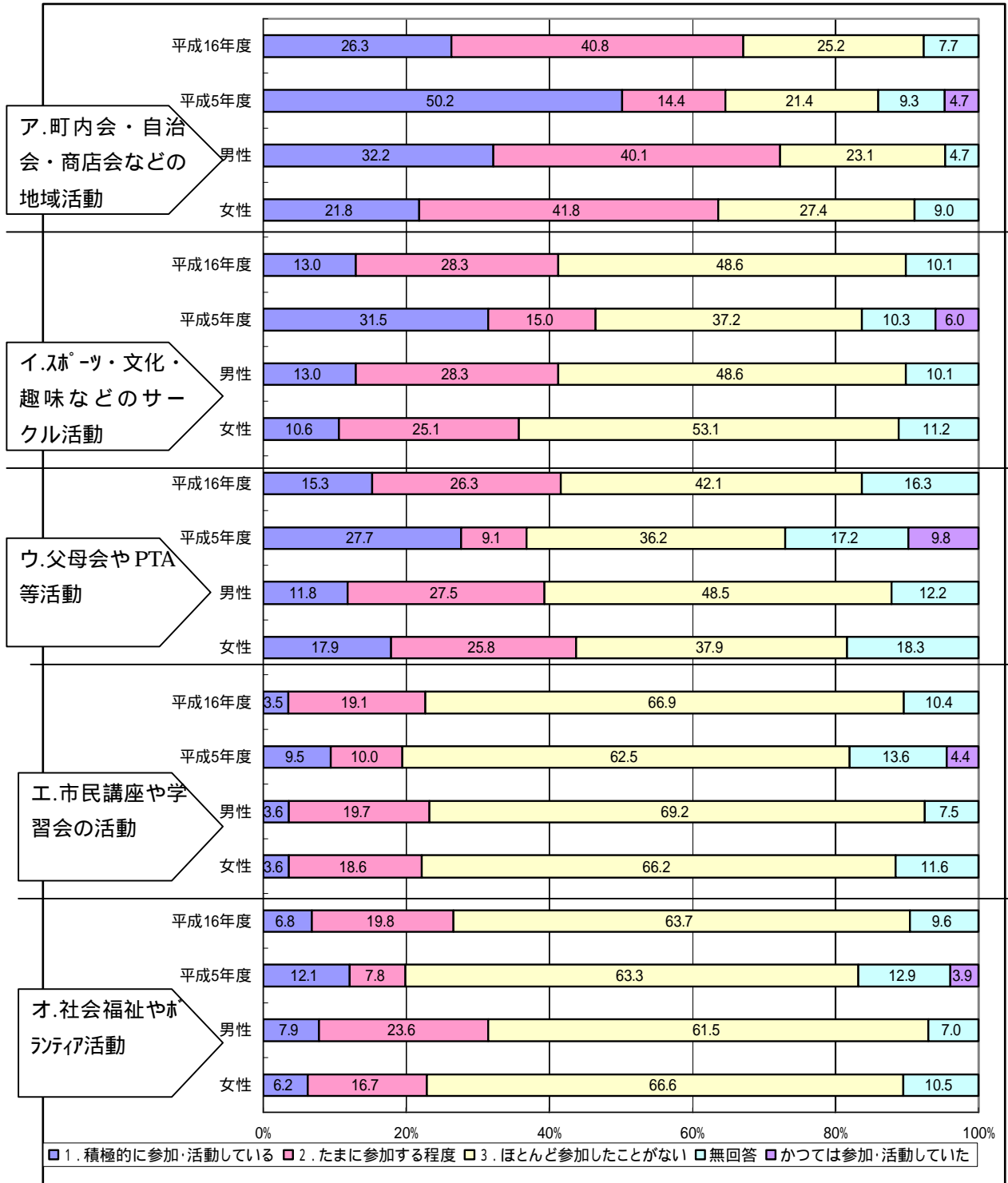
日常生活の各分野で男女平等がどの程度実現されているかを示した表です。これを見ると、「学校生活」では、「(ある程度)平等になっている」とした人は66.8%、「家庭生活」49.7%、「職場」42%、「地域社会」38.2%であり、「(あまり)平等になっていない」は「地域社会」47.6%、「職場」41.9%、「家庭生活」38.9%、「学校生活」12.6%という結果から、「学校生活は平等」「職場・地域社会は不平等」といえます。また、注目すべき点は、全ての項目において女性の方が「(あまり)平等」ではないと回答していることです。

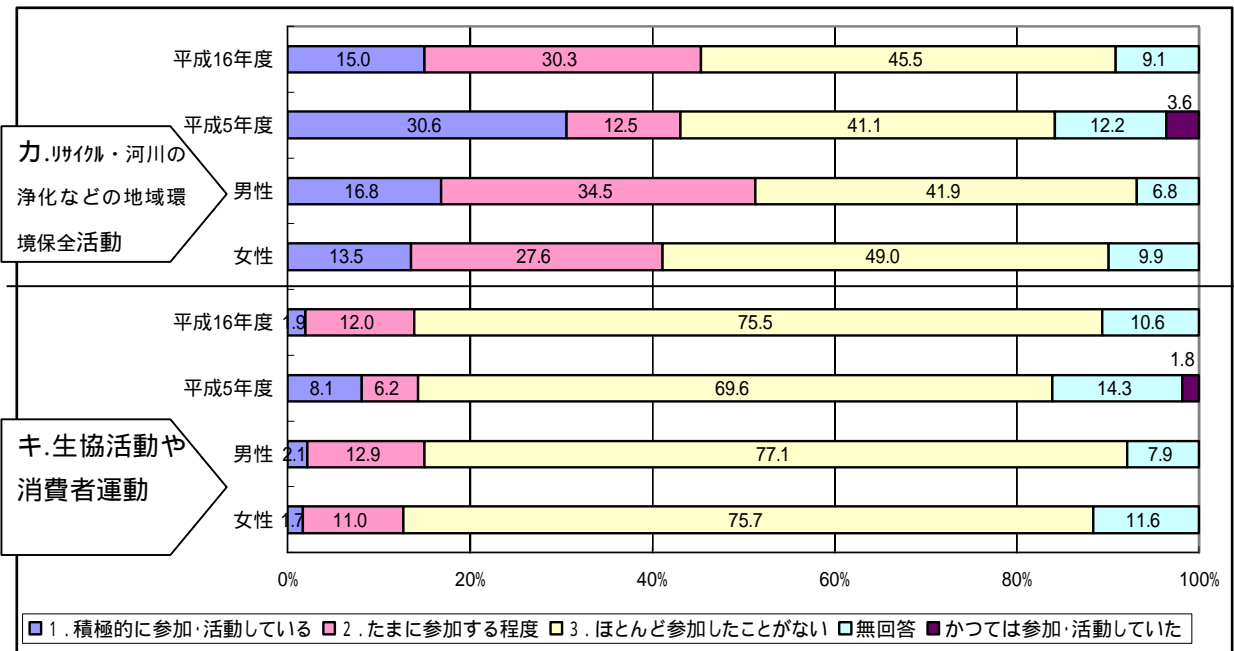
平成5年度と比べると全ての項目において「平等になっている」と回答している人が増えています。

地域社会での活動について

低い地域活動への女性の参加率

問 - 1 あなたは、現在、次にあげるような社会的活動に、どの程度参加したり活動したりしていますか。【1つに○】

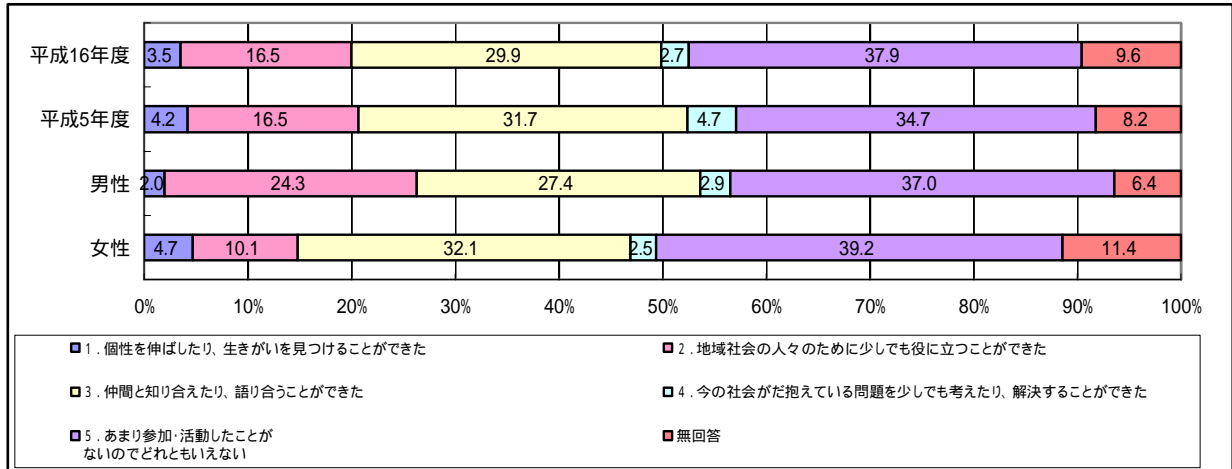




地域社会での諸活動への参加状況を尋ねた結果、「町内会・自治会・商店会活動」については、「積極的に参加」26.8%、「たまに参加する程度」40.8%と多少なりとも参加している人が60%を超えています。「スポーツ・文化・趣味などのサークル活動」、「父母会やPTA活動」、「リサイクル・河川の浄化などの地域の環境保全活動」などについても、参加している人は30%以上になっています。これらの、地域住民または、親という立場で半ば参加が義務付けられているような活動にはついては、比較的参加者が多いのに対して、「市民講座や学習会活動」や「社会福祉やボランティア活動」、「生協活動や消費者運動」等の自発的・自主的な活動においては、「積極的に参加」「たまに参加する程度」を合わせても20%程度で、そのなかで「積極的に参加」という人となると僅か5%程です。このようなことから、自主的な地域活動の基盤は、まだまだ弱いといえます。

また、これらの地域活動を男女別にみると「父母会やPTA」を除いて男性に比べ女性の参加率が低いことがわかります。

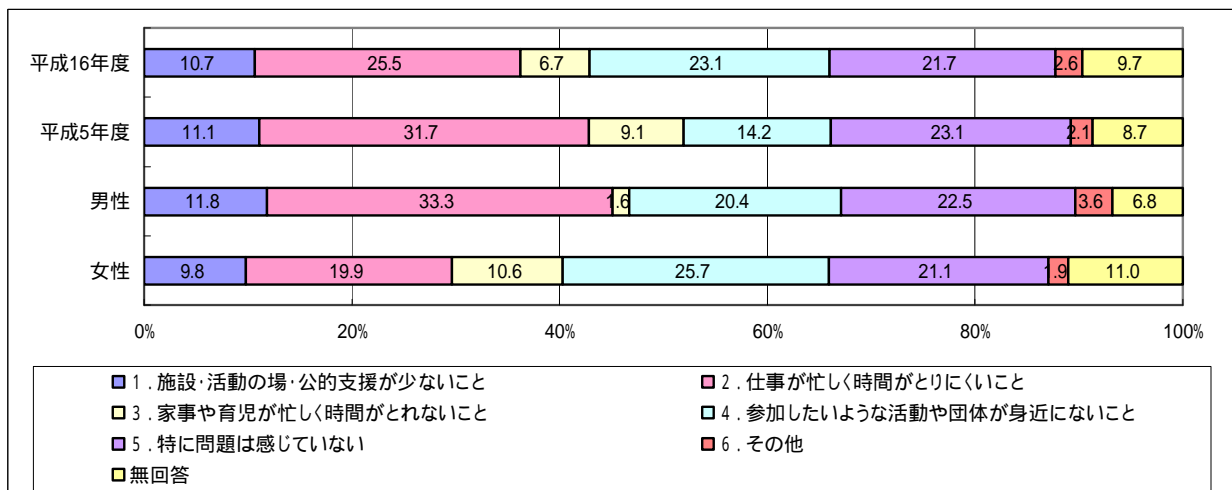
問 - 2 あなたは、社会活動に参加して、得られた最も大きな成果は何でしたか。【1つに○】



社会活動への参加を通じて得られた成果を聞いた結果です。全体的には、「仲間と知り合えた」という回答が最も多く29.9%、次に「地域社会に役立てた」16.5%となっています。

男女別にみると、男性では「地域社会に役立てた」24.3%と「仲間と知り合えた」27.4%が均衡しているのに対して、女性は「仲間と知り合えた」が32.1%と多く、「地域の役に立てた」は10.1%と少なくなっています。男性は、地域活動に比較的深く関与しているのに対し、女性はまだ仲間づくりの段階という人が多いようです。平成5年度においても同様の傾向が見られます。

問 - 3 あなたは、社会活動する上で、最も課題だと思うことは何ですか。【1つに○】



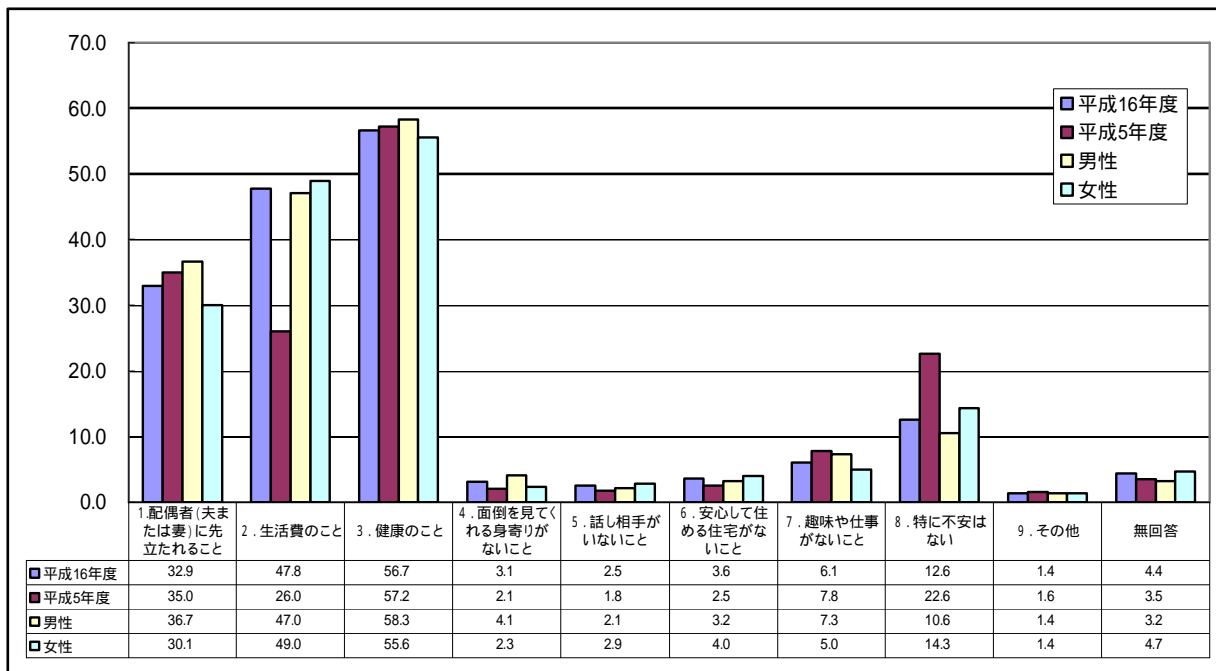
社会活動をする上での問題点について尋ねたところ、全体では「仕事が忙しく時間が取れない」が25.5%、「参加したい活動・団体がいない」23.1%「施設・活動の場・公的支援がない」10.7%「家事・育児が忙しく時間が取れない」6.7%となっています。

男女別で見ると、男性の3割以上が「仕事の忙しさ」を参加できない理由として上げており、女性では2割程度が理由としています。「家事・育児」を理由としているのは、女性で10.6%いるのに対し、男性では僅か1.6%です。

高齢化社会や健康の問題について

「老後の生活」理想と現実のギャップ

問 - 1 あなたは、老後の生活について不安に思っていることがありますか。【2つまで】

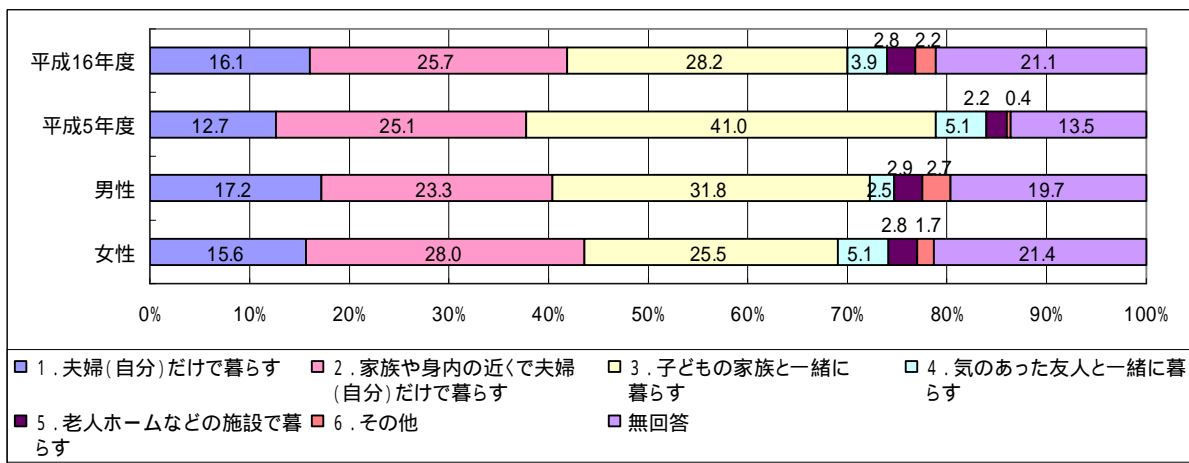


老後の生活について不安に思っていることを聞いた結果、全体では「健康のこと」が最も多く 56.7%、次に「生活費のこと」47.8%、「配偶者に先立たれること」32.9%となっています。

男女別に見ると、男性は女性に比べ「配偶者に先立たれること」「面倒を見てくれる身寄りがない」と日常の炊事等に不安を抱いている人が多くなっています。

平成5年度と比べると「生活費」を不安に思っているという人が倍増している点も注目されます。

問 - 2 ア. あなたは、条件が許せば、老後はどのように暮らすのが理想だと思いますか。【1つに○】
理想の生活



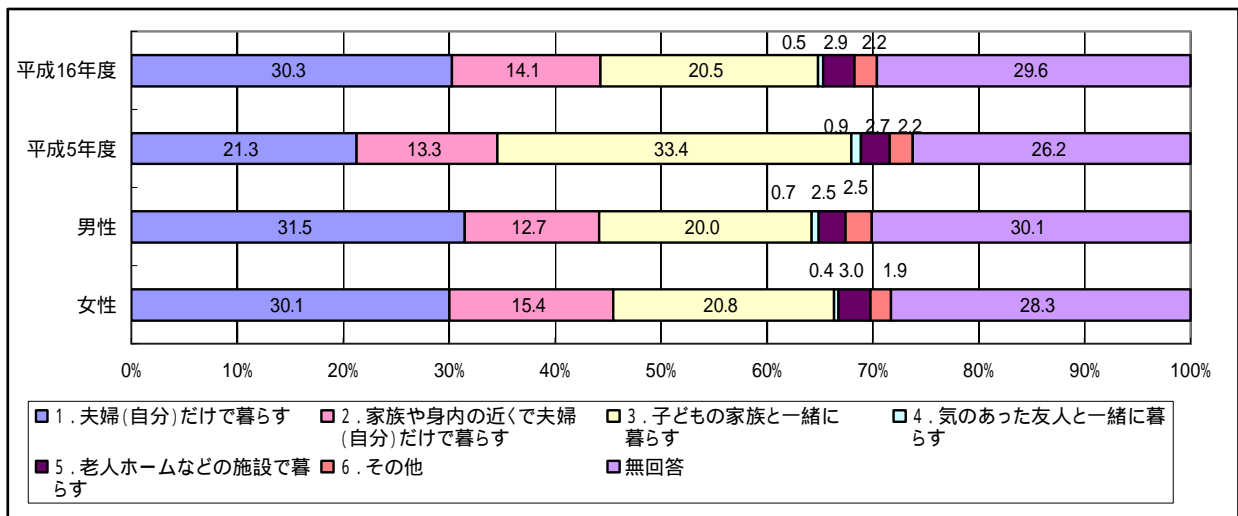
老後の暮らし方の理想は、全体では「子供の家族と一緒に」が28.2%で最も多く、次に「家族や身内の近くで夫婦（自分）だけで暮らす」が25.7%、「夫婦（自分）だけで暮らす」16.1%となっています。

男女別にみると、女性よりも男性に「子供の家族と暮らす」というのを希望する回答が多く3割以上になっています。女性は「子供との同居」よりも「家族や身内の近くで夫婦（自分）だけで暮らす」を望む回答が最も多くなっています。

平成5年度と比べると「子供の家族と一緒に」という回答が41%から28.2%と大きく比率を下げています。

問 - 2 イ．現実にはあなたはどのように暮らすことになると思いますか。（あるいはすでに暮らしていますか。）

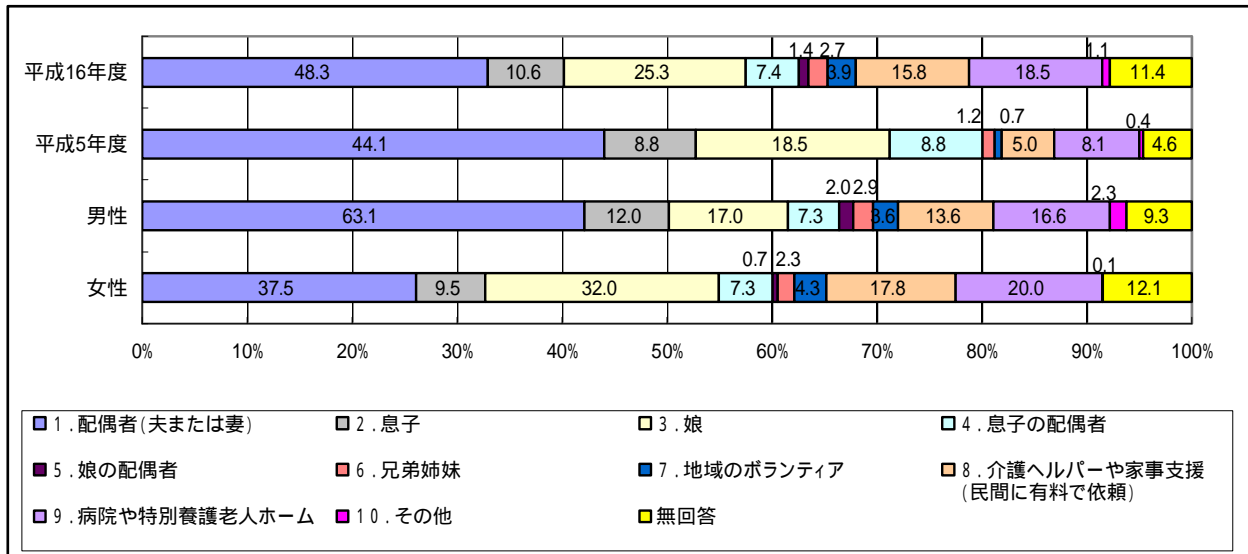
現実の生活



実際にはどのように暮らすと思うか（暮らしているか）聞いた結果、「子供の家族と一緒に」という人はそれを理想とする人より8%程低い20.5%、同様に「家族や身内の近くで夫婦（自分）だけで」も10%程下がり14.1%となっています。逆に、「夫婦（自分）だけで暮らす」という回答は倍近い30.3%となっています。

全体的に、「理想」よりも「現実」の回答に「無回答」が多いのは、まだ具体的な老後の生活をイメージすることの難しい若年層に「無回答」が多いためではないかと思われます。

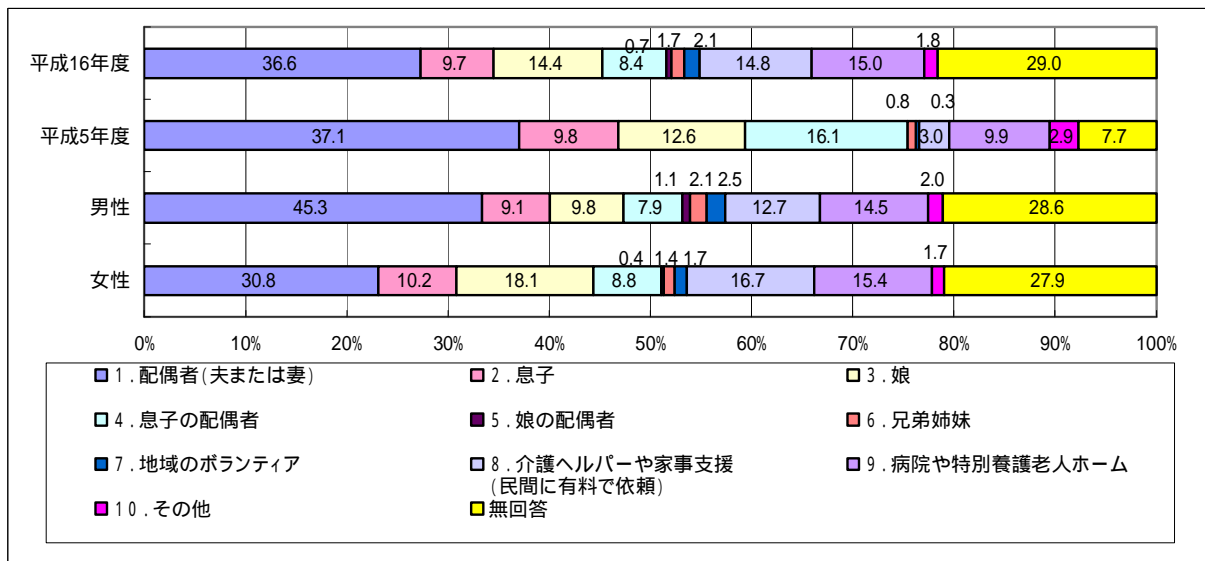
問 - 3 ア . あなたが万一寝たきりになったことを仮定して、介護が必要になった場合、だれに身の回りの世話をしてもらいたいと希望しますか。【2つまで回答】【平成5年調査は1つ回答】



介護が必要になったとき、だれにそれをしてもらうのが理想を聞いたところ、全体では「配偶者」が48.3%、「娘」25.3%、「介護ヘルパーや家事支援」15.8%、「病院や特別養護老人ホーム」18.5%、「息子」10.6%「息子の配偶者」7.4%と続いています。

男女別にみると、女性「配偶者」に介護を望む人は、男性の「配偶者」に望む人の半程度で、その分「娘」の介護を望む回答が多くなっています。また、女性は希望する介護者として「介護ヘルパー家事支援」「病院や特別養護老人ホーム」を望む回答が男性に比べ多くなっています。

イ . 現実にはだれに世話をしてもらうことになると思いますか。(あるいはすでにしてもらっていますか。)【2つまで回答】【平成5年調査は1つ回答】



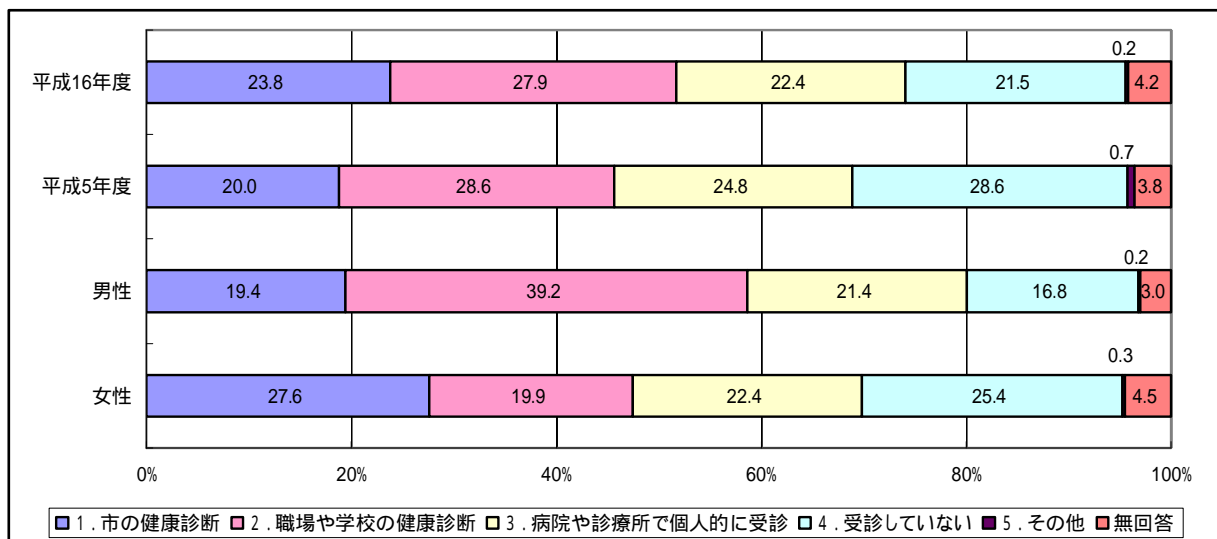
現実にだれに介護してもらうことになるか(してもらっているか)聞いた結果、理想と同様「配偶者」という回答が36.6%と最も多く、「病院や特別養護老人ホーム」15%、「介護ヘルパーや家事支援」14.8%、「娘」14.4%となっており、理想と現実とで大きく違っています。理想では「配偶者」に次いで「娘」を

上げる人が多くなっているのに対して、現実に「娘」に介護してもらえると考えているのは、その半数程度です。また、「無回答」が多くなっているのは、具体的に介護をイメージすることの難しい若年者層に「無回答」が多いためと考えられます。

平成5年度と大きく変化が見られる点は、介護者に「息子の配偶者」にしてもらう（もらっている）と言う回答が16.1%から8.4%と大きく比率を下げていることです。その分、「介護ヘルパー」や「病院や特別養護老人ホーム」という回答が伸びており、介護保険制度の導入によるものと推測されます。

検診機会の少ない主婦

問 - 4 健康管理について教えてください。あなたは、最近1年間にどこで健康診断を受けましたか。
【あてはまるもの1つに○】



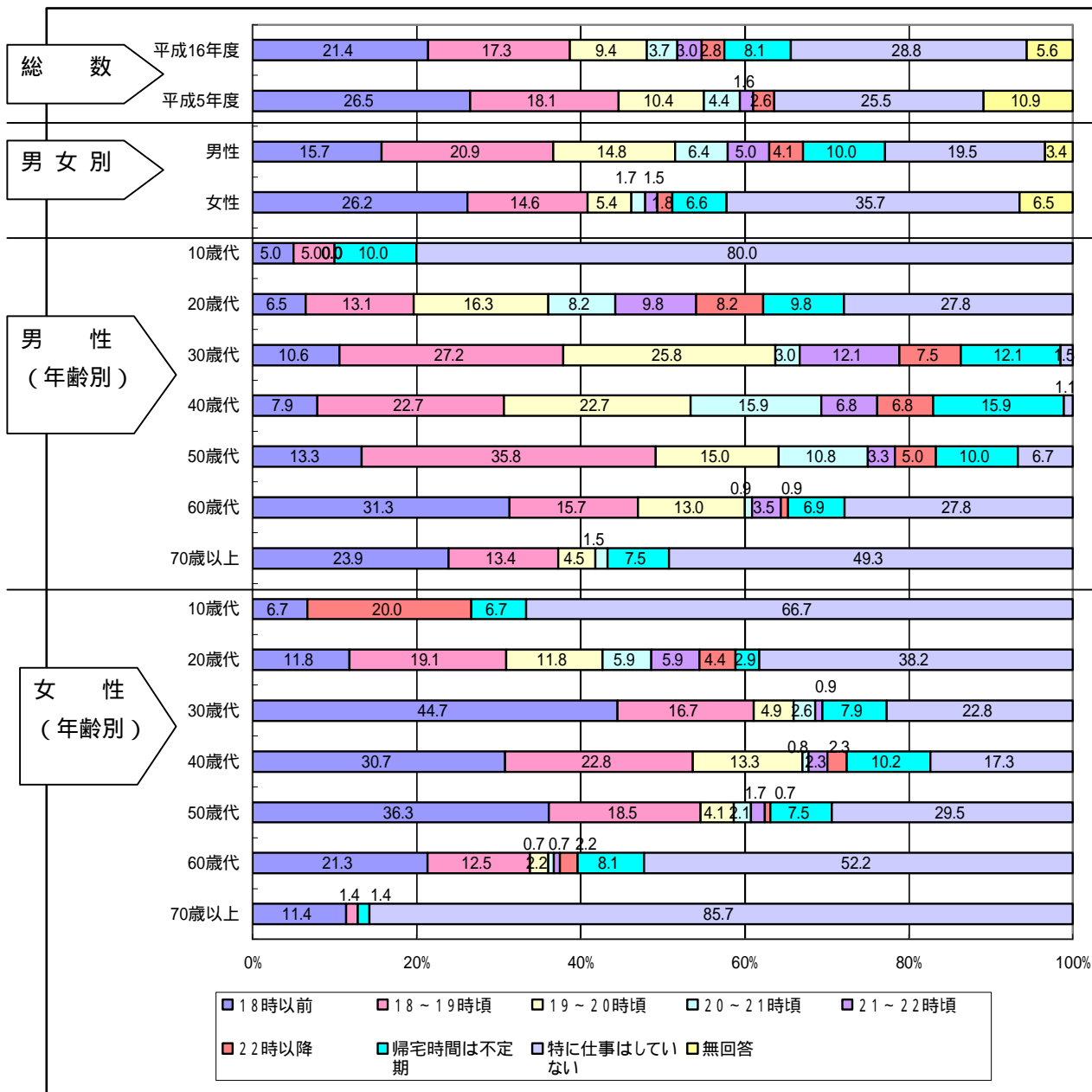
最近1年間で健康診断を受けたかどうか、また、どこで受けたかを聞いた結果です。全体的にみると、7割以上の方が「受診した」と回答しており、その内訳は、「職場や学校の健康診断」27.9%、「市の健康診断」23.8%、「病院や診療所で個人的に受診」22.4%と続いています。健康診断を「受診していない」という人も全体の21.5%を占めています。

男女別にみると、男性より女性に「受診していない」という回答が多く、「受診した」人の内訳で見ると、男性の39.2%を占める「学校や職場の健康診断」が女性では19.9%と低く、その分が女性全体の受診率を下げているようです。女性、特に職場などの組織に所属していない家庭の主婦などは、男性に比べ受診の機会が少ないようです。

生活時間や家庭生活について

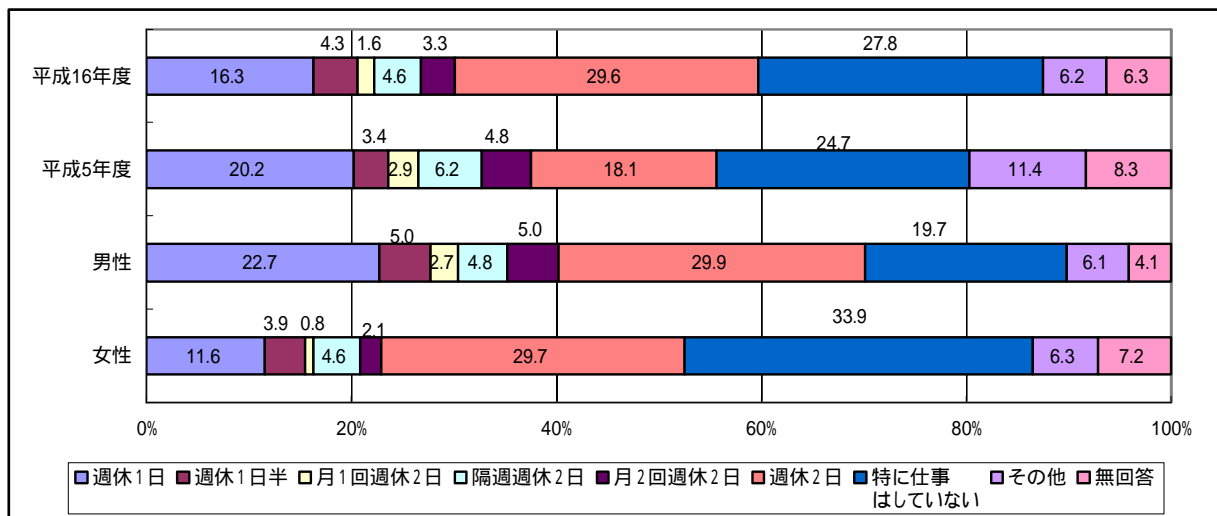
夫は残業、家庭のことは妻任せ

問 - 1 あなたは、通常、仕事を終えて何時頃帰宅なさいますか。【1つに○】



普段の日、仕事を終えて何時頃帰宅するかを聞いた結果を男女別に各年代ごとに集計した結果です。女性は、男性に比べ全ての世代で「18時以前」に帰宅しており、特に子育て世代と思われる30歳代においては、44.7%の女性が「18時以前」に帰宅していることがわかります。それに対し、30歳代の男性で「18時以前」に帰宅するという人は10.6%に過ぎず、「18時～19時」27.2%、「19時～20時」25.8%、「20時～21時」3%、「21時～22時」12.1%、「22時以降」7.5%となっており、女性に育児負担がかかっていることがわかります。

問 - 2 仕事の休みは、通常、週何日ですか。【1つに○】



全体で見ると、「週休2日」が29.6%と最も多く、「週休1日」16.3%、「隔週週休2日」4.6%、「月2回週休2日」4.3%と続いています。平成5年度に比べ「週休2日」という回答が18.1%から29.6%と大幅に増えており、「週休1日」が20.2%から16.3%と減り、「週休2日」が浸透したようです。

男女別に見ると、女性は「仕事をしていない」という回答が多くなっていますが、仕事をしている人の内では、男性で「週休1日」が22.7%と女性の11.6%に比べ多くなっています。

問 - 3 あなたは、普段の平日どのように過ごしていますか。

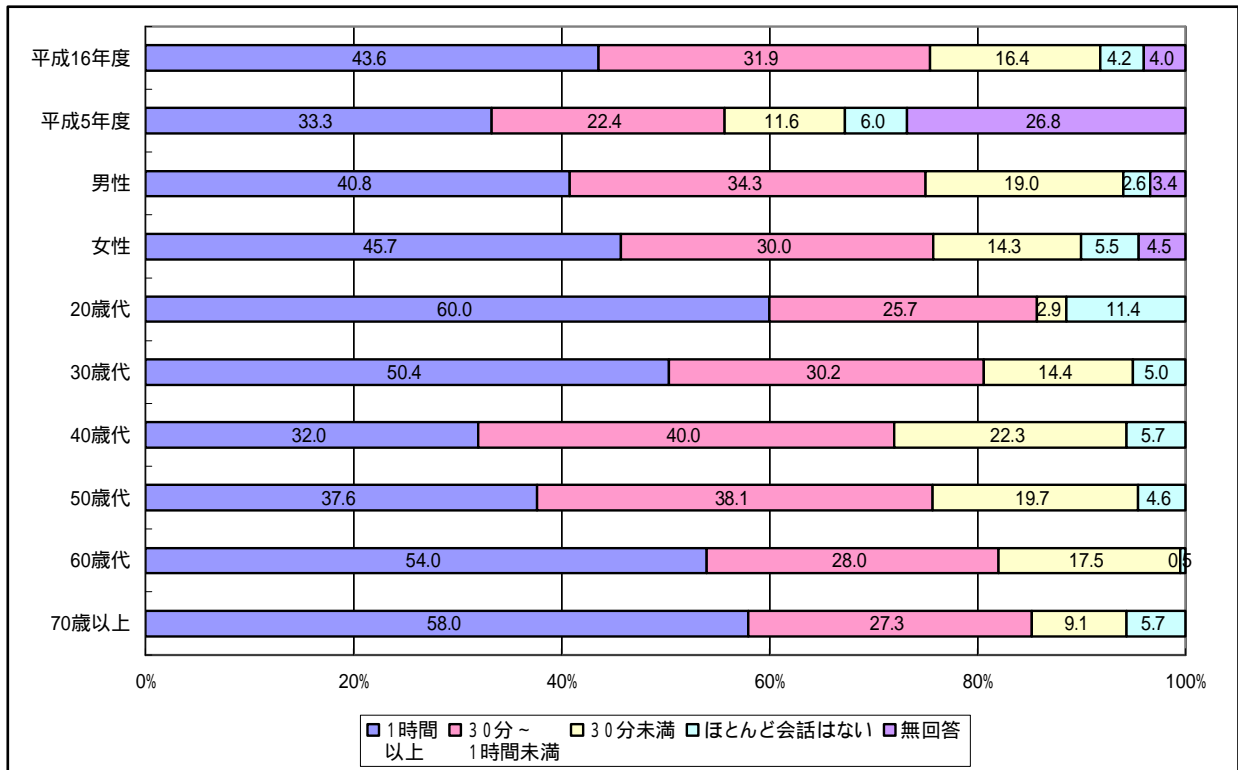
生活時間（平均値）

	男性	女性
睡眠時間	7時間11分	6時間57分
生理的必要時間(食事、入浴等)	2時間00分	2時間20分
仕事、学業(通勤・通学含む)時間	9時間16分	7時間15分
家事・育児等の時間	1時間21分	4時間19分
介護等の時間	0時間35分	1時間20分
余暇、自由時間	5時間00分	4時間25分

一日の生活時間を男女別に平均値で出したところ、特徴的なのは、女性の「家事・育児の時間」が男性よりも3時間程多いということです。確かに男性の「仕事・学業の時間」は女性に比べ2時間程多くなっていますが、「家事・育児の時間」の差を埋めるものではなく、また、「介護の時間」も女性の方が1時間近く多くなっています。これが男女の「余暇・自由時間」に影響し、女性のその時間は男性に比べ平均で35分ほど少なくなっています。

問 - 4 結婚している人にお聞きします。お宅では普段の日に、夫婦の会話の時間はどの位ありますか。

【1つに〇】



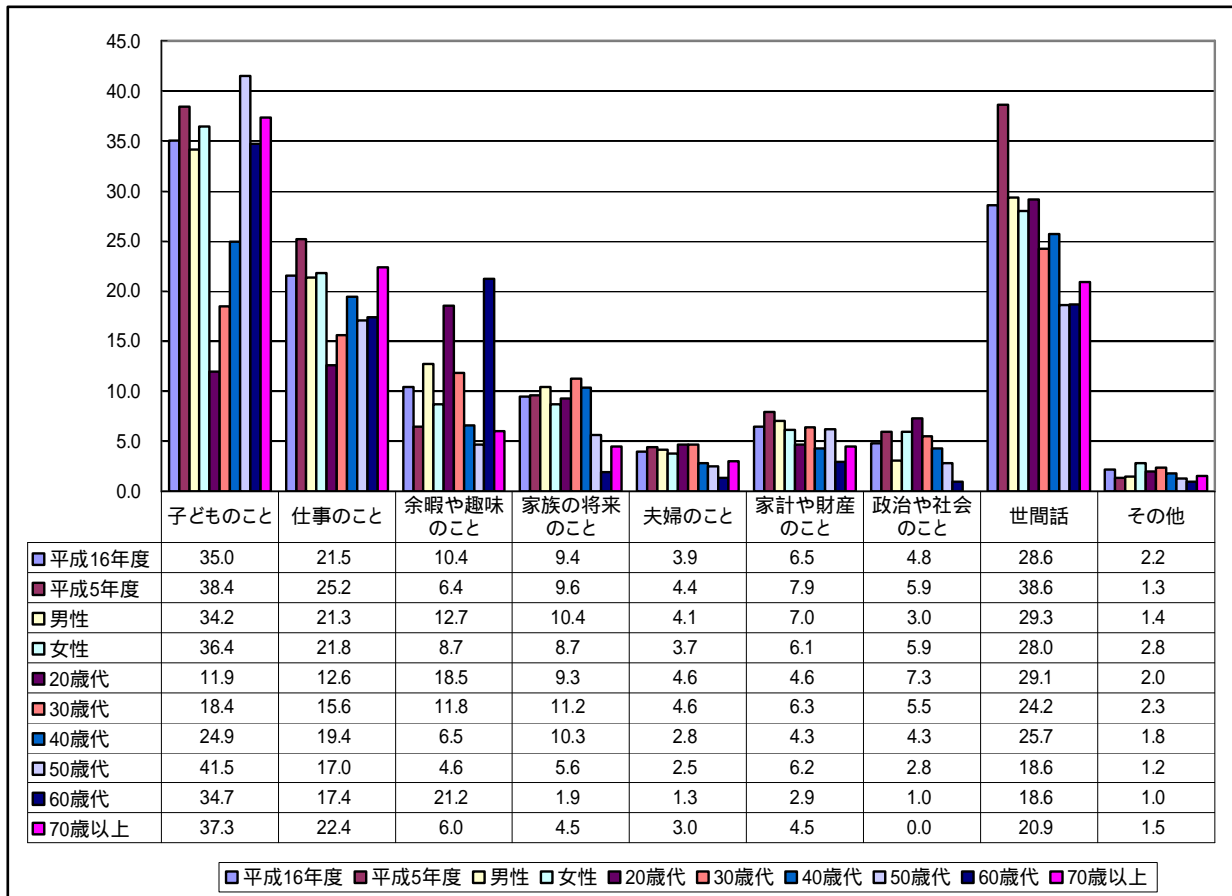
全体で見ると、「1時間以上」が43.6%と最も多く、「30分～1時間未満」31.9%、「30分未満」16.4%、「ほとんど会話はしない」4.2%と続いています。

男女別では、女性で「1時間以上」と回答している人が45.7%となっており、男性の40.8%を上回っています。逆に、「30分未満」と回答している人は、男性で19%、女性で14.3%となっており、女性の方が「夫婦の会話の時間」を長く感じているようです。

年齢別では、「1時間以上」と回答した人が40歳代で最低の32%となり、反対に「30分未満」「ほとんど会話はしない」との合計が28%と最も多くなっており、この年代が「夫婦の会話の時間」が最も短いようです。40歳代で落ち込んだ会話の時間が年代の上昇と伴に増えていくのがわかります。これは、退職や子育てが終ったことにより、夫婦で過ごす時間が増えた為ではないかと推測されます。

問 - 5 引き続き、結婚している人にお聞きします。では、会話の主な話題はどのようなことですか。

【2つまで〇】

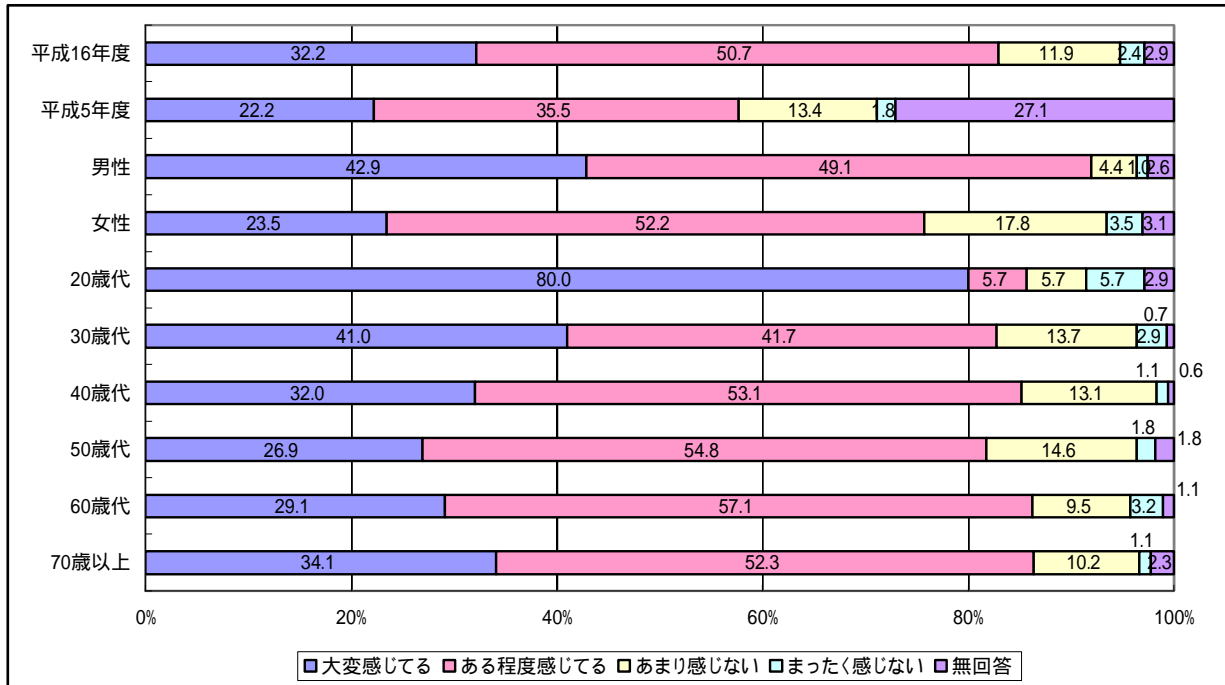


「夫婦の会話の話題」について2つまで回答してもらった結果です。全体的にみると「子供のこと」が最も多い35%、次に「世間話」28.6%、「仕事のこと」21.5%、「余暇や趣味のこと」10.4%、「家族の将来のこと」9.4%と続いています。

各項目別に見ていくと、「子供のこと」という回答が20歳代から40歳代で多く、20歳代37.3%、30歳代34.7%、40歳代41.5%となっています。それ以上の年代になると「子供のこと」という回答は少なくなります。「余暇や趣味のこと」については、30歳代で多く21.2%、40歳代、50歳代では、それぞれ、4.6%、6.5%と少なくなっています。「家族の将来のこと」については、20歳代から40歳代にかけては、あまり話題に上ることがないようですが、50歳代になると急に増えています。それ以外の「夫婦のこと」や「家計や財産のこと」「政治や社会のこと」などについては、それぞれ比率は低いものの、若い世代では少なく、年代が上がるにつれて増えていっています。

夫が思うほど妻は「思いやり」を感じていない

問 - 6 引き続き、結婚している人にお聞きします。あなたは、日常生活で配偶者（夫または妻）から「思いやり」を感じていますか。【1つに○】

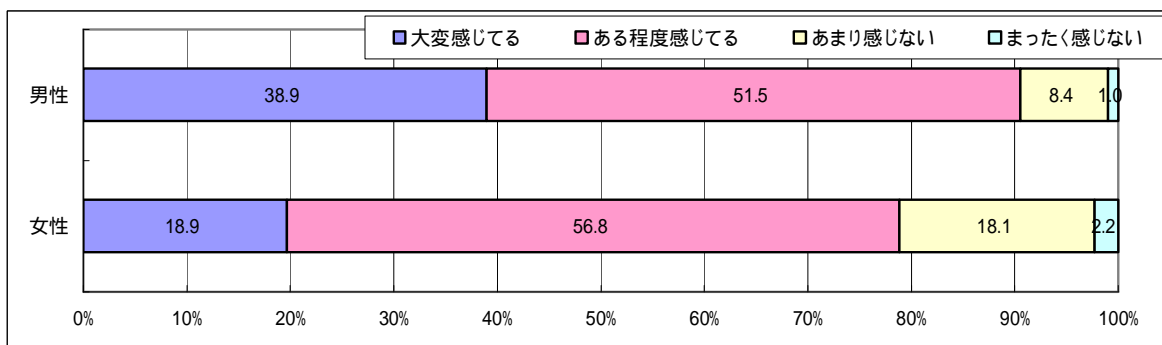


全体的にみると、「ある程度感じている」が最も多く 50.7%、「大変感じている」32.2%、「あまり感じない」11.9%、「全く感じない」2.4%と続いています。

男女別では、男性の 42.9%が「大変感じている」と回答しているのに対し、女性はその半分程度の 23.5%、また、「あまり感じない」「全く感じない」を合計すると、男性では僅か 5.4%であるのに対して、女性は 21.3%にもなり、男女間にかんがりの認識の違いが見受けられます。

年齢別にみえていくと、20歳代では80%が「大変感じている」と回答しているのが、30歳代で41%、40歳代で32%と減っていき、50歳代で最低の26.9%となり、60歳代で29.1%、70歳代で34.1%と増えていきます。また、50歳代では、「あまり感じない」「全く感じない」の合計が16.4%と30歳代の16.6%次いで多くなっています。

配偶者から思いやりを感じるか（50歳代男女別）

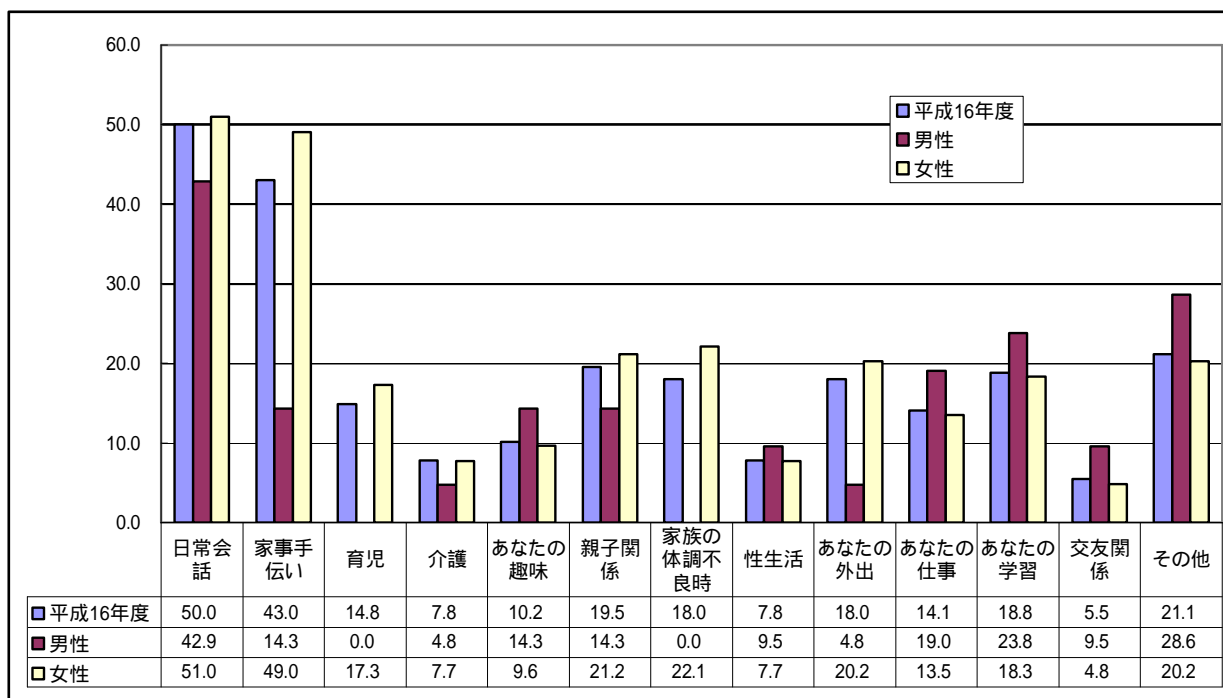


これは、「配偶者から思いやりを感じるか」という設問について50歳代のみ取り出し男女別に集計した

ものです。「大変感じている」は男性では 38.9%であるのに対し、女性は 18.9%、また、「(あまり)全く感じない」が女性で 20.3%、男性は 9.4%と男女間にかなりの認識の違いがあることがわかります。

夫の思いやり不足は、日常会話、家事・育児、家族の体調不良時、妻の外出

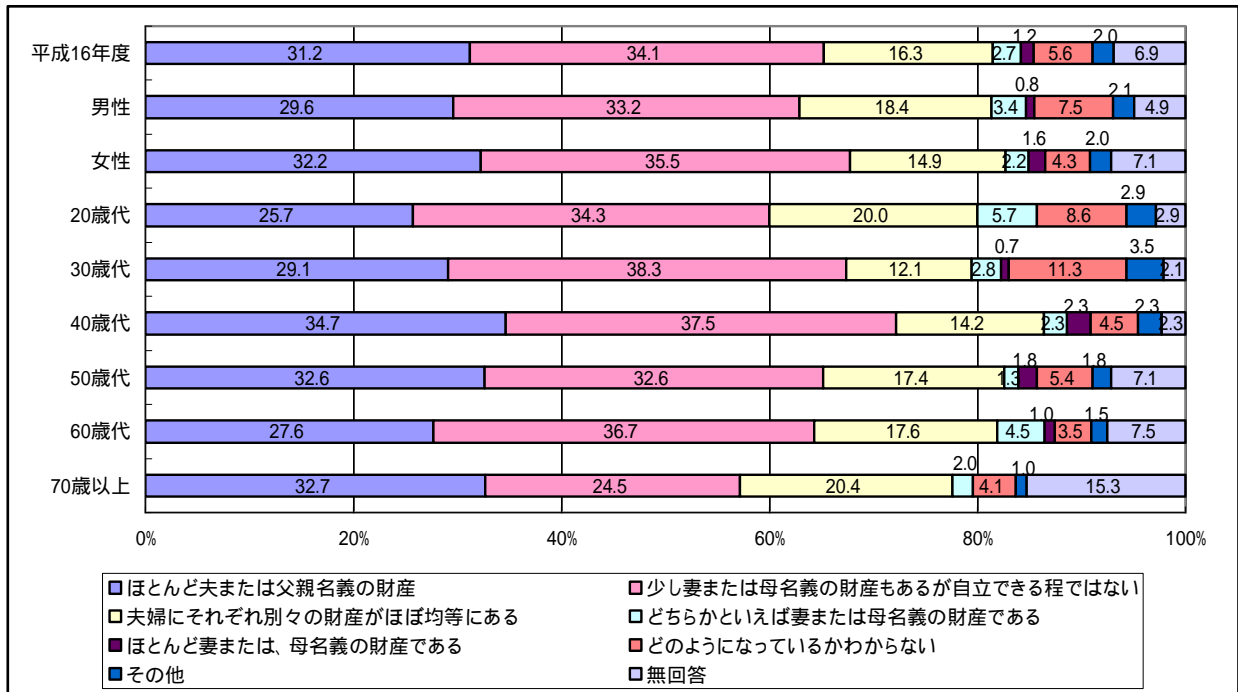
問 - 6 (1) どのところに配偶者には思いやりがないと感じますか。【あてはまるもの全てに○】



「日常生活で配偶者から思いやりを感じますか」という設問に「あまり感じない」「全く感じない」と回答した人に「どのようなことに思いやりがないと感じますか」と聞いた結果です。全体では、「日常会話」が 50%、「家事手伝い」43%、「親子関係」19.5%、「あなたの学習」18.8%、「あなたの外出」と「家族の体調不良時」が 18%となっています。

男女別では、女性の 49%が「家事の手伝い」と回答しているのに対し、男性は 14.3%、「育児」「家族の体調不良時」については、女性のそれぞれ 17.3%、22.1%が「思いやりがない」と感じているのに対し男性の回答はゼロになっています。また、「あなたの外出」についても、女性 20.2%、男性 4.8%となっています。男性が女性よりも「思いやりがない」と感じている項目は、「あなたの学習」「あなたの仕事」「あなたの趣味」等になっており、男女でかなりの違いが見られます。

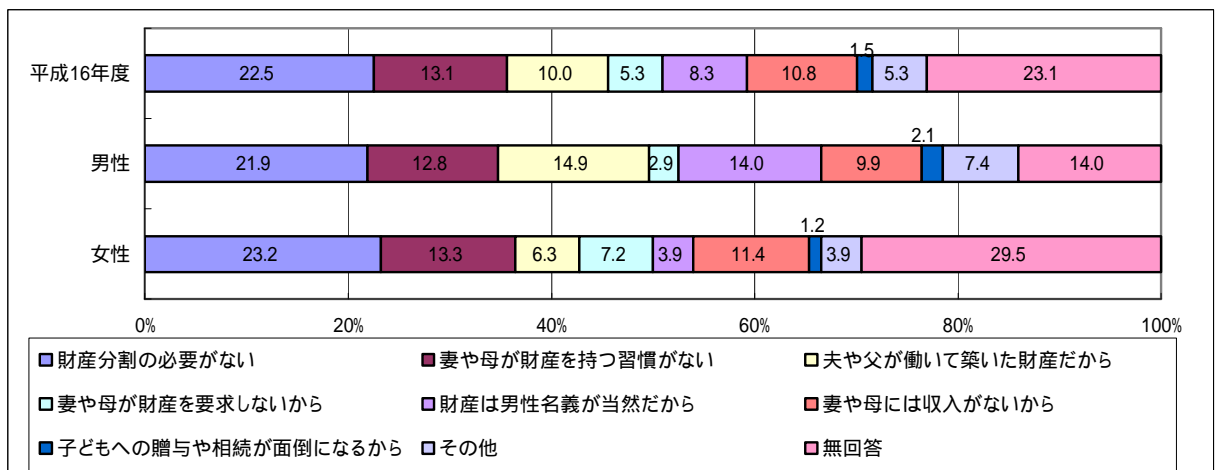
問 - 7 結婚している人にお聞きします。あなたの家庭では、妻または母の名義の「預金通帳」や「不動産」などの財産はありますか。【1つに○】



全体的に見ると、「少し妻または母名義の財産もあるが自立できる程ではない」が34.1%と多く、次に「ほとんど夫または父親名義の財産」31.2%となっており、「夫婦それぞれに別々の財産がほぼ均等にある」は16.3%過ぎません。また、「どうなっているのかわからない」という人も5.6%いるということも注目されます。

年齢別にも、全ての年代において、「女性が自立できる程度の財産を持たない」という現状が見えてきます。特に30歳代～40歳代で、その傾向が強いようです。

問 - 7 (1) 女性が財産を持たない理由は何ですか。【1つに○】

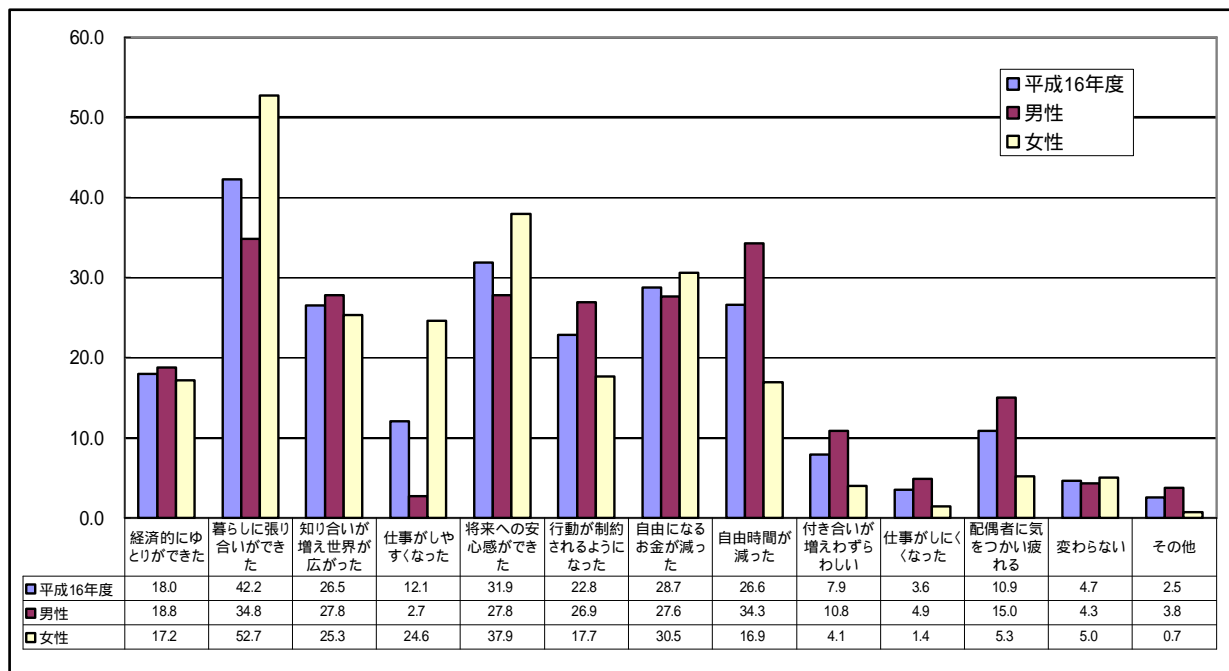


女性が財産を持たない理由を聞いた結果、「財産分割の必要がない」22.5%、「妻や母が財産を持つ習慣がない」13.1%、「妻や母には収入がないから」10.8%、「夫や父が働いて築いた財産だから」10%、「財

産は男性名義が当然だから」8.3%と続いています

男女別では、男性は「夫や妻が働いて築いた財産だから」が14.9%あるのに対し、女性は6.3%、同様に「財産は男性名義が当然だから」が男性14%、女性は3.9%と財産を持たない理由に対して男女でかなりの認識の違いがあるようです。

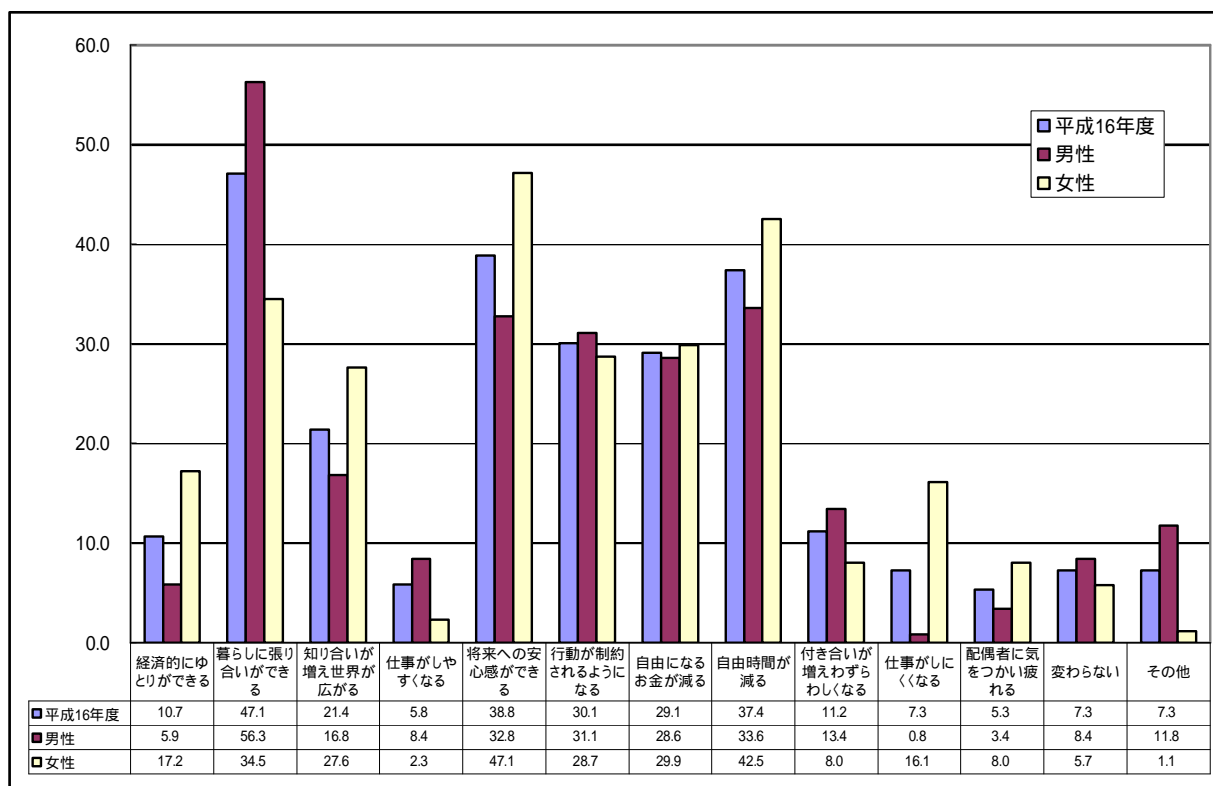
問 - 8 結婚している人、または、していた人にお聞きします。結婚して自分の生活がどう変わったと思いますか。【3つまで○】



「結婚して自分の生活がどう変わりましたか」という設問に対して男女別に集計した結果です。男性は、「暮らしに張り合いができた」52.7%、「将来への安心感ができた」37.9%、「仕事がしやすくなった」24.6%、「知り合いが増え世界が広がった」25.3%等、比較的結婚に対して肯定的な意見が多かったのに対し、女性は「自由時間が減った」34.3%、「行動が制約されるようになった」26.9%、「配偶者に気を使い疲れる」15%と結婚に対して否定的な意見も多く見られたことが注目されます。また、「仕事」に対しても男性では、24.6%が「しやすくなった」としているのに対し女性で「しやすくなった」と回答した人は僅か2.7%に過ぎません。

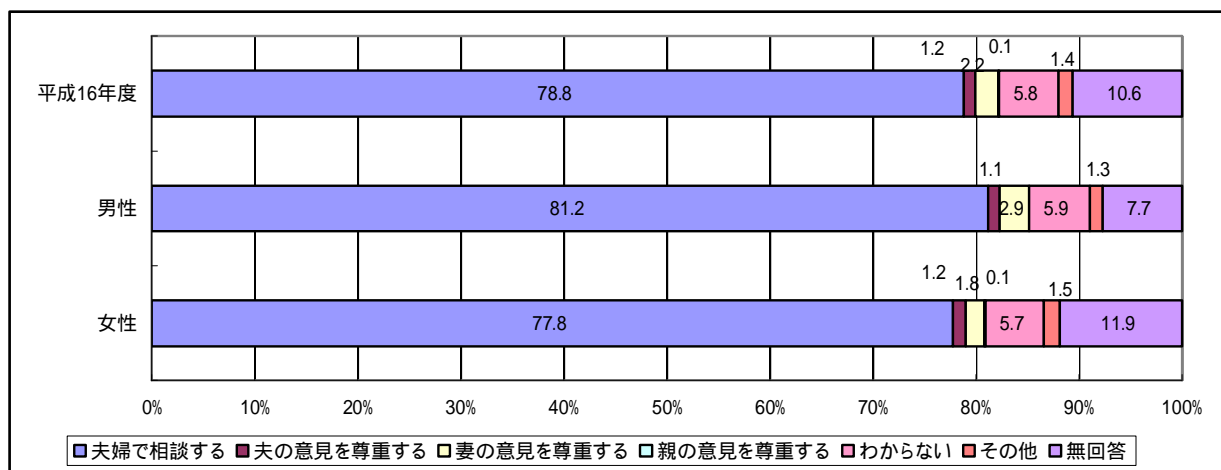
問 - 9 結婚していない人にお聞きします。結婚した場合、自分の生活がどう変わると予想しますか。

【3つまで○】



男女別に見ていくと、男性では、「暮らしに張り合いができる」56.3%「自由時間が減る」33.6%「将来への安心感ができる」32.8%、「行動が制約されるようになる」31.1%と続いており、女性は「将来への安心感ができる」47.1%、「自由時間が減る」42.5%、「暮らしに張り合いができる」34.5%、「自由になるお金が減る」29.9%となっています。女性に結婚に対して否定的な回答が多いというのは、実際に結婚している（いた）人に聞いた時と同様ですが、男性も、実際に結婚している（いた）人よりも結婚に対して否定的なイメージを持っているといえます。

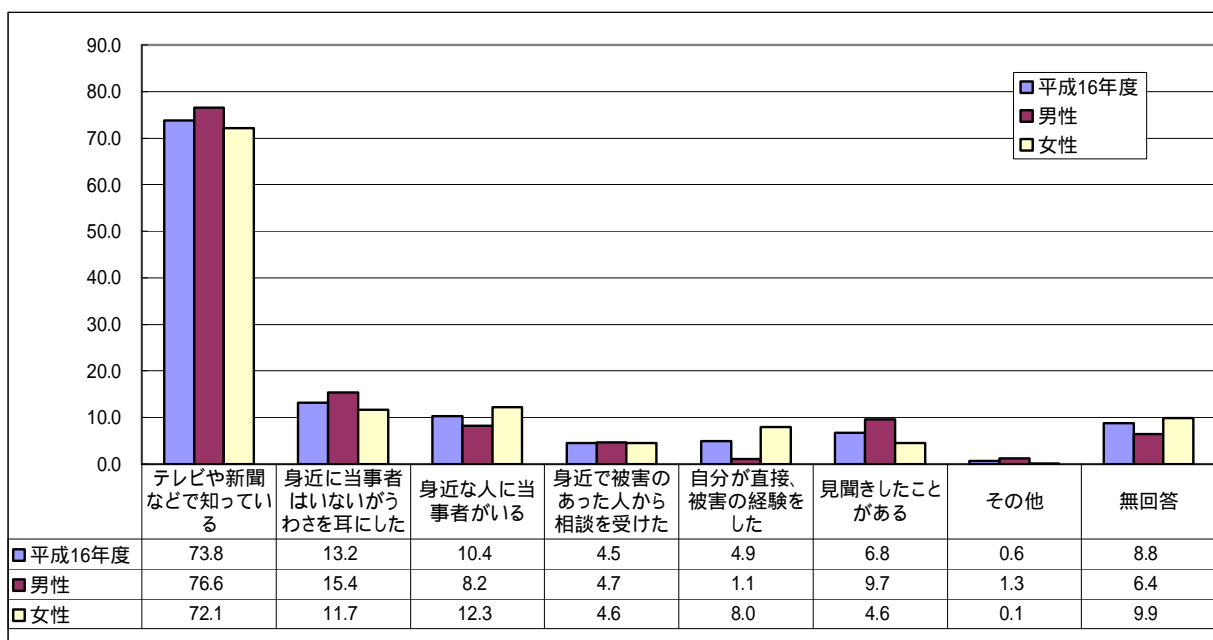
問 - 10 全員にお聞きします。子供を生むか、何人生むかなどは、どのように決めるのがよいと思いますか。【1つに○】



男女とも「夫婦で相談する」が男性 81.2%、女性 77.8%で大多数を占めており、それ以外の「夫の意見を尊重」(男性 1.1%、女性 1.2%)、「妻の意見を尊重」(男性 2.9%、女性 1.8%)を上げる人は、少数派です。

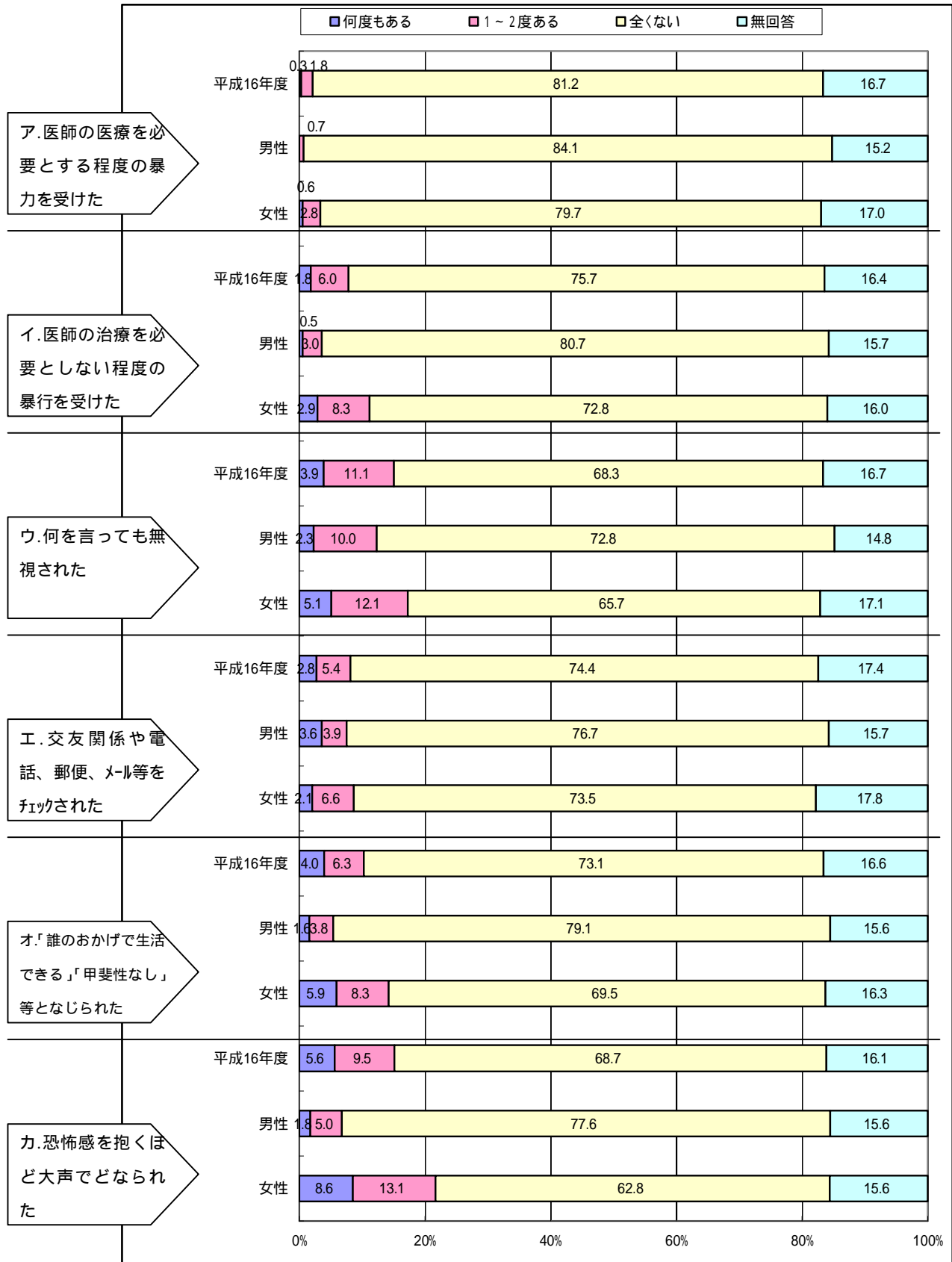
DV (ドメスティック・バイオレンス) 被害者が8%も

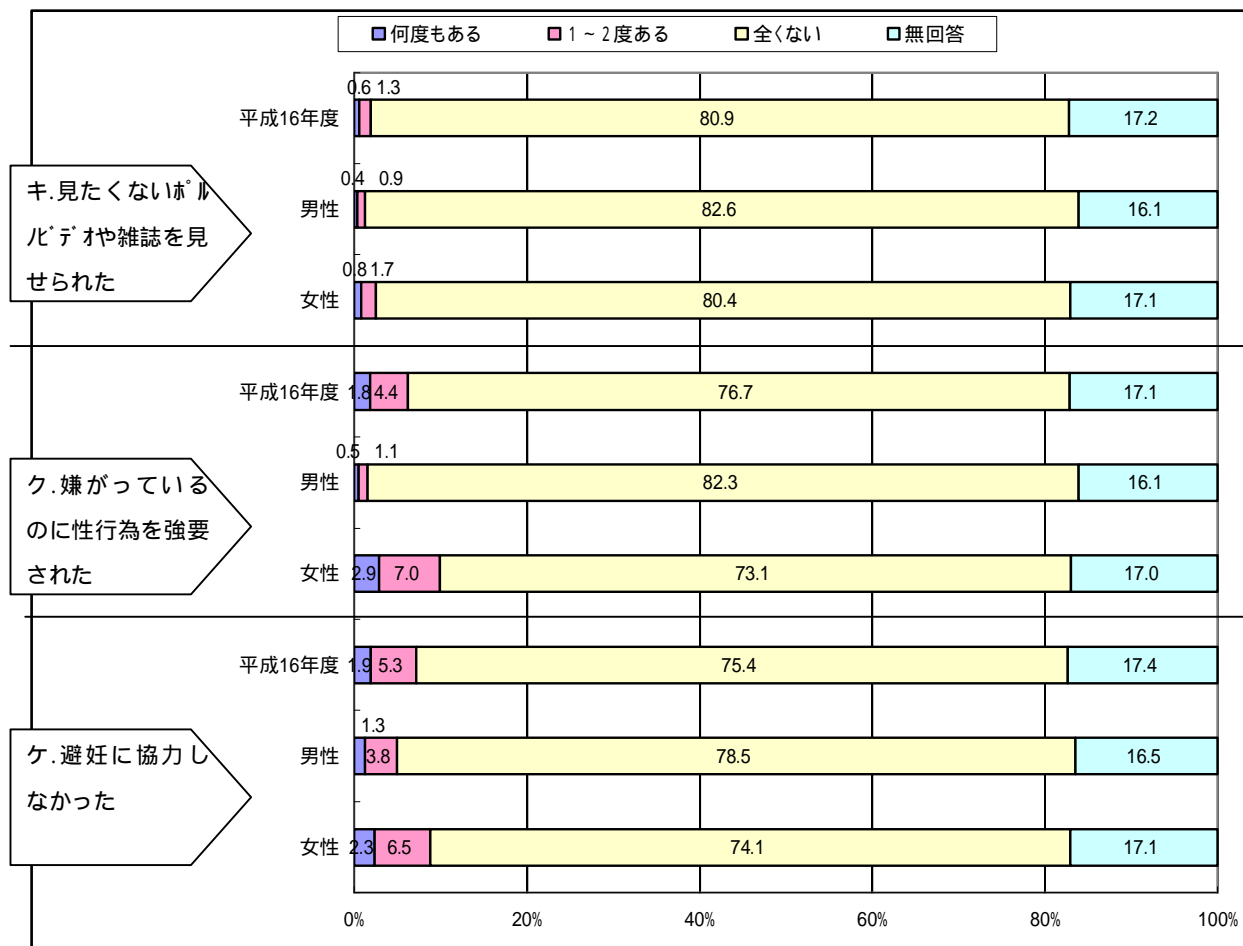
問 - 11 あなたは夫婦間(内縁、事実婚含む)や恋人の間での、乱暴な振る舞いについて見聞きしたことがありますか。【あてはまるもの全てに○】



DV (ドメスティック・バイオレンス。夫婦間・恋人間における暴力行為)については、「テレビや新聞などでは知っている」73.8%、「身近に当事者はいないがうわさを耳にした」13.2%、「身近に当事者がいる」10.4%となっています。この中で注目されるのは女性の8%、男性の1.1%が「自分が直接、被害の経験をした」と回答している点です。

問 - 12 あなたは身近な異性から次のようなことをされたことがありますか。【1つに○】

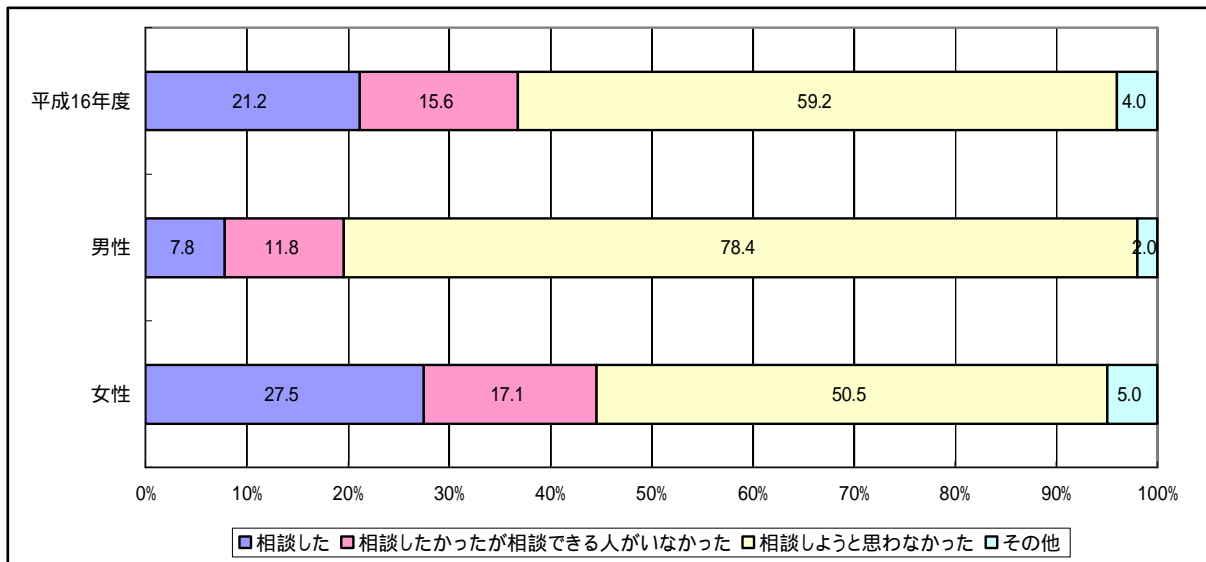




実際のDV（ドメスティック・バイオレンス）の状況について聞いた結果です。このなかで注目されるのは、女性の0.6%が「医師の治療を必要とする暴力を何度もうけた」また「1～2回受けた」という人も2.8%いると回答しており、また「医師の治療を必要としない程度の暴行」についても、女性の2.9%が「何度も」と回答しており、「1～2回」は8.3%と身体的暴力を受けているということです。また、「誰のおかげで生活できるのか」や「恐怖感を抱くほど大声でどなられた」等の「言葉の暴力」を受けた女性が20%前後に上がることがわかります。その他、「嫌がっているのに性的行為を強要された」や「避妊に協力しなかった」等の性的暴力を受けたという女性も10%前後いることがわかります。

DV被害者の7割は相談せず

問 - 13 問 - 12で「何度もある」「1～2回ある」と回答された方にお聞きます。その時、どなたかに相談しましたか。【1つに○】



夫婦間や恋人間で暴力を受けた時に、どうしたかを聞いたところ、全体では、「相談した」が21.2%、「相談したかったが相談できる人がいなかった」が15.6%、「相談しようと思わなかった」が59.2%となっています。

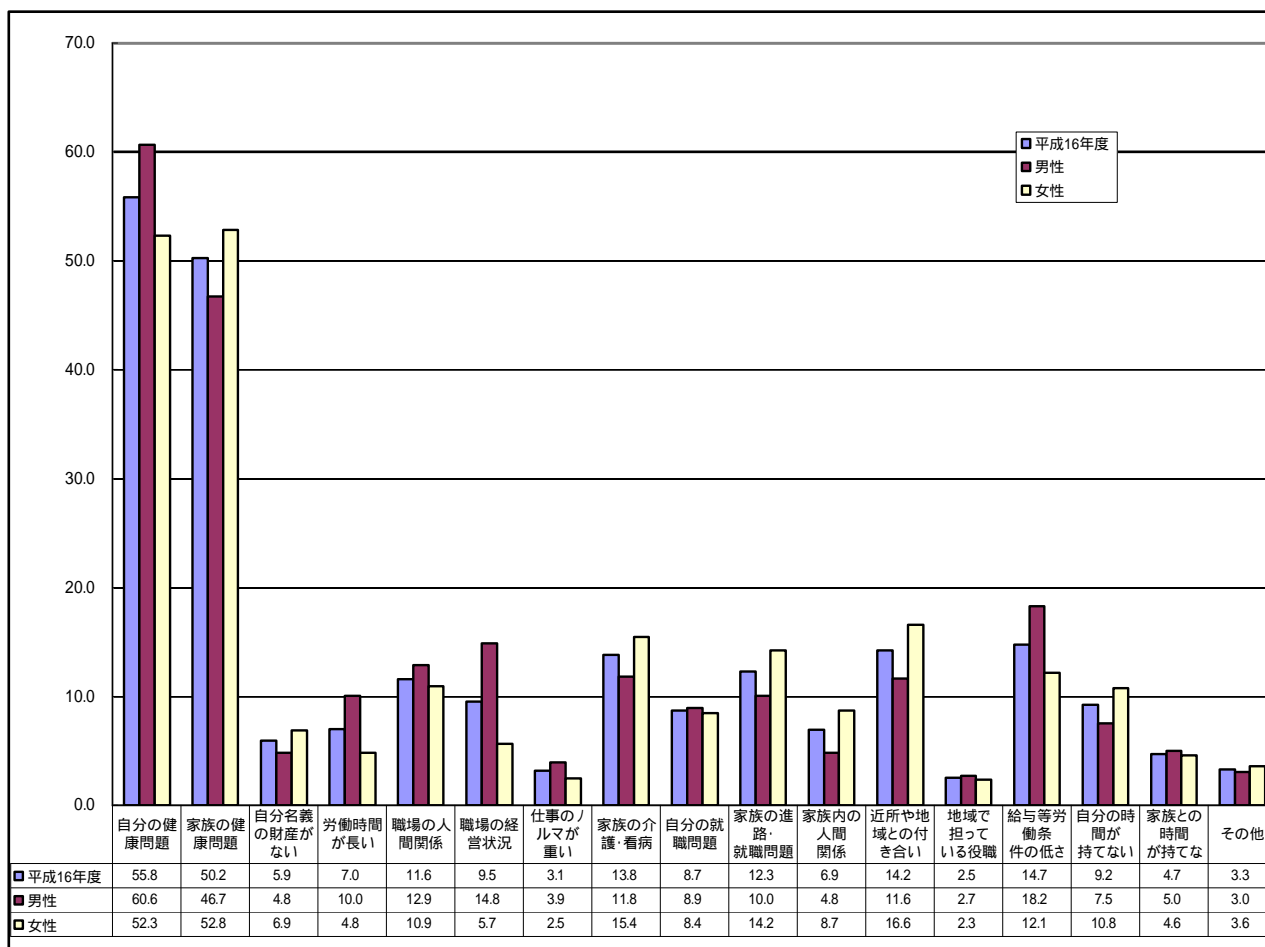
女性では、27.5%が「相談した」と回答しているのに対し、「相談したかったが相談できる人がいなかった」が17.1%、「相談しようと思わなかった」50.5%で、約7割近くが誰にも相談することなく泣き寝入りしている実態が見て取れます。

生活や仕事全般について

仕事上に不安な男性、地域・家庭に不安な女性

問 - 1 あなたは、生活したり働いていく上で、どのような課題や不安がありますか。

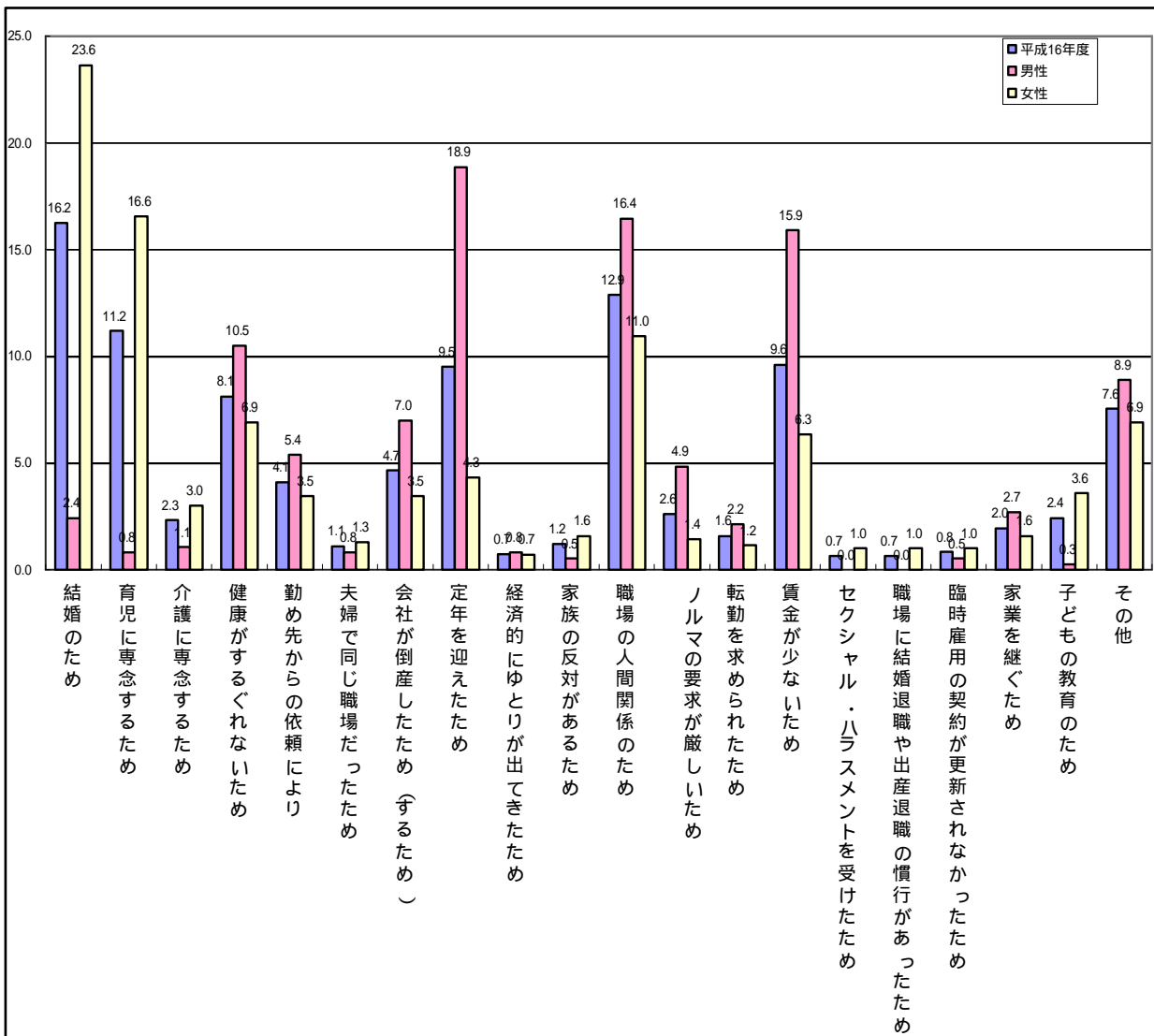
【特に重要なもの3つに○】



全体的に見ると、「自分の健康」をあげる人が55.8%と最も多く、「家族の健康問題」50.2%、「給与等労働条件の低さ」14.7%、「近所や地域との付き合い」14.2%「家族の介護・看病」13.8%等が続いています。

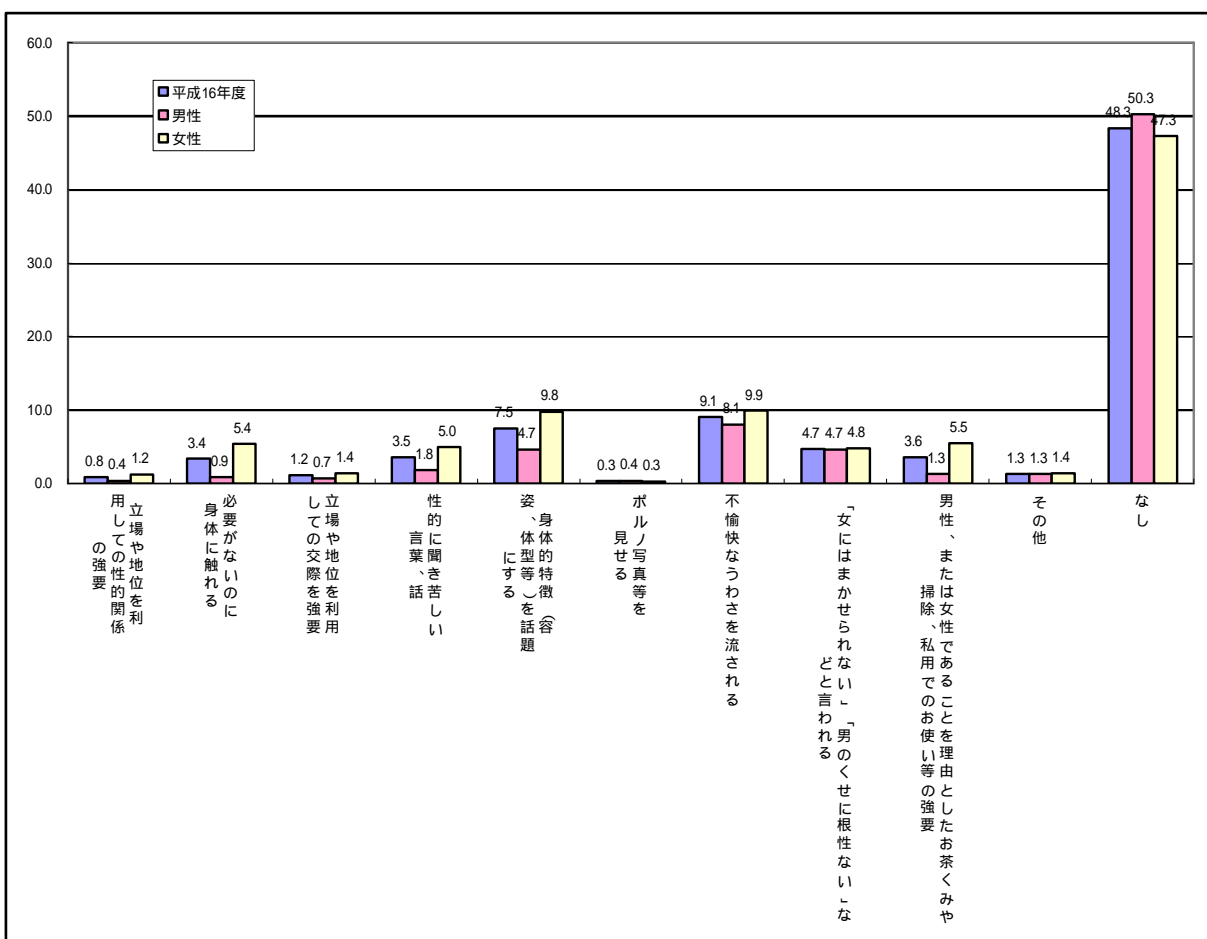
男女別に見ていくと、男女とも「自分の健康」(男性60.6%、女性52.3%)や「家族の健康問題」(男性46.7%、女性52.8%)を上げている点は共通していますが、それ以外の項目については、男性が「給与等労働条件の低さ」18.2%、「職場の経営状況」14.8%、「職場の人間関係」等、仕事上の問題点を上げているのに対して、女性は、「近所や地域との付き合い」16.6%、「家族の介護・看病」15.4%、「家族の進路・就職」14.2%と地域や家庭の問題を上げています。

問 - 2 職場を辞めた経験のある方、または、現在辞めたいと考えている方にお聞きします。その理由は何ですか。【あてはまるもの全てに○】



仕事を辞めた(辞めたいと考える)理由を男女別に見ていくと、男性は、「定年を迎えたため」が最も多く18.9%、次いで「職場の人間関係」16.4%、「賃金が少ないため」15.9%、「健康がすぐれないため」10.5%、「会社が倒産したため」7%、「ノルマの要求」4.9%と比較的仕事をしていく上での理由を上げています。それに対して女性は、「結婚のため」23.6%、「育児に専念するため」16.6%、「職場の人間関係」11%、「健康がすぐれないため」6.9%、「賃金が少ないため」6.3%など、男性と比べ、家庭の事情によって、退職しているということがわかります。

問 - 3 全員にお聞きます。あなたは、これまで身近なところ（学校、職場、地域、家族）で次のような言葉や行為で不愉快な思いをしたことがありますか。【あてはまるもの全てに○】



身近なところ（学校、職場、地域、家庭）でのセクシャルハラスメントについて聞いたところ、全体的には、半数近くの方が「なし」と回答していますが、「不愉快なうわさを流される」9.1%、「身体的特徴（容姿、体型等）を話題にする」が7.5%、「女にはまかせられない、男のくせに等言われる」4.7%。「男性、女性であることを理由としたお茶汲みや掃除の強要」3.6%、「必要がないのに身体に触れる」3.4%等が実際の被害として上がっています。

男女別に見ると、いずれの項目においても、男性よりも、女性の方が「被害にあった」と回答した人が多くなっています。

各設問に対する「その他意見」の取りまとめ

- 問 - 3 . 共働き家庭では、家事や育児の分担をどのようにするのがよいと思いますか。
- ・ ケース・バイ・ケースでお互いに分担を話し合い、互いに協力する
 - ・ 思いやりの心で相手の様子を見ながらする。
 - ・ 育児については、夫が在宅時には積極的にする。
- 問 - 2 . 子育てを終えた方も、また、お子さんのいない方も、現在、あなたに未成年のお子さんがいると仮定してお答えください。
- (1) あなたは、お子さんにどの程度の教育を受けさせたいと思いますか。(男の子の場合)
- ・ 本人の意思にまかせる
 - ・ 子どもの希望は賛成し協力する
 - ・ 外国大学等
- (2) あなたは、お子さんにどの程度の教育を受けさせたいと思いますか。(女の子の場合)
- ・ 本人の希望にまかせる
 - ・ 外国大学
 - ・ 研究所まで
- 問 - 1 . 女性の方のみお答えください。ご自分はどのように生きていきたいとお考えですか。(お考えでしたか。)
- ・ 子どもが小学校に入学してから働いた方がよい
 - ・ 必要に応じて職業を持つ
 - ・ 年を取っても働けるうちは働きたい
 - ・ 状況による
 - ・ 働く必要がなければ職業は持ちたくない
 - ・ 手に職を持ち一生独身でいる
- 問 - 1 (1) もし、あなたが管理職になるよう求められたら引き受けますか。(女性のみ)
- 1 . 引き受ける理由
- ・ 職業を通じて社会に貢献できる。
 - ・ 責任感を持って仕事をしているので、男性、女性関係ない。
 - ・ 管理職になるよう求められるのであれば、できるだけのことをしたい。
 - ・ 自分の活躍できるチャンスだから。
 - ・ 自分の可能性を試したい。
 - ・ 女性だからと甘えは禁物。
 - ・ 女性でもいきている証をつくりたい。
 - ・ 人間としての自信や子どものための人生ではなく、自分の人生として一生を過ごしたいから。
 - ・ 回りからの期待に答えたい。自分自身の立場を理解し、自信を付けたい。
 - ・ 給与が良さそうだから。

2. 引き受けない理由

- ・ 家庭と仕事の両立は難しいから。
- ・ 子どもとの時間により重点を置きたいから。
- ・ 都留市内の会社では、育児をしながらの管理職というのは回りが認めないと思うから。
- ・ 管理職になるための鍛錬を積んでいないので自信がない。
- ・ リーダーとしての自信がない。
- ・ 自分にそれだけの力量がない。負担が大きくなる。
- ・ 大変そうだから。

問 - 2. 男性の方のみお答えください。ご自身の配偶者(妻)にはどのようなことを望みますか。(望んでいましたか。)

- ・ 本人(妻)の意思にまかせる。
- ・ 育児は両者の責任。話し合いの上、両者が納得いく形を求める。
- ・ 共働きなら子どもが生まれたら男女に関らずどちらかが家庭に入るほうが良い。

問 - 2(1) もしあなたの妻が管理職になるよう求められたら、引き受ける事を薦めますか。

1. 引き受けることを薦める理由

- ・ 男女平等。
- ・ 仕事に責任を持ってほしい。
- ・ 仕事をする以上は責任ある立場を目指すべき。
- ・ 管理職は男性だけのものではない。
- ・ 能力があると認められたのだから引き受けるべきである。
- ・ 子どもに対しての模範となる。
- ・ 反対する理由がない。

2. 引き受けることを薦めない理由

- ・ 家庭が犠牲になる。
- ・ 大変だから。
- ・ 管理職になると休みが取りにくくなるから。
- ・ 仕事が主になって欲しくない。

問 - 3. あなたは、女性が長く働き続けるために何が必要だとお考えですか。

- ・ 男性がもっと家庭の仕事や育児に参加するよう教育する必要がある。
- ・ 職場・会社が子どもを持つ女性に対し理解し雇用することが必要。
- ・ 能力に応じた処遇。
- ・ 地域の協力

- 問 - 4 . あなたは、現在の職場あるいは以前働いていた職場（自営業を含む）で何か悩みや不満に思っている（いた）ことがありますか。
- ・ 人事の不公平。
 - ・ 有給休暇が取りづらい。
 - ・ サービス残業の強要
 - ・ 特に女性に対し黙が好まれ、意見・考えを言うことが嫌われる傾向が職場にあった。
 - ・ 職場に喫煙者がいる。
- 問 - 3 . あなたは、社会的活動をする上で、最も課題だと思うことは何ですか。
- ・ 日祭日、週休 2 日の完全実施
- 問 - 2 . (ア) あなたは、条件が許せば、老後はどのように暮らすのが理想的だと思いますか。
- ・ 福祉の充実した外国で暮らす。
 - ・ 自分一人で暮らしたい。(夫とは一緒に暮らしたくない)
 - ・ 先のことなのでまだわからない。
- 問 - 7 . 結婚している人にお聞きします。あなたの家庭では、妻または母名義の「預金通帳」や「不動産」などの財産はありますか。
- ・ 財産は無い。
 - ・ 財産は息子名義になっている。
 - ・ 不動産は夫、預金は妻。
- 問 - 7 (1) 女性の財産を持たない理由は何ですか。
- ・ 相続した財産のため。
 - ・ 収入に応じて持たないと税金問題もあるため。
 - ・ 「夫や父が働いて築いた財産だから」と夫は思っているから。
 - ・ 夫が財産を分割してくれない。
 - ・ あまり気にしていない。どちらの名義にしる、家族全員の財産だと考えている。
 - ・ 偶然
- 問 - 8 . 結婚している人、または、していた人にお聞きします。結婚して自分の生活がどう変わったと思いますか。
- ・ 妻・母としても充実した時間が過ごせるようになった。
 - ・ 自分自身が成長できた。
 - ・ 家族ができて、幸せな気持ちを持てるようになった。
 - ・ 経済的にゆとりがなくなった。
 - ・ 同居のため、義父母、義兄弟との関係で精神的に疲れる。
 - ・ 精神的にゆとりがなくなった。

問 10. 全員にお聞きします。子どもを生むか、何人生むかなどは、どのようにして決めるのがよいと思いますか。

- ・ 教育費がかかるので経済力による。
- ・ 自然にまかせる。
- ・ 生めるだけ生みたい。

問 - 11. あなたは、夫婦間（内縁、事実婚含む）や恋人の間での、乱暴な振る舞いについて見聞きしたことがありますか。

- ・ 自分自身が暴力を振るってしまった。
- ・ 自分の親がそうだった。

問 - 13. 問 - 12 で 1・2 に回答された方にお聞きします。その時どなたかに相談しましたか。

- ・ 相談したかったが、その人に心配をかけると思い、できなかった。
- ・ 相談ではなく話を聞いてもらっただけだった。
- ・ 裁判離婚した。

問 - 1. あなたは、生活したり働いていく上で、どのような課題や不安がありますか。

- ・ 将来の生活への不安
- ・ 交通が不便なこと。
- ・ 子どもが保育園に入園できない。
- ・ 子どもの世話をしてくれる人がいない。
- ・ 子どもの結婚問題。
- ・ 子どもの病気。

問 - 2. 職場を辞めた経験のある方、または、現在辞めたいと考えている方にお聞きします。その理由は何ですか。

- ・ 独立開業するため。
- ・ 子どもの病院・参観等のための遅参、早退が認められなかったため。
- ・ 他に希望の職種が見つかったため。
- ・ 子どもを取り巻く環境が変化し、子どもの安全のため仕事より子どもを見ていなくてとは、思ったため。
- ・ 夫の転勤のため。
- ・ 仕事が合わなかった。
- ・ 子どもの病気のため。

問 - 3. 全員にお聞きします。あなたはこれまで身近なところ（学校、職場、地域、家族）で次のような言葉や行為で不愉快な思いをしたことがありますか。（ありましたか。）

- ・ 他人の家の事に干渉された。
- ・ 家族へのいやがらせ。

- ・ 学生の髪型、服装の自由のなさ。
- ・ 職場でいじめにあった。
- ・ 職場で男女の処遇にかなりの開きがあった。
- ・ 職場で年寄り扱いを受けた。
- ・ 子どもだからと言ってバカにされた。

男女共同参画に対する自由意見取りまとめ

○家庭生活に関すること

- ・ 子供が学校等から帰宅した時、母親は家に居てあげるべきだと思う。私自信の妻は働いているが、妻が仕事にやりがいを持って仕事をしているのであれば別だが、そうではなく収入のために働いているのであれば、家に居させてやりたいです。(せめて、子供が小学生の間は、誰もいない家へ帰宅させるのは心が痛い)(男性)
- ・ 夫婦で長生きできるのが最高の幸せだと思う。(女性)
- ・ 夫婦仲良く、家族、近所、皆仲良く嘘のない町を築くのが理想だと思う。男女の差がなく協力して良い家庭社会を作ることができたらと思う。(男性)
- ・ 男性が家事をすることについてどう思うかは、男性でも女性でも、手の空いている方がすばいと思います。育児に関しては、男女共同とはいっても、女性(母親)にしかない温もりがあると思う。子供を大切に育てて欲しい。(女性)
- ・ 家族全員健康で居れば一番の幸せ。(男女無回答)
- ・ 男女平等といっても層は行かないと思います。夫も、もしもの時、あるいは老後を考えると、家事や育児に参加した方がいいと思う。(女性)

○仕事に関すること

- ・ 男女平等といってもそれぞれに適した仕事があると思うので一概に平等とは言えないと思う。事実、同じ仕事をしていても給与等の待遇面で差があることは事実だ。市役所も年功制ではなく、仕事の内容で決めるべきだと思う。市内では、大学を卒業しても働く場が少ない。若い人が仕事に付けないのであれば、未来は暗い。(男性)
- ・ 不景気で、今時、保証してくれる会社は何処にもない。低給だろうとなんだらうと仕事を選べる時代ではない。(男性)
- ・ 仕事をしたいと思っても保育園に入れない。また、保育園の入園に関して不平等があるように思われるので、入園の申し込みを市役所だけにしたい。また、保育園に求職中の人も入園できるようにしたい。(女性)
- ・ 私は、子育てが終わった時点で、就職し定年まで勤め終えたので、現在は年金などで悠々自適に日々を過ごしています。そんな経験から、老後の為に、これからの若い女性は趣味と実益を兼ねた仕事を見出して欲しい。(女性)
- ・ 都留市には、あまり職場がなく、特に女性が定年まで常勤で働ける場所が少なく、経済力等の面からも、なかなか平等になれないと思う。(女性)
- ・ 若い力、年配の力等が、都留市のなかで働く場所があることによって、市の活気、発展に役立つと思います。(女性)
- ・ 過去に男性と同じ職場に居た時には、掃除当番もお茶当番も皆一緒にで、管理職にも女性が存在し、「男女共同参画」という言葉がピンとこない。男性からも命令的な言葉は掛けられず、見下されることもなかった。むしろ女性だけの職場の方が人間関係で疲れた。(女性)

- ・ 都留市は働けるような事業所が少ないような気がする。そんな状況の中で外国人を雇用している事業所があるようだが、先ずは、都留市の労働力を優先して雇用していくような方法を考えて欲しい。(女性)
- ・ 仕事の場所も保育所も、増やして欲しい。(女性)
- ・ 働きたいが年齢的にだめ。65歳以上の高齢者が働ける場所を市で設けて欲しい。

○地域社会について

- ・ 若い人達の間には、男だから女だからの境界が薄れ、共力(協力)して、家庭、社会をつくって行く方向に進んでいくと思う。高齢者同士もお互いに助け合いながら生活し、共同社会が出来るといいと思う。
- ・ この地域には、男尊女卑や、古い固定観念が有形無形に存在している。まず、市役所が男の役割、女の役割という従来の古い考えから脱却し、行政を行って欲しい。(女性)
- ・ これから少子化が進んでいく中で、地域活動などにおいて昔からの仕来りじみたものを変えて欲しい。地元の話ではどうにもならないので、市からの決定というような強い力が必要だと思う。(男性)
- ・ 地域社会の活動(スポーツ、文化、趣味)も遠くだと誰かに送ってもらわなければならない、わずらわしい。近くに(町ごと単位で)サークル活動や健康体操等を企画してもらえれば参加したい。(女性)

○男女共同参画について

- ・ 男尊女卑でもなく女尊男卑でもない本当の男女平等を望む。男女平等ということは、施策ではなく教育で個人の意識の改善を図るべきだと思う。元より大人が子供に言える程意識が高いとは思っていないが。(男性)
- ・ 男女共同参画は、しばしば間違った理解がされがちなので、専門家の意見を聞き、よく考えた方がいいと思う。また、過度にこればかり考えてしまうと、文化そのものを否定することになり、新たな社会問題となることも考えられるのでその点は気を付けた方がいいと思う。全国的にみると、少々やり過ぎな所がみられる。(男性)
- ・ 男女共同参画社会とは、男女に助け合いの気持ちが生まれるような社会を作ることだと思う。(男性)
- ・ 固定資産税の納付書などに、世帯主の名前の他は「他 - 名」となっている。男女共同参画を宣言しているのであれば、それは手落ちだと思う。(女性)
- ・ 男女共同参画の中で「男は男らしく、女は女らしく」という考えは絶対的の基本の考えでなくてはならないと思う。それをふまえて、1人1人が人間らしく生きることが大切だと思う。自分らしさ、役割をみんなが認識し合って社会を作って行く事を子供たちに教えていかなければならない。(女性)
- ・ 男女平等意識が強すぎて、男性の側が不利益を被るケースがある。(男性)
- ・ ジェンダーフリーという言葉だけ掲げて、理解に苦しむ男女平等政策だけは実施して欲しくない。男女の身体的特徴、違いがある以上、それを無視するような政策は意味がないと思う。(男性)
- ・ 働く女性ばかりを応援している印象がある。男女共同参画を訴えると、専業主婦の地位が無くなっていくように感じる。専業主婦も大切な職業の一つであることも強調して欲しい。(女性)

- ・ 生きていくことや生活上で男の人でなければ、女の人でなければできない物事はあると思う。でも、人間としては、男性だから、女性だからこうしなくてはいけないという考え方はないと思う。
(女性)

○高齢化社会について

- ・ 老後、自分1人になったり、または、夫婦で高齢になっても現在の場所で暮らしていけるよう家庭支援など取り組んでいただきたいと思う。(女性)
- ・ これからの高齢者は施設で見守ってもらえない時代の流れになっていると思うので、高齢者を受け入れる色々な施設をつくっていくべきである。(男性)

○ドメスティック・バイオレンスについて

- ・ ドメスティック・バイオレンスの被害に遭い、警察に行ったが、何もしてくれなかった。(女性)